

授業科目名	表現文化論			
担当教員名	川島秀一			
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	講義中心、他に作品の討論、鑑賞文、批評文の作成など。			

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「漱石文学がもつ〈表現文化〉の創造性と可能性」－漱石文学がもつ〈表現文化〉の価値は、今も新しく、いろいろな課題を現代に提示しています。漱石の没後百年、昨年は朝日新聞での作品の再掲載なども話題になり、漱石世界の読み替えや価値の再確認が盛んに行われ、その余波は今も続いています。この授業では、近代が発見した〈小説〉という表現形態を手掛かりとして、漱石文学が果たした〈表現文化〉としての役割や意味について考えます。漱石の表現世界を単に読むだけではなく、自らの内に鑑賞し味わい、体験してみましょう

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	日本における種々の表現様式の理解を含めて、漱石が創造した〈表現文化〉の創造性を学ぶ。	〈小説〉という表現形式を通して、〈表現文化〉の働きや意味について理解する。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		小説という表現文化の学びを通して、その批評性のうちに自らが生きる状況と課題を発見する
2 . DP7. 完遂		テキストの主體的な分析を通して、その問題を理解し、まとめ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
小レポート	: 授業内容の理解度、問題への主體的な関心度に、レポート自体の構成力、論理性などを加味して評価する。
30%	
期末レポート	: 授業全体の総合的な理解度、指示された問題への理解度と本人の主體的な意見・関心の深度を参考に、総合的に評価する。
50%	
受講状況	: 発表や討論への参加の積極性、振り返りシートにみられる授業への関心度などを総合的に判断する。
20%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
夏目漱石	・ 坊っちゃん	・ 新潮文庫	・ 2016年
夏目漱石	・ ころ	・ 新潮文庫	・ 2015年

参考文献等

蒲生芳郎著『漱石を読む－自我の孤立と愛への渇き』（洋々社）などは、漱石文学へのわかりやすい解説書として参考になる。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。作品については、常に手元に置き、読解に努めること。他の作品についても、関心を持って読み進めてほしい。討論にも、無関心にならず、積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期火曜4時限・後期金曜3時限
場所： 個人研究室（西館4階）

備考・注意事項：授業前後の質問も歓迎しますが、その他質問したい場合は、Eメール(アドレス：rivhide@fancy.ocn.ne.jp)でも可能。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の目的、意図の共有ー〈近代〉における〈表現文化〉の意味 授業全体の取り組み、方法、また授業の目的や意図するところを説明する。講義についての意識を共有しながら、〈近代〉という時代についても話し合う。 想像力の働きに関して、次の授業のためのプリントを配布する。	シラバスの再確認。次週のプリントを読む	4時間
第2回	〈読むこと〉と〈書くこと〉ー〈想像力〉の役割 〈読むこと〉や〈書くこと〉の意味を考えながら、配布したプリントにもとづいて、〈想像力〉の働きや役割について一緒に考え、〈想像力〉をめぐって、私たちの置かれている状況についても話し合い、理解する。 問題を整理し理解するために、〈感想文〉を書く。	資料の問題の再確認。〈感想文〉の継続。	4時間
第3回	文学表現とジャンル 問題の前提として、短歌や俳句などの伝統的な表現形式も含めて、文学的表現のジャンルを振り返る。 短歌や俳句の技法的特色を手掛かりに、その〈表現文化〉の特色を、実際の鑑賞も含めて理解する。	問題点、ノートを整理する。	4時間
第4回	〈小説〉の発見と〈近代読者〉の成立 〈小説〉という表現形式が、〈近代〉の登場とともに成立したものであることを学びつつ、〈小説〉独自の特色や意味についても理解する。あわせて、〈近代読者〉の成立についても理解する。	問題点、ノートの整理。『坊っちゃん』を読み始める。	4時間
第5回	〈表現者〉の誕生ー漱石の場合 処女作『吾輩は猫である』などの資料を配布しながら、漱石が〈近代〉の〈表現者〉として誕生する過程を理解する。あわせて、漱石が作家として、近代という時代と文化を内に受容していく過程を理解する。	『坊っちゃん』を読むことを継続。	4時間
第6回	〈読むこと〉の実践ー『坊っちゃん』の批評性 登場人物の行動を通して、近代文化や時代の実態を理解し、〈表現文化〉がもつ〈批評性〉について理解する。〈表現文化〉にとって批評精神（批評性）が重要な要素であり、創造性のかなめであることを理解する。	問題の整理、継続して『坊っちゃん』を読む	4時間
第7回	〈読むこと〉の実践ー『坊っちゃん』の悲哀 作品の結末の表現に特に注意しながら、〈表現文化〉として語りだされる近代人の内面世界について考える。 内面世界の発見と表現は、近代における小説表現にとっての重要な要素であることも合わせて理解する。	『ころ』を読み始める。『坊っちゃん』の問題の整理	4時間
第8回	『坊っちゃん』についてのまとめ 小さなまとめ（節目）として、『坊っちゃん』という作品について話し合い（グループディスカッション）を行い、成果を簡単な〈鑑賞文〉としてまとめる。（第1回目の小レポートとして提出）	討論内容、課題の整理。〈鑑賞文〉の継続	4時間
第9回	『ころ』の世界への導入 『坊っちゃん』以後の作品をわかりやすく解説しながら、漱石の表現世界のテーマがどのように発展していくのかを考える。（『三四郎』などについて、プリントを用意）	『ころ』を読み進める	4時間
第10回	〈読むこと〉の実践ー『ころ』・〈私〉の現在 〈私〉と〈先生〉の物語を読み取りそこに込められる若者や時代へのメッセージを理解する。心のつながりの可能性についても考える。	問題の整理。『ころ』を読む（継続）	4時間
第11回	〈読むこと〉の実践ー『ころ』・近代と・自我的人間像 先生とKという二人の人間の物語を理解しつつ、〈表現文化〉として提示する普遍的な近代像やそこに生きる人間たちの苦悩の普遍性について理解する。あわせて、近代の表現文化の中に立ち現れる〈自我的人間像〉についても理解する。	『ころ』を読む、『門』『行人』を読む（補助学習）	4時間
第12回	『ころ』についてのまとめ 登場人物たちの闘いや苦悩について議論（グループディスカッション）し、のちに〈批評文〉に整理する。（第2回目の小レポートとして提出）	批評文の継続、最終レポートに備えて、問題を整理	4時間
第13回	日本における〈表現文化〉の継承 漱石的課題とその表現世界が、それ以後、例えば芥川龍之介などの中に〈表現文化〉としてどのように継承され、展開していくのかを考える。本講義の補足としたい。 漱石の晩年の思想にも触れてみる。	期末レポートの準備、芥川の『羅生門』などを読む	4時間
第14回	〈表現文化〉の創造性ー漱石と日本の近代文化 漱石のテーマの普遍性に触れながら、そこに実現される〈表現文化〉の創造性と意味について理解する。	最終レポートを書く	4時間
第15回	まとめー自己評価・〈表現文化〉を体験して 講義に参加しての評価（自己評価を含めて）をまとめを文章にする。 最終レポートの提出	しっかりと、講義全体の問題点と課題を整理する。	4時間

授業科目名	English Communication 1				
担当教員名	平敷亮子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	テキストの内容に沿ってペアワークやグループワークなどを取り入れながら、英会話の練習を行います。また練習問題に解答しながら、リスニング・リーディング・語彙・文法知識の強化を図ります。さらに、授				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

テキスト「Smart Choice」を用いて実用的な英語力の養成を目指します。特にリスニングとスピーキングに重点を置いて、コミュニケーション能力の向上を図ります。英文を正確に理解してインプットするだけでなく、口頭練習や英作文を通してアウトプットを行うことにより、習得した知識を活用しながら幅広い自己表現が出来るようになります。また、英語の文章を文法に即して読んだり、書いたりする訓練も行います。そして学期末には筆記試験を実施すると共に、日頃の学習の成果として、全員の前で数分間の英語のスピーチをしてもらいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	① 英会話力やリスニング力の向上 ② 実践的な英語力の養成 ③ 異文化理解	① 英語でコミュニケーションを行うために必要な英語の技能を習得しながら、自分の知識を活用できるようになる。 ② 異文化に対して理解を深める。
汎用的な力		① 様々な場面に応じた英語表現を用いながら、お互いにコミュニケーションを取れるようになる。 ペアワーク・グループワークの際には、異なる価値観を持つ人々の意見をよく聞いて理解し、相手の考えを尊重しながら自分の意見を述べることにより、会話や議論を発展させられる。 学期末に英語のスピーチ原稿を作成し、全員の前で発表できるようにする。
1 . DP8. 意思疎通		
2 . DP9. 役割理解・連携行動		
3 . DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

テキストの内容に沿って授業を進めていきます。練習問題を通して英語の音声やリズムに慣れてもらいつつ、重要表現や聞き取りのポイントを学習します。また、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れながら発話練習も行います。さらに、Unitのポイントとなる文法事項や語彙を学んだ後に読解問題に解答します。Unitが一つ終わるごとに復習テストを行って習熟度合を確認すると共に、学期末に前期のまとめとして最終課題（スピーチと筆記試験）を課します。テキスト以外の教材も適宜用いる予定です。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

毎週、テキストの練習問題を一人ずつ指名して答えてもらい、その発表内容を評価します。またペアワークやグループワークで会話練習を行い、発表してもらった後にコメントします。また、一つのUnitが終わる毎に復習テストを行いますが、復習テストは採点した後に回収し、点検してから返却します。学期末のスピーチ・筆記試験に関しても、個別に採点して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎時間出席して下さい。規定回数以上の出席がなければ「不可」または「S」（再履修）になります。欠席回数には、欠席のほか遅刻・早退・途中退出も含まれます。（成績評価方法の詳細は最初の授業で説明します。）

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講態度（出席状況・持参物・マナー）	15%	① 授業の出席状況や授業への取り組みの姿勢を評価します。 ② テキストや辞書を忘れた場合には、1回につき1点ずつ減点します。 ③ 受講態度に問題がある場合には、1～5点の減点を行います。
授業内発表（予習・復習状況・学習意欲・英語力）	15%	① リスニング・会話練習・英文和訳などの発表を、予習・復習状況を見ながら評価します。特に英会話の発表では、積極性・発想力・協調性なども考慮します。 ② 他の受講者と比較して英語力がある場合には2・3点
授業内課題（スピーチ・復習テスト・映画のレポート）	20%	① 英文（100～150words）の「自己紹介」のスピーチを書き、その原稿を暗記して全員の前で発表してもらいます。スピーチの内容や発表の姿勢を評価します。 ② 復習テストの点数や映画のレポートなどの提出状況
最終課題	50%	① テキストの内容についての筆記試験を行います

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	「Smart Choice」－Level 1 Student Book A with Multi-ROM (first edition)	Oxford University Press	2007年

参考文献等

毎時間、辞書を持参すること。（英和辞典・和英辞典の両方があるのが望ましいです。）

ジーニアス英和辞典・和英辞典（大修館書店）などの英語辞典

履修上の注意・備考・メッセージ

- ① グローバルコミュニケーション学科1回生の必修科目です。このクラスに指定された学生のみ履修を許可します。
- ② 本科目は1単位の必修科目であり、受講生の英語力にもよりますが、毎回2時間程度の予習・復習の時間が求められます。授業で学んだ内容を復習すると同時に、次回の授業で進む箇所を丁寧に予習しておいて下さい。
- ③ 英会話の授業なので、授業で扱うトピックについて自分自身で考えて、積極的に発言するように心がけて下さい。また、ペアワークやグループワークでは、他の人の意見をよく聞いて、相手と協力して会話を作り上げる姿勢を大切にして下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後（金曜日 3時限目）
場所： 授業教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業方針・内容・成績評価方法の説明. Unit 0 Essential English ・クロスワードパズルなどの簡単な単語テストを行う。 ・授業で使える英語表現を学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。	・Unit 0全てとUnit 1の前半を予習しておく。 2時間
第2回	Unit 1 Nice to meet you! (1) ・自分自身や友達を紹介するときに使う英語の表現を学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 ・be動詞・代名詞について学ぶ。 ・単語問題・文法問題に解答する。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 1の後半を予習しておく。Unit 0を復習する。 2時間
第3回	Unit 1 Nice to meet you! (2) ・リスニング問題・読解問題に解答する。 ・英会話の練習を行う。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 2の前半を予習しておく。・Unit 1を復習する。 2時間
第4回	Unit 2 What do you do? (1) ・Unit 0の復習テストを行う。 ・仕事に関する表現を学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 ・疑問詞について学ぶ。 ・単語問題・文法問題に解答する。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 2の後半を予習しておく。 2時間
第5回	Unit 2 What do you do? (2) ・リスニング問題・読解問題に解答する。 ・英会話の練習を行う。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 3の前半を予習しておく。・Unit 2を復習する。 2時間
第6回	Unit 3 Do you like noodles? (1) ・Unit 2の復習テストを行う。 ・好き嫌いに関する表現を学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 ・現在形について学ぶ。 ・単語問題・文法問題に解答する。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 3の後半を予習しておく。 2時間
第7回	Unit 3 Do you like noodles? (2) ・リスニング問題・読解問題に解答する。 ・英会話の練習を行う。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Reviewを予習しておく。・Unit 3を復習する。 2時間
第8回	Review (Units 1~3) ・Unit 3の復習テストを行う。 ・Reviewに解答する。 ・英会話練習を行う。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。	・Unit 4の前半を予習しておく。 2時間
第9回	Unit 4 How often do you do yoga? (1) ・スポーツに関する表現を学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 ・頻度を表す副詞について学ぶ。 ・単語問題・文法問題に解答する。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 ・スピーチ（「自己紹介」）について書きたいことを考える。	・Unit 4の後半を予習しておく。 2時間
第10回	Unit 4 How often do you do yoga? (2) ・リスニング問題・読解問題に解答する。 ・英会話の練習を行う。 ・洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 ・スピーチ（「自己紹介」）の原稿を書き始める。 (100~150words)	・Unit 5の前半を予習しておく。・Unit 4を復習する。 2時間
第11回	Unit 5 What are you watching? (1)	・Unit 5の後半を予習しておく。 2時間

	<ul style="list-style-type: none"> Unit 4の復習テストを行う。 動作を表す表現について学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 現在進行形について学ぶ。 単語問題・文法問題に解答する。 洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 スピーチ（「自己紹介」）の原稿の続きを書く。 		
第12回	Unit 5 What are you watching? (2) <ul style="list-style-type: none"> リスニング問題・読解問題に解答する。 英会話の練習を行う。 洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 スピーチ（「自己紹介」）の原稿を推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 6の前半を予習しておく。 Unit 5を復習する。 	2時間
第13回	Unit 6 Where were you yesterday? (1) <ul style="list-style-type: none"> Unit 5の復習テストを行う。 過去を表す表現について学び、ペアワーク・グループワークなどを行いながら練習する。 過去形について学ぶ。 単語問題・文法問題に解答する。 洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 スピーチ（「自己紹介」）の原稿を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 6の後半を予習しておく。 スピーチ（「自己紹介」）の原稿を完成させて暗記し、発表できるようにしておく。 	5時間
第14回	Unit 6 Where were you yesterday? (2) (※スピーチテストあり) <ul style="list-style-type: none"> リスニング問題・読解問題に解答する。 英会話の練習を行う。 洋画の1つの場面を取り上げて英語のセリフなどを学ぶ。 スピーチテストを行う。自分のスピーチの原稿を暗記して、クラス全員の前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1～6を復習する。 	5時間
第15回	最終課題 (※筆記テストあり) <ul style="list-style-type: none"> 前期の授業内容を確実に理解して覚えているかどうかを確認するために、プログレスチェック（筆記試験）を行う。 前期を通して見た洋画の英語のセリフや内容について、意見交換を行う。 	前期の授業やスピーチの内容を思い出しながら再度復習を行い、知識や技術を確実なものにする。	3時間

授業科目名	English Communication2				
担当教員名	尾形加奈美				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。英語をツールとして様々な身近な話題に触れながら、リーディング、リスニング、スピーキングそしてライティングの4技能をバランスよく鍛える。まず、グループディスカッションの実施により、スピーキングとリスニング力を養成する。また、ディスカッションの準備として、授業で扱うトピックに関連するテキストを読んだり聞いたりすることで、リーディングとリスニング力をつける。さらに、授業で話し合った内容をレポートとしてまとめることでライティング力の育成も目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	英語理解の能力	英語をツールとして、場面や状況を踏まえて自分に必要な情報を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語表現の能力	英語をツールとして、自分の考えや感情を他者へ適切に伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP9. 役割理解・連携行動		異なる価値観を尊重する姿勢を持ち、他者と協力して自らの学びを深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	20%	： 授業内で小テストを実施する。主に授業で扱った語彙やイディオムが評価対象である。小テストの範囲は初回授業で提示する。
レポート	40%	： 授業内で話し合った内容、又は与えられたトピックに関する自分の意見をレポートとして提出してもらう。
授業への貢献度	40%	： ①ディスカッションやスピーチの内容や取り組み姿勢を評価する。 ②各回授業で与えられる授業内課題の完成度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
John and Liz Soars	American Headway2	OXFORD University Press	2015年

参考文献等

課題に取り組む上で英文法の知識が必要になった時は、石黒昭博『総合英語Forest 7th Edition』（桐原書店、2013年）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

備考・注意事項：授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける(ogata@osaka-seikei.ac.jp)。
メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	Course Orientation / Getting to know each other - An introduction to the course - Introducing yourself	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing about your colleagues 1時間
第2回	Whatever makes you happy1 - Talking about your perfect day - Exchanging information (p.147 and p.149)	- Studying in preparation for a quiz- Listening to the CDs - Comparing your perfect day and others' 1時間
第3回	Whatever makes you happy2 Talking about your happiness	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Researching the life of someone rich and famous in the news (p.14) 1時間
第4回	What's in the news?1 - Telling the class about the life of someone rich and famous that you have researched - Talking about the news	- Studying in preparation for a quiz- Listening to the CDs - Finding a news story that interest you 1時間
第5回	What's in the news?2 - Telling the class about the news that interest you - Talking about losing your cool	- Studying in preparation for a quiz- Listening to the CDs - Building a story (p.102) 1時間
第6回	Eat, drink, and be merry! 1 Talking about a good diet	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs 1時間
第7回	Eat, drink, and be merry! 2 Talking about a restaurant	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing an email to a friend (p.104) 1時間
第8回	Looking forward 1 - Arranging the meeting time - Talking about someone in their twenties	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing about future plans (p.105) 1時間
第9回	Looking forward 2 Acting out a conversation	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Practicing talking about future plans 1時間
第10回	The way I see it 1 - Telling the class about your future plans - Talking about who you are like in your family	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing about your hometown (p.106) 1時間
第11回	The way I see it 2 Talking about a new country	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing about someone from a different country 1時間
第12回	Living histroy 1 - Telling the class about someone from a different country - Talking about the adventure you have experienced	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs 1時間
第13回	Living histroy 2 Talking about your family history	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Ordering paragraphs (p. 107) 1時間
第14回	Girls and boys 1 Talking about successful people	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs 1時間
第15回	Girls and boys 2 Talking about the Cafearo & Tibbett families	- Studying in preparation for a quiz - Listening to the CDs - Writing a formal letter or an informal email (p.108) 1時間

授業科目名	文章表現法				
担当教員名	川島秀一				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	文章を書く実習にプレゼンテーション、討論等を加える。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

（美しく正しい日本語を書こう）美しく正しい日本語を表現する能力は、大学生活にとって特に大切なこととなります。入学すればすぐに、学問的なレポートなどの提出が求められ、また整った説明文や意見文などが日常的に求められます。あるいは、日常的な生活の場にあっても、大学生らしい文章や手紙の書き方などは、大切な〈教養〉として身につけていなければなりません。日本語の基本的な書き方を、改めて学んでみよう。特に、説得力のある論理的な文章を書くことは、大学生であることの基本的な条件です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	正確な意見文を書く。あわせて各自の課題に沿って、プレゼンテーションを行う。	3000字程度を目標に、説得力のある論説文を書くことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	言葉に対する専門的知識や技能を身につける。	就職での面接など、今後経験するであろう自己アピール力や自己表現力を実践的に習得する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自分の文章の問題や課題を発見する。
2．DP5. 計画・立案力		課題を立案計画し、プレゼンテーションを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の作業・提出物	40%	: 授業内での問題が理解され、成果として達成されているかどうかによって評価する。
プレゼンテーションの評価	30%	: 資料の内容を含めて、課題が達成されているかどうか、またグループの共同作業として、その意図が実現されているかどうかによって評価する。
最終レポート	30%	: プレゼンテーションの成果を、説得力のある論説文として表現されているかどうかによって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国語表現法研究会編	・ すぐに役立つ 国語表現	・ 学術図書出版	・ 2015年

参考文献等

中村明『悪文一裏返し文章読本』（ちくま新書）
日頃の自分の文章を振り返るには、格好の参考書です。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期火曜4限・後期金曜3限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業前後の質問も歓迎しますが、その他質問したい場合は、Eメール（アドレス：rivhide@fancy.ocn.ne.jp）でも可能。

⋮

⋮

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業のガイダンス・〈読むこと〉〈書くこと〉の大切さ 〈文章表現法〉の意味や目的、その重要性について、問題意識を共有する。授業の内容についても、十分に理解する。	シラバスの確認。自己アピールのポイントの確認・準備	4時間
第2回	自己紹介の仕方 自己のアピールを含めて、実際に自己紹介する。	自己紹介のための情報を整理し、次の授業に備える。	4時間
第3回	〈自己紹介文〉を書く 最初の文章として、〈自己紹介文〉を書く。提出後、簡単な添削を行い返却する。	自己紹介文の完成と推敲（提出）	4時間
第4回	日常的文章の点検―〈悪文〉主語、述語の不对応など文法的検証 主語と述語の対応など、文法的な誤りを正しながら、文章を訂正、推敲する。自己の文章の反省と点検の作業。	テキスト、プリント等の練習問題	4時間
第5回	日常的文章の点検―〈悪文〉ダラダラ文などの検証 内容を分解しながら、構成の正しい文章に訂正、推敲する。文を構成する基本を習得する。	テキスト、プリント等の練習問題	4時間
第6回	討論の仕方を学ぶ グループに分かれて、ディベートや討論を実践する。司会の役割や、議論への参加、発表の仕方などを学ぶ。	ここまでの授業のノート、問題の整理と確認	4時間
第7回	手紙の書き方 与えられた条件のもとで、敬語の使い方も学びながら、いろいろな種類の手紙を書く。手紙文の基本的な体裁、形式を習得する。	課題の手紙文を書く（提出）	4時間
第8回	説明文を書く 文章の構成の仕方を確認しつつ、説明文の基本的書き方を学ぶ。	課題文の練習	4時間
第9回	プレゼンテーションのガイダンス・プレゼンテーションの意味・方法について 1 2 回目からの授業にそなえ、プレゼンテーションの意味、方法、評価の仕方などを確認。グループに分担する。プレゼンテーションのサンプルを提示。	グループごとの基本的な打ち合わせ	4時間
第10回	初級的意见文を書く レポートの書き方を念頭に、基本的な意見文を書く（初級編）。個々の文章を添削して、返却する。プレゼンテーションのグループは、自分たちが発表する課題を明示する。	課題文の練習、プレゼンテーションの打ち合わせ	4時間
第11回	発展的意见文を書く 反対意見も含めて、論証的な意見文を書く（応用編）。1 5 0 0 字程度の文章を目標とする。文章を添削して返却する。	課題文の練習、プレゼンテーションの準備。	4時間
第12回	プレゼンテーション（実践と評価）（A・Bグループ） 2、3人のグループによってプレゼンテーション（1グループ10～15分）を行う。一方でそれを聴く側は、簡単な評価文と、発表課題の中から自分の関心のある問題を選び、それについての意見文を書く。発表者は、自己評価を含めて、感想文を作成する。	問題点の整理	4時間
第13回	プレゼンテーション（実践と評価）（C・Dグループ） 2、3人のグループによってプレゼンテーションを行う。一方でそれを聴く側は、簡単な評価文と、発表課題の中から自分の関心のある問題を選び、それについての意見文を書く。発表者は、自己評価を含めて、感想文を作成する。	問題点の整理	4時間
第14回	プレゼンテーション（実践と評価）（E・Fグループ） 2、3人のグループによってプレゼンテーションを行う。一方でそれを聴く側は、簡単な評価文と、発表課題の中から自分の関心のある問題を選び、それについての意見文を書く。発表者は、自己評価を含めて、感想文を作成する。	次回の課題文への準備	4時間
第15回	まとめ―（プレゼンテーションの総括を含めて）・総合的課題文の作成 授業のまとめとして、また自分への振り返りとして総合的な〈課題文〉を作成する。（提出）	授業からの継続、〈課題文〉の完成	4時間

授業科目名	音声表現法				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回セリフや朗読などの課題を与え、役について考えたり、感情移入の仕方や、自分で表現したことと、他人が受ける印象についても考え、自分の表現方法について、心と体と感情を一体化させる方法につ				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

普段の日常生活においても、人はそれぞれの場面でそれぞれ色々な顔、表情、言葉づかいで使い分けているもので、それは演劇と通じるものがあります。自分が普段、どのように表情し、どう思うで人と接しているのか、自分自身を知り、自分自身の一番の理解者になることが、他人の事も理解出来る鍵になるのだと思います。台詞を通して、様々なキャラクターを知るとともに、社会に出る前に、今一度自分自身を見つめ直し、人間力、表現力、そして、心の豊かな魅力溢れる人になるお手伝いが出来ればと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	発声練習、音階練習、読解力	五感を使って、様々なキャラクターを表現する。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		様々なキャラクターを演じることで、普段の自分自身と対比することが出来、自分を見つめ直す機会となる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		会話する台詞から、相手との距離感について考えることが出来る。相手が演じやすい受け方、出し方をする事で、相手への配慮、思いやりについても考えることが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
 - ・実験、実技、実習
 - ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
 - ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
 - ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
 - ・その他(以下に概要を記述)
- 他の人の実演も見学し、自分に省みる作業をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 毎回の課題をどれだけ理解し演じようとしているのか。

50%

授業態度

： 挨拶、マナー等守られているのか。他の人の実演もマナー良く聞いているのか。

30%

最終課題

： 採択課題への読解力と挑み方。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

第1回

発声法と呼吸法

： 次回のプリントに目を通す。

授業外学修課題にか
かる目安の時間

4時間

	腹式呼吸と滑舌の練習と音階練習。まず、大きな声を出すところから始め、様々な声の出し方、聴覚との連携で、音階を考えながら、複式で声を出していきます。		
第2回	発声練習と朗読 早口言葉と音階練習。セリフを朗読する。まず、感情を入れず、大きな声でセリフを読む練習をする。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第3回	発声練習と喜怒哀楽 早口言葉と音階練習。喜怒哀楽についてと動作について考える。日常生活でどのように感情が動き、声にのせて表現しているのかを考えながら、セリフに感情を入れて話してみる。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第4回	発声練習と朗読と動作 滑舌の練習と音階練習。動作しながらセリフを言う。童話を朗読する。小さな子供達に読み聞かせるように、子供達の心を動かせる読み方を考えながら、朗読してみる。単純で良い、少しオーバー気味に感情表現する。耳障りの良いメロディーとリズムがあるような感じで読んでいく。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第5回	発声練習と朗読と発想 滑舌の練習と音階練習。ゲーム感覚で発想する。連想ゲームから頭の中で発想、アイデアについて考える。童話を朗読する。前回より一回りオーバーに表現してみる。聞き手側のことも考えて朗読する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第6回	発声練習と会話：間のとりに方について 滑舌の練習と音階練習。日常会話のセリフを言う。二人芝居のセリフを言う。相手との距離感、間について考える。音階を気にしながら大きな声で歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第7回	発声練習と会話：キャラクターについて 滑舌の練習と音階練習。日常会話のセリフを言う。三人芝居のセリフを言う。キャラクターについて考える。音階と歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第8回	発声練習と会話：声色について 滑舌の練習と音階練習。日常会話のセリフを言う。三人芝居のセリフを言う。キャラクターと声色について考える。音階、歌詞リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第9回	アニメーション：ものまねについて アニメのキャラクターを演じてみる。ものまねについて考える。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第10回	アニメーション：声色について アニメのキャラクターを演じてみる。声色を考えながら、キャラクターに近づけていく。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第11回	舞台芝居：動作について考える 舞台芝居を体感してみる。キャラクターを考えながら、動作も入れながら、芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第12回	舞台芝居：キャラクターについて考える 舞台芝居を体感してみる。それぞれキャラクターを演じ分ける。感情移入しながら芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第13回	舞台芝居：自然な演技をめざす 舞台芝居を体感してみる。キャラクターをはっきり演じ分け、感情移入しながら動作も不自然にならないよう芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第14回	情景と司会進行 セリフで情景を表現する。情景を思い浮かべながら、朗々と朗読する。結婚式の司会のセリフを体験する。自ら大勢の人を盛り上げ引張る力を体感する。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第15回	まとめ：音声表現とは何かについて考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じる。心と体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返り、普段の日常性格で、色々なものに対して興味を持って行動するように心がける。	4時間

授業科目名	基礎発声法 I				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	美しい日本語、聞き取りやすい言葉を発声する為の講義が中心となります。発声の為に必要な正しい姿勢や口の動き等の基本的知識を、テキストや板書を使って説明し、受講生全員または個々にて、肉体訓				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、歌を歌う発声トレーニングではありません。美しい日本語、聞き取りやすい言葉を発声する為に必要な知識を理解し、発声力や正確な清舌を身につける基礎発声トレーニングを行います。普段考えることのない「日本語を話す」という行為がどのような仕組みでなされているのか？基礎知識から実際に声を発し体感することにより、知識と技術を身につけていきます。

声優を目指す学生に限らず、就職活動等の面接時や日常の会話をスムーズに行えるよう、毎回、細かく確認しながら授業を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	基礎発声の専門知識	発声のために必要な口の動きや姿勢等、基礎知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		課題に対し、物怖じすることなくやり遂げる力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

評価の基準

： 課題に対し、正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができているかどうか等を基準に40点満点で評価する。

40%

受講態度

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜 3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画

回	内容	目標	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（基礎発声法とは？） 授業の進め方、方針等の概要説明。 人前で話してみよう。 自己紹介を活用したコミュニケーションを図ります。	自身の話し方に意識を向けること。	4時間
第2回	基礎の基礎 発声に必要な基礎知識を知ろう。 言葉の仕組み、発声の仕組み。	自身の発声方法に注意を払うこと。	4時間
第3回	基礎	自分と他者の話し方の違いを意識すること。	4時間

	発声を行う為に必要な知識を身につけよう。 標準語の無声音、鼻濁音とは？		
第4回	発声・滑舌「あ」行、「か」行 実際に発声してみよう。「あ」行、「か」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「さ、た」行の予習。	4時間
第5回	発声・滑舌「さ」行、「た」行 実際に発声してみよう。「さ」行、「た」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「な、は」行の予習。	4時間
第6回	発声・滑舌「な」行、「は」行 実際に発声してみよう。「な」行、「は」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「ま、や」行の予習。	4時間
第7回	発声・滑舌「ま」行、「や」行 実際に発声してみよう。「ま」行、「や」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「ら、わ」行の予習。	4時間
第8回	発声・滑舌「ら」行、「わ」行 実際に発声してみよう。「ら」行、「わ」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「濁音、鼻濁音」の予習。	4時間
第9回	発声・滑舌「濁音」、「鼻濁音」 実際に発声してみよう。「濁音」、「鼻濁音」 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「破裂音、破擦音」の予習。	4時間
第10回	発声・滑舌「破裂音」「破擦音」 実際に発声してみよう。「破裂音」「破擦音」 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回テキストの予習。	4時間
第11回	発声「言葉遊び」 早口言葉のテキスト等を使い、明確な発声を身につけよう。 「言葉遊び」をしながら息の使い方、響き方を体感します。	今まで行って来た滑舌基礎の反復練習。	4時間
第12回	発声「寿限無」 落語の一節「寿限無」を使い、明確な発声を身につけよう。	「寿限無」の反復練習。	4時間
第13回	発声・呼吸法「寿限無」 落語の一節「寿限無」を使い、息の使い方、響き方を体感しよう。	呼吸法を意識し反復練習。	4時間
第14回	発声・呼吸法「早口言葉」 早口言葉テキスト等を使い、明確な発声を身につけよう。 息の使い方、響き方が正確に出来ているか確認します。	自分の苦手箇所を意識し、克服するための反復練習。	4時間
第15回	授業まとめ 今まで練習して来た成果を早口言葉テキストを使い、どの程度正しい発声が身についたか確認します。	明確な発声ができているかを常に意識すること。	4時間

授業科目名	コンピュータ基礎				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	コンピュータを使用しての操作実習を行う。実践で使えるスキルを身につけるための課題に取り組む。授業は、モニター参照を進めるが、練習課題の作成や予習復習自習時には、理解進捗に差のある学生同士で技				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータを利用して情報を扱う基礎知識や技術を身に付けるとともに、短期大学での学びや今後の社会生活に役立たせることを目的とする。具体的には、Windowsの基本操作、インターネットの検索方法、電子メールを使った文書のやり取りの方法について学ぶ。さらに、Wordを使った文書作成、PowerPointを使った発表資料作成、Excelを使ったデータ整理について学ぶ。また、インターネットを安全に利用するための情報モラルや情報セキュリティについても学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	ワードプロセッサ、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		分かりやすい文書や発表資料が作成できる。 表やグラフを使ってデータを整理・分析できる。
1．DP8.意思疎通		
2．DP4.課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準	
演習課題	： ワードプロセッサ、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの演習課題を完成する。(10点×4回=40点)
40%	
確認テスト	： 文書表現の正確さ、データ整理の適切さ、発表資料の表現の正確さ、分かりやすさにより評価する。
30%	
授業への取り組み状況	： パソコン操作に関するルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。具体的な評価は独自のルーブリック（初回授業で配布）を用いて行う。
30%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
実教出版編集部	・ 30時間でマスター Office2016 (Windows10対応)	・ 実教出版	・ 2016年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜日2限 (10:40-12:10)
場所：	西館5階研究室

授業計画

第1回 ガイダンス、学内PCの操作

本授業の目標、内容、評価について確認する。学内ポータルシステム、eメールの登録及びその操作について学ぶ。

ポータルシステムにログインし、履修状況を確認する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	コンピュータ入門 キーボード、Windows、アプリケーションソフトの基本操作について学ぶ。 文字入力について実習を通じて学ぶ。	eメールを送る。	4時間
第3回	インターネット入門 Webページの見方、情報検索の方法について学ぶ。 また、SNSやeメールを利用する上での情報モラル、Webやeメールに関する情報セキュリティについて学ぶ。	教科書20～31ページを読む。	4時間
第4回	Wordの基礎知識と文書入力 Wordの基礎を学び、教科書35～46ページの「練習」にそってWordの基本操作を覚える。また、「例題」を独力で完成させる。	ここまで学んだword「練習」「例題」にもう一度取り組む。	4時間
第5回	Wordの基礎知識と文書入力「実習」 Wordの基礎を学び、教科書46～51ページの「練習」にそってWordの基本操作を覚える。また、「例題」「実習」を独力で完成させる。	word「練習」「例題」「実習」に取り組む。	4時間
第6回	文書の作成 教科書53～68ページの「練習」にそってWordの文書作成の基本操作を覚える。また、「例題」を独力で完成させる。	word「練習」「例題」に取り組む。	4時間
第7回	表を活用した文書の作成 教科書63～74ページの「練習」にそってWordの表作成の基本操作を覚える。また、「例題」を独力で完成させる。	word「練習」「例題」に取り組む。	4時間
第8回	Wordの応用 レポートの作成方法、電子メールでのレポート提出方法について学ぶ。	これまで作成した「例題」「実習」を電子メールで提出する。	4時間
第9回	PowerPointの基礎知識と説明資料の作成 教科書194～204ページにそってPowerPointの基本操作を覚える。また、「例題」を独力で完成させる。	PowerPoint「例題」に取り組む。	4時間
第10回	グラフや表の活用と画像の挿入 教科書209～211、218～221ページにそってPowerPointの基本操作を覚える。また、「例題」を独力で完成させる。	PowerPoint「例題」に取り組む。	4時間
第11回	配布資料の作成と「実習」 教科書239ページにそってPowerPointの基本操作を覚える。また、「実習」（学科の紹介）に取り組む。	これまで作成した「例題」「実習」を電子メールで提出する。	4時間
第12回	Excelの基礎知識 教科書96～105ページにそってのExcelの基本操作を覚える。また、「例題」に取り組む。	Excel「例題」にもう一度取り組む。	4時間
第13回	Excelのデータ入力と保存、印刷 教科書106～111ページにそってのExcelの基本操作を覚える。また、「例題」に取り組む。ファイル保存と読み込み方法、印刷の仕方を学ぶ。	Excel「例題」にもう一度取り組む。	4時間
第14回	Excelの罫線、行の挿入と「実習」 教科書134～137ページにそってのExcelの基本操作を覚える。また、「例題」「実習」に取り組む。	これまで作成した「例題」「実習」を電子メールで提出する。	4時間
第15回	総括（総合演習） ここまで学んだ全ての内容について、間違った問題、苦手な問題に再度取り組む。 提出課題のファイルの整理と管理について説明する。	課題を完成させる。	4時間

授業科目名	身体表現				
担当教員名	河合美智子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	身体表現に関する基礎知識の習得と実技（演習）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では、自己表現としての身体表現について考究していきます。多様な身体表現をとおして、その楽しさを知り、それに必要な技能を高め、優れた身体表現のあり方を身につけます。身体表現に関する基礎知識の習得と実技（演習）を毎回行っていきます。創作活動において仲間との話し合い・協力し・組み立てる等の作品の取り組み方において行動力、協調性を養い、自分なりの創造力を高めることを目的としています。グループワークがありますので、積極的に取り組むことが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	身体表現の知識と技術を身につける。	グループで協力し、身体で自己表現をすることができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		身体表現方法を考え、表現することができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		グループで作品を完成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業積極性、協調性

評価の基準

： 授業に対する積極度、協調性を毎回4ポイント×15回分で評価します。

60%

作品制作実技

： 数回の実技を立案、計画し、グループ単位で発表します。独自のルーブリックで評価します。

40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業前後にも質問に応じます。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、身体表情 ・授業の進め方についての説明します。 ・心身の開放と可能性の発見をします。	振り返りシートの作成 4時間
第2回	ノンバーバルコミュニケーション ・言葉を紹介しない表現について考えてみます。	振り返りシートの作成 4時間
第3回	からだと言葉のイメージ ・言葉のイメージを手がかりとして動いてみます。	振り返りシートの作成 4時間
第4回	身体表現とイメージ ・言葉以外のイメージを手がかりとして動いてみます。	振り返りシートの作成 4時間

第5回	模倣と表現 ・簡単な動き（1人～数名）を模倣し、動きを拡大していきます。	振り返りシートの作成	4時間
第6回	からだへのアプローチ ・自己のからだの感覚に働きかけ、動きへと発展させていきます。	振り返りシートの作成	4時間
第7回	身体表現とコミュニケーション1 ・日常的な身体表現とそれを介するコミュニケーションの在り方について考えてみます。	振り返りシートの作成	4時間
第8回	身体表現コミュニケーション2 ・前回の課題をもとに発表させていきます。	振り返りシートの作成	4時間
第9回	ダンステクニックI ・ダンステクニックとは何か？を各自の捉え方で確認していきます。」	振り返りシートの作成	4時間
第10回	ダンステクニックII ・実際に動いてみます。	振り返りシートの作成	4時間
第11回	課題1（作品創作） ・各自（グループ）でテーマを選び作品を創ります。 テーマ、選曲等	振り返りシートの作成	4時間
第12回	課題2（作品創作） ・振り付けをします。	振り返りシートの作成	4時間
第13回	課題3（作品創作） ・振り付けと練習をします。	振り返りシートの作成	4時間
第14回	課題発表、VTR収録 ・作品発表とVTR収録をします。	振り返りシートの作成	4時間
第15回	まとめ ・VTRを鑑賞をします。 ・半期の授業を振り返ります。 レポートにまとめ提出（800字程度）をします。	まとめ	4時間

授業科目名	笑いと表現				
担当教員名	桂 春蝶				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	落語、講談、浪曲、漫才、太神楽、人相学講座、心理学講座等 あらゆるジャンルの本芸、解説、ワークショップを聞き 知識を広め、ココロを動かします。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

多彩な表現のプロ達を招き、プロの技術・仕事内容を知ること、プレゼン技術・自己表現力・コミュニケーション能力を向上させ、発信力のある人材の育成を目的とする。具体的には、担当教員の落語家・桂春蝶による落語の実演、その他講談、浪曲、漫才、太神楽、人相学講座、心理学講座等を体験する。実演後、表現技術向上に際しての経験談を聞き、そのノウハウを応用して、自己表現のワークショップを実施することで表現力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	多様な表現法に関する知識	実演の鑑賞を通して、多様な表現法を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		理解した表現法を自己表現に応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

50%

毎回の小レポート

50%

評価の基準

： 芸能および講座に対する鑑賞態度、自己表現の積極性を評価する。

： 内容の妥当性と独自性について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・醒酔笑 (安楽庵 策伝著)
- ・米朝落語全集

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えます。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	落語の体験（1）滑稽 桂春蝶が滑稽の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の滑稽の音源を聴く。 4時間
第2回	表現法の実践（1）滑稽 滑稽における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。 4時間
第3回	落語の体験（2）人情 桂春蝶が人情の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の人情の音源を聴く。 4時間
第4回	表現法の実践（2）人情	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。 4時間

	人情噺における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。		
第5回	落語の体験（3） 怪談噺 桂春蝶が怪談噺の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の怪談噺の音源を聴く。	4時間
第6回	表現法の実践（3） 怪談噺 怪談噺における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第7回	聴き手の心理学 聴衆心理を学ぶことで、舞台における表現についての理解を深めます。	生の舞台で芸能を鑑賞する。	4時間
第8回	多様な表現法（1） 講談 講談の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、講談の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	講談の歴史を調べる。	4時間
第9回	多様な表現法（2） 浪曲 浪曲の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、浪曲の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	浪曲の歴史を調べる。	4時間
第10回	多様な表現法（3） 太神楽 太神楽の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、太神楽の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	太神楽の歴史を調べる。	4時間
第11回	多様な表現法（4） 人相学・占い 人相学・占いを実演します。その経験談やノウハウを学び、人の興味をひきつける技術を向上させます。	人相学・占いの歴史を調べる。	4時間
第12回	多様な表現法（5） 漫才 漫才の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、漫才の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	漫才の歴史を調べる。	4時間
第13回	笑いの構造 小噺の実演を鑑賞し、いかにして笑いが生まれるかを学びます。	醒酔笑を読み、笑いの構造を理解する。	4時間
第14回	笑いの比較 落語のオチを分類し比較することで、いかにして笑いが生まれるかを学びます。	醒酔笑を読み、笑いを分類する。	4時間
第15回	笑いの実践 小噺・ジョークをつくり、発表します。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間

授業科目名	基礎発声法Ⅱ				
担当教員名	野田順子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	明確で聴き取りやすい言葉を発声する為の講義が中心となります。言葉を発する為に必要な知識をより深く追求し、肉体訓練と共に発声・発音トレーニングを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、歌を歌う発声トレーニングではありません。美しい日本語、聴き取りやすい言葉を発する為に必要な知識を追求します。基礎発声法Ⅰで培った基礎発声・発音・滑舌練習を引き続き行い、発声力や正確な滑舌を身につける為の基礎トレーニングを行うことを目的としています。また、基礎発声力に表現力を加えたテキストを活用し、基礎知識に応用を加え、実際に表現して行くことにより、基礎力のスキルアップと技術を身につけていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	表現法基礎知識	表現を豊かにする基礎知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		課題に対し、物怖じすることなくやり遂げる力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

評価の基準

： 課題に対し、正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。

40%

受講態度

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると見なされる行為の程度によって評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークを活用し、現在の自分の発声状態を知ろう。	日常生活の中で、正しい発声を常に意識する事。 4時間
第2回	表現法「アクセント」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「アクセント」とは？	言葉の調子を意識すること。 4時間
第3回	表現法「アーティキュレーション」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「アーティキュレーション」とは？	人の話し方の違いを意識すること。 4時間

第4回	表現法「リズム」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「リズム」とは？	喜怒哀楽を意識すること。	4時間
第5回	表現法「ポーズ」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「ポーズ」とは？	会話を意識すること。	4時間
第6回	表現法「フレージング」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「フレージング」とは？	感情の動きを意識すること。	4時間
第7回	表現法「イントネーション」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「イントネーション」とは？	方言と標準語の違いを意識すること。	4時間
第8回	表現法「プロミネンス」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「プロミネンス」とは？	言葉の強弱を意識すること。	4時間
第9回	発声と表現 前回までを踏まえながら、 歌舞伎の一節を使い、発声と表現力を身につけよう。	テキスト作品の世界観を調べること。	4時間
第10回	発声と表現「外郎売り」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 発声と表現力を身につける為、全体の流れを掴もう。	読めない漢字、意味を調べること。	4時間
第11回	発声と表現「ブロック分け」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 文章を区切りながら、明確な表現・発声しよう。	明確な発声で反復練習。	4時間
第12回	発声と表現「明確さ」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 ブロック分けされたアクセント等を確認しながら、 明確な表現をしよう。	自分のイメージする表現ができるよう準備する。	4時間
第13回	「外郎売り」発表 成果発表。 歌舞伎の一節「外郎売り」を正しい発声・発音で明瞭に読み上げよう。	イメージ通りの表現ができたかどうか確認。	4時間
第14回	成果確認 前回の成果発表を踏まえ、未熟箇所を確認し、 正しい発声・発音が出来ているか再確認・反復します。	次回テキストの苦手箇所を確認する。	4時間
第15回	授業まとめ テキスト使い、正しい発声・発音で明瞭に読み上げられているか。 また、自分のイメージ通りの表現ができるか確認します。	あらゆる事に興味を持ち、感性を鍛えること。	4時間

授業科目名	朗読演習				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	前に出て発表する講義が中心となります。古典や小説・詩を使って、作品の世界観、言葉の持つ意味、作者の意図を読み解きながら、朗読表現の基本的なレッスンをを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、古典や小説・詩、童話などを使って、文章の読解や表現を模索することを目的とします。作品に描かれている世界観、言葉の持つ意味、作者の意図を読み解きながら、雰囲気を読んでしまいがちな文章に意味を見だし、情感豊かに自分の意図やイメージを他者に対して正確に伝える力を身につけて行く。また、朗読表現の基本的なレッスンを行うことにより、文章に描かれた情景をわかりやすく多数の人に届ける力、豊かな表現力を習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	朗読表現の知識と技	抑揚、強調、緩急、間を柔軟に取り入れ、豊かな表現力を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		文章に描かれた情景を、わかりやすく多数の人に届ける力を身につけることができる。

学外連携学習

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

40%

受講態度

60%

評価の基準

： 作品に見合った明確な発声で、最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると見なされる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画

回	内容	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートーク。 自己紹介で互いを知ろう。	日常に溢れている文字を意識する。	4時間
第2回	朗読のススメ 朗読をする為に必要な知識、技術等の基礎を学ぼう。	配布テキストに目を通すこと。	4時間

第3回	詩「夢みたものは……」 立原道造の詩を読もう。 穏やかな詩の表現とは？	テキストの詩を読み込むこと。	4時間
第4回	詩「竹」 萩原朔太郎の詩を読もう。 力強い詩の表現とは？	詩の書かれた時代を調べること。	4時間
第5回	詩「あどけない話」 高村光太郎の詩を読もう。 愛情あふれる詩の表現とは？	作品当時の状況を調べること。	4時間
第6回	詩「雨ニモマケズ」 宮沢賢治の詩を読もう。 リズムやテンポ感のよい表現とは？	心地よいリズムを考えること。	4時間
第7回	詩と童話 詩の表現と童話の表現の違いを体感しよう。	情報量の違いを読み取ること。	4時間
第8回	童話「こぶたのとことこ」 童話を使い、 視点の切り替えを身につけよう。	文章に合った読み方を考えること。	4時間
第9回	小説「蜘蛛の糸」前編 芥川龍之介の小説を読もう。 長文を聞きやすく表現するには？	物語を何度も読み込むこと。	4時間
第10回	小説「蜘蛛の糸」後編 芥川龍之介の小説を読もう。 読解力の向上を目指すには？	物語に合ったスピードを考えること。	4時間
第11回	小説「夢十夜」前編 夏目漱石の小説を読もう。 想像力を駆使するには？	物語の世界観を考えること。	4時間
第12回	小説「夢十夜」後編 夏目漱石の小説を読もう。 会話表現力を身につけるには？	興味を持って観察すること。	4時間
第13回	朗読・第一グループ 第一グループ「夢十夜」発表。 作品の内容や状況・設定を踏まえ、 「聞きやすく」「わかりやすい」朗読を目指し、 練習してきた成果を発表します。	繰り返し作品を読むこと。	4時間
第14回	朗読・第二グループ 第二グループ「夢十夜」発表。 作品の内容や状況・設定を踏まえ、 「聞きやすく」「わかりやすい」朗読を目指し、 練習してきた成果を発表します。	苦手な言葉を意識すること。	4時間
第15回	授業まとめ 自分の表現を聴き手に伝える為にどうすれば良いのか等、 授業内で考察してきた成果の確認、総評。	注意深く人間観察をすること。	4時間

授業科目名	音楽パフォーマンス				
担当教員名	楠井淳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ノンバーバルコミュニケーションである音楽を使って感性を養います。声・からだを使ったアンサンブルや合唱、各種楽器を用いたアンサンブルなどのグループワークを通して“共に音楽する”ことの意味や効果を探ります。そして、即興やわらべうたを素材とした音楽作りでは、音楽の持つ規則的なテンポ、リズム、音列の枠内、また枠におさまらないものも含んだ創作体験により、非言語で自己表現したり、他者の表現を感受することで音楽表現や創造力を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	音やリズムが持つ機能をよく理解し意図的に使える知識。	リズムや音符の高さを理解して演奏する事ができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	声や各種楽器などを意図する表現に向けて演奏する技能。自己の発想を具現化する技能。	グループワークの中で自己表現ができる。簡単な音楽パフォーマンスを創作することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		アンサンブルや合唱などのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題1	： 期末レポート課題を30点満点で評価する。
30%	
授業内課題2	： 各種楽器や合唱などのアンサンブル表現を基礎力・表現力の観点から各5段階で評価する。
40%	
授業内課題3	： 創作課題を創造性・表現性の観点より10段階で評価する。
10%	
受講態度（積極的参加）	： 各種発表におけるコメントシートにより5段階で評価する。
20%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
 場所： 第9研究室
 備考・注意事項： その他の時間も第9研究室（西館6階）で受け付けます。

授業計画	授業の概要と音楽パフォーマンス入門	音符と休符、音階についての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の概要と音楽パフォーマンス入門 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・音、音楽の起源 ・記譜：音符と休符について ・様々な音階 	音符と休符、音階についての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第2回	基礎リズムとポディーパーカッション <ul style="list-style-type: none"> ・基礎リズム ・ポディーパーカッション ・リズムアンサンブル 	音価とリズムについての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第3回	合奏① <ul style="list-style-type: none"> ・各種楽器を用いた合奏曲を演奏する。 ・グループ毎に選曲する。 ・楽器編成と役割を決定する。 ・楽器の奏法 	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第4回	合奏② グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第5回	合奏③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習を行う ・合奏作品の発表 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第6回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽① <ul style="list-style-type: none"> ・トーンチャイムとハンドベル ・楽器の奏法 ・オブリガート奏とハーモニー奏 ・グループ毎に選曲する。 	課題曲のメロディーの歌唱練習。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第7回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽② <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に音の配分を考察し、役割分担する。 ・パート別に練習する。 ・全体練習も行う。 	自己パートの練習として音読と歌唱を行なう。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第8回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習 ・トーンチャイム、ハンドベルアンサンブルの発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第9回	わらべうた創作① <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたを素材として、五音音階など民族的な音楽についての理解を深める。 ・各種わらべうたを身体表現を伴いながら歌う。 ・わらべうたの音階を使って、各自わらべうたを創作する。 	わらべうた創作の推敲。	4時間
第10回	わらべうた創作② <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた創作を完成させる。 ・創作したメロディーを演奏する。 ・可能であれば、リズム楽器を加えたアンサンブルを考察する。 	創作したわらべうたの練習。自分が知っているわらべうたを確認し、歌ったり動作をつけたりして表現練習する。	4時間
第11回	わらべうた創作③ <ul style="list-style-type: none"> ・創作わらべうたの練習 ・発表 ・他者の演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。わらべうたを歌う。	4時間
第12回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス① <ul style="list-style-type: none"> ・発声法と発声練習 ・合唱曲（2部合唱）を歌う。 ・各自のパートを決定する。 ・パート練習と全体練習 ・グループに分けて、選曲する。 ・各種楽器のアンサンブルを選択したグループは選曲した楽曲を場合に応じてアレンジする。 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自パート練習。	4時間
第13回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス② <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の練習 ・作品の表現練習と工夫 ・グループ練習 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自のパート練習。表現にも配慮して練習する。	4時間
第14回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス③ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の練習では完成度を高める。 ・演奏会リハーサル 	各自の完成度を高める練習を行う。可能であれば練習グループも課外時間に実施する。	4時間
第15回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の発表。 ・グループ別と全体曲。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想、自己評価をまとめ意見交換や討議を行なう。 	期末レポート課題を作成する。	4時間

授業科目名	漢文学入門				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	漢文の重要事項を学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計画」の「授業外学習」に書かれ				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字などに関する知識を着実に習得するとともに、②漢文の読解力を養成することを目指す。漢文の重要事項への理解を深め、読解力を高めることで、中学校教育の現場で漢文や漢詩について分かりやすく説明することができる知識を習得することを本授業の目的とする。また、中学校国語の教科書で故事や漢詩がどのように導入されているか理解し、教育実習の授業実習につなげることができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の句法の理解	漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の読解力	句法や重要な文字の理解を踏まえ、漢文や漢詩を読解することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		現代の国語教育（故事や漢詩）について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP10. 忠恕の心		建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、行動指針である「忠恕」の意味を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

確認テスト

60%

期末テスト

40%

評価の基準

： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。

： 漢文の句法や漢詩に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ 畠山利子『徹底20日間マスター 漢文（基礎編）』（日栄社、2012年）
- ・ 高橋健一・寺田るり子・藤堂光順『ステップアップノート10 漢文 句形ドリルと演習』（河合出版、2015年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40-12:10）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回	内容	授業で取り上げた漢文や故事についての重要事項を復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—漢文とは— 一般的な漢文や故事に触れ、漢文とは何か学ぶ。		4時間
第2回	訓読の決まり（1）漢文の構造、送りがなを教育実践から考える 漢文の構造、送りがなについて学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：歴史的かなづかい	4時間

第3回	訓読の決まり（２）返り点、書き下し文を教育実践から考える 返り点、書き下し文について学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：レ点、一・二点、上・下点、仮名書き、置き字	4時間
第4回	句形（１）使役を教育実践から考える 教育実践の視点から「他に一させる」という内容を表す使役形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使、命	4時間
第5回	句形（２）受身を教育実践から考える 教育実践の視点から「他から一される」という内容を表す受身形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：被、見	4時間
第6回	句形（３）否定を教育実践から考える 教育実践の視点から単純な否定と禁止を表す句形である否定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：不、非、無、勿	4時間
第7回	句形（４）を疑問形・反語形教育実践から考える 教育実践の視点から問いかけを表す疑問形、および疑問形の形をとって否定の意味を表す反語形のうち、文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形	4時間
第8回	句形（５）比較形・最上形を教育実践から考える 教育実践の視点から二つのものについて優劣や程度を比べる意味を表す比較形と、あるものが他の何ものよりもまさっていることを表す最上形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：如、於、莫	4時間
第9回	句形（６）限定形・累加形を教育実践から考える 教育実践の視点から「ただ～だけ」と限定する意味を表す限定形、「～だけでない」と付け加えることを表す累加形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：唯、耳	4時間
第10回	句形（７）仮定形を教育実践から考える 教育実践の視点から「もし～ならば」と現実にならなっていないことを仮定することを表す仮定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：若、雖	4時間
第11回	中学国語の故事・漢詩（１）中学１年、中学２年 中学国語の１年および２年の教科書で取り上げられている故事や漢詩の教材研究を行う。	教材研究に取り組む。	4時間
第12回	中学国語の故事・漢詩（２）中学３年 中学国語の３年の教科書で取り上げられている故事や漢詩の教材研究を行う。	教材研究の内容をプリントにまとめる。	4時間
第13回	漢詩を教育実践から考える 教育実践の視点から漢詩の形式、押韻、対句などに関するルールについて学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：絶句、律詩、押韻、対句	4時間
第14回	漢詩の歴史を考える 教育実践の視点から漢詩の歴史について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：李白、杜甫、王維	4時間
第15回	句法と漢詩のまとめ 本授業で取り上げた訓読の決まり、句法（１）～（７）、および漢詩について、もう一度教育実践の視点から確認する。	身についていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	視覚デザイン				
担当教員名	塩見知利				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	まずはCGデザイン汎用ソフトであるアドビ・イラストレータの基本的な技術とグラフィックデザインの基礎を学び、多くの事例を提示、実習を中心に実践的な授業形態をとり、作品完成までのプロセスを知ること				

開放科目の指示：「可」

授業概要

コンピュータグラフィックアプリケーション「イラストレータ」と「フォトショップ」の基本的な操作を学び、豊かな表現力の開発と視覚的な表現力とデザイン力の向上を目標とします。イメージを表現するために必要な構成要素としての、色彩、文字、タイポグラフィ、ロゴタイプ、ビクトグラム、イラストレーション、写真。画像処理などについて学ぶとともに、その表現実習をフォトタッチ画像処理ソフト「フォトショップ」とドローソフト「イラストレーター」にてグラフィックデザイン課題作品を制作します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

視覚デザインとはどんなものなのか実践的に製作します。PCを使って講義と実習を交えて分かりやすく授業を展開します。

目標：

視覚デザインへの理解と相手に伝わるデザインを作成できる力を付けることを目標にします。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

何を伝えるかの方法を自分の立てた計画に沿って作品を作ることが出来ることを目標にします。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

作品の完成度

評価の基準

： 教師の説明を理解し課題に沿った作品が丁寧に作られているかを判断基準とします。

70%

授業への関心

： 視覚デザインの授業にどのように深く関心を持っているか質問法や授業態度で判断します。

20%

授業への興味

： デザインそのものにどれほどの興味を持っているのか授業への参加度やコミュニケーションを通じて判断します。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定なし「毎回プリント配布」

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 12時20分

場所： 教育第一研究室

備考・注意事項： 後期 水曜日 3限 PCメールや携帯（スマホ）メールは常にオープンにしています。履修学生さんには授業中にお伝えしますので24hいつでも質問等をよこしてください。citycats220@me.com

授業計画

第1回

視覚デザイン概論、ドローソフト「イラストレーター」について
デザインを構成する要素／形態・配置・色彩・文字・記号・タイポグラフィ・広告・ディスプレイなどについて説明／「イラストレーター」についてサンプルを見せながら説明します。

学んだ事をノートにしファイリングする

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	ロゴマークを作る「イラストレーター」のツールについての説明 「イラストレーター」 ツール説明と基礎技術の習得 / メニューバー・コントロールパネル・ツールボックス・アートボード・各パネルの説明 / 文字入力の方法 / 拡大縮小 等の実習授業を行います。	ロゴマークのラフスケッチをためておく	4時間
第3回	ロゴマークを作る「イラストレーター」のツールについての説明(2) オブジェクトの塗りと線、カラーについての説明。次回の課題である「名刺の制作」に使用できるオリジナルロゴマークの制作についての説明とテンプレートの作成を行います。	完成できるように空いた時間に作業を進める	4時間
第4回	課題1 名刺制作 デザインの基礎 「画像の配置とタイピング」 課題、課題制作の実習授業。名刺デザインについて説明 / デジタルカメラやスマートフォンによる撮影 / 画像をメールで転送 / 配置画像の制作処理を学びます。	デジタルカメラで課題について学外での撮影をする	4時間
第5回	課題1 名刺制作 デザインの基礎 「デザイン構成・書体。レイアウトの技術」 揃えるはずのデザインの基礎実習～文字設定ツールの説明・ガイドラインと整列ツールの使い方を学びます。イメージカラーと色彩計画 / 構成について学びます。	基礎デザインのラフスケッチをためておく	4時間
第6回	演習課題2 色彩について・点・面の構成 イラストレータ技法の点、線、面、色彩を組み合わせた構成・図形の作り方・移動・コピー・回転・拡大縮小・描画色、線の色設定の方法について学びます。	参考文献などでイラストレーターの特徴などを復習しておく	4時間
第7回	演習課題2 ピクトグラム演習(整列・拡大縮小ツール) サイン・ピクトグラムの説明・ダイレクト選択ツール・整列 / ベジェ曲線基礎演習等を演習課題を通じて学び、オリジナルピクトグラムの制作課題を作成します。	課題についてラフスケッチを作成する	4時間
第8回	演習課題2 CGソフトでよく使われるベジェ曲線の演習 (ベジェ曲線、パスファインダー) 例題を基に幾何柄やアルファベットロゴ等をベジェ曲線を使って少し高度なオブジェクトのトレースする技術を学びます。	参考文献などベジェが自由に使えるように練習しておく	4時間
第9回	課題制作 3 CDジャケットのり・デザイン制作 (プランニング) CDジャケット及びCD面のデザイン説明・既存アーティストのCDジャケットのり・デザイン制作 / 写真、イラストレーション、点や面の構成、色彩面も考えて総合的にデザインの計画を立てる技術を学びます。	CDジャケットのデザインを考えラフに起こしておく	4時間
第10回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (プランニング～テンプレートの作成) 各自デザインの計画(デザインコンセプト)をたて、「なにを?だれに?いつ?どこで?どのようにして?」を明確に考えコンセプトシートを作成します。講師の面談によるデザインミーティングを行い計画に基づいて制作過程に入ります。	課題のデザインに対して製作を進める	4時間
第11回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (制作実習) CDジャケット等に使用する配置画像の制作実習(Adobe Photoshop使用) 前半 ここでは画像処理アプリケーション「アドビ フォトショッ プソフト」の基本の使い方等を個々の用途に応じて個別指導いたします。	教師の助言等を考え手直しをする	4時間
第12回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (教員チェック～修正) CDジャケット等に使用するオリジナルデザインの配置画像の制作実習(Adobe Photoshop使用)を行い、フォトタッチとイラストやカラージュ等の画像処理の技術を学びます。	イラストレータについて図書館などで調べておく	4時間
第13回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (教員チェック～修正) デザイン制作実習 / イラストレータ、ベジェ曲線を駆使して、オリジナルロゴの制作を行い～掲載テキストのタイプ入力からレイアウト配置を行い、デザインの構成の方法を学びます。	イラストレーターを用いた作品作りを進める	4時間
第14回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (フィニッシュワーク) CDディスク・CDジャケット表紙と中表紙・裏表紙と背表紙が揃ってデザインが完成するように注意して指導いたします。～授業終了迄に各自の進捗に合わせてチェックを行います。	ためておいたラフスケッチあるいは作品をポートフォリオにまとめる	4時間
第15回	課題制作3 CDジャケットのり・デザイン制作 (プレゼンテーション) 最終チェック後の修正作業を行い、完成したデザインをプリント出力～デザインデータと併せて提出 デザインコンセプト・ターゲット・デザインや色彩の計画・このデザインのアピールと苦勞したところ等を面談の上総合評価をいたします。	まとめ上げたものを手直しし教員に提出する	4時間

授業科目名	日本語教育能力検定試験演習				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	日本語教育能力検定試験合格に必要な知識を学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計 開放科目の指示：「不可」				

授業概要

本授業では、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の高い「言語一般」「言語と教育」について、合格に必要な知識を身に付けることを目指す。出題頻度の高い分野のポイントをつかむことで、日本語教育能力検定試験で確実に得点することを本授業の目的とする。なお、日本語教育能力検定試験受験をしない場合においても、日本語の構造や文法体系、外国語教授法といった様々な視点から日本語について理解を深めることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	日本語の構造や文法体系の理解	日本語の構造や文法体系を理解し、説明することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語教育法の理解	言語教育法を理解した上で、実技につながる力を身に付けることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		日本語の構造や文法体系について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		日本語教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	60%	: 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
期末テスト	40%	: 日本語の構造や文法体系、外国語教授法に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）
日本語教育能力検定試験受験予定者は購入することが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回数	内容	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：形態素、異形態	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—日本語教育能力検定試験とは— 「日本語教育能力検定試験対策」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本語教育能力検定試験の概要について学ぶ。	日本語教育能力検定試験合格を目指すための学習の進め方を考える。	4時間
第2回	言語の構造一般（1） 形態体系 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「形態体系」について学ぶ。		4時間

第3回	言語の構造一般（2） 語彙①—語彙の分類・語彙の計量・語構成— 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「語彙」について学ぶ。「語彙」の中でも、語彙の分類、語彙の計量、語構成に注目して学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：語彙の分類・語彙の計量・語構成	4時間
第4回	言語の構造一般（3） 語彙②—変音現象・位相— 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「語彙」について学ぶ。「語彙」の中でも、変音現象、位相に注目して学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：変音現象・位相	4時間
第5回	言語の構造一般（4） 言語の種類、対照言語学 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「言語の種類」「対照言語学」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：対照言語学と言語教育、言語類型論	4時間
第6回	文法体系（1） 文・構文・文型、アスペクト・テンス・ムード 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「文・構文・文型」「アスペクト・テンス・ムード」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文の種類、文型、ヴォイス、アスペクト、テンス、ムード	4時間
第7回	文法体系（2） 構造による文の分類と複文の諸相 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「構造による文の分類と複文の諸相」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：連体修飾節、補足節、引用節、副詞節、並列節、テ形、従属節	4時間
第8回	文法体系（3） 「は」と「が」 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「は」と「が」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「は」、「が」	4時間
第9回	文法体系（4） 取り立て 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の「取り立て」について学びます。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：取り立て	4時間
第10回	言語一般のまとめ 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語一般」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第11回	言語教育法・実技（1） 学習観 日本語教育能力検定試験で出題頻度が高い分野である「言語と教育」の「学習観」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学習観の変遷、学習理論	4時間
第12回	言語教育法・実技（2） 外国語教授法 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語と教育」の「外国語教授法」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文字中心・教養のための教授法、音声中心・実用目的の教授法、学習者中心の教授法、ヒューマンスティックな教授法	4時間
第13回	言語教育法・実技（3） 指導法 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語と教育」の「指導法」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：言語知識の指導、言語運用の指導、日本事情・日本文化の指導、指導技術	4時間
第14回	言語教育法・実技のまとめ 日本語教育能力検定試験の出題範囲「言語と教育」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第15回	日本語教育能力検定試験過去問題と「日本語教育能力検定試験対策」のまとめ 日本語教育能力検定試験の過去問題のうち、「言語一般」「言語と教育」の分野から出題された問題に取り組み、再度、重要用語とその内容について理解しているか確認する。不明な点、誤った問題について振り返りを行う。	不明な点、誤った問題は、レジュメに戻り要点を確認する。確認問題及び過去問題を繰り返し解く。	4時間

授業科目名	Communications 1				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、大学生にとって身近なキャンパスライフでの出来事を題材として、日常的に用いられる語彙や表現を学びながら、実用性の高い英会話能力を身につけることを目的とします。各授業では、大学生活の一場面を想定して、生き生きとした英語を運用する会話トレーニングを実践します。また、英語力の4技能（読む・聞く・話す・書く）をバランスよく養成するため、題材に関連する英文を読み、それを参考に自分のことを英語で表現するライティング練習も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で会話することができる。日本の大学と海外の大学とのキャンパスライフの違いを知り、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト	60%	： 三回のまとめテストを、第5回・第10回・第15回に実施します。指定教科書の4Unitごとに、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英会話のダイアログを応用して、自分たちの英語でのやりとりをクラスの前で発表します。グループごとに、第5回・第10回・第15回のいずれかの回に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiroko Nishikage, Masaaki Tamura, Levi Hanson	・ Campus English	・ Cengage Learning	・ 2013年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室（西館5階）

授業計画

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	オリエンテーション、Unit 1 教室の場所を尋ねる・自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。・Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた自己紹介文を、課題提出用に書き直しておきます。 ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・キャンパスマップを用いて、場所を尋ねる声のかけ方を学びます。 ・簡単な自己紹介の方法を学びます。 	4時間
第2回	Unit 2 わからない言葉を探る	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを用いて、わからない言葉の尋ね方を学びます。 ・自分のお気に入りの場所を紹介する表現を学びます。 	4時間
第3回	Unit 3 日程を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・学年暦を用いて、日時を確認する言い方を学びます。 ・日本のGWとアメリカの祭日の違いを学びます。 ・GWの過ごし方について説明する表現を学びます。 	4時間
第4回	Unit 4 クラブ活動を説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ案内チラシを用いて、自分の興味について説明する表現を学びます。 ・自分の所属クラブについて、紹介する言い方を学びます。 	4時間
第5回	Unit 1～4 これまでの振り返り①	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1～4 までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアローグをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 	4時間
第6回	Unit 5 アルバイトについて説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の求人広告を用いて、求人広告を正しく理解する読み方を学びます。 ・自分のアルバイトについて、紹介する言い方を学びます。 	4時間
第7回	Unit 6 相手の意見を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季語学研修パンフレットを用いて、研修についての相手の意見を求める表現を学びます。 ・英語でeメールを書く方法を学び、知人と役立つ情報を交換するやり取りを学びます。 ・英語でのeメールの様式を理解し、日本のメールの書き方との違いを学びます。 	4時間
第8回	Unit 7 夏休みの予定の話をする	<ul style="list-style-type: none"> ・予定表を用いて、夏休みの具体的な計画について話す表現を学びます。 ・自分の夏休みの計画を説明する表現を学びます。 	4時間
第9回	Unit 8 レポートの締切を探る	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール表を用いて、提出物や予定の期限を確認する表現を学びます。 ・英語のスケジュール表に用いられる略記を学びます。 ・レポートを書くために、英語のパラグラフの書き方について学びます。 	4時間
第10回	Unit 5～8 これまでの振り返り②	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5～8 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・Unit 9 の英会話練習で用いる、もし自分がホストファミリーになった場合の家庭内のルールを書き出しておきます。 	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5～8までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 		
第11回	Unit 9 ホストファミリーのルールを尋ねる <ul style="list-style-type: none"> ・家・部屋の見取り図を用いながら、家庭内のルールを確認する表現を学びます。 ・自分の希望を伝え、許可を求める表現を学びます。 ・ホストマザーに手紙を書くために、英語での手紙の書き方について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたホストマザーへのお礼の手紙を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
第12回	Unit 10 行き先の確認をする <ul style="list-style-type: none"> ・バスルートマップを用いながら、交通機関を使って目的地へ向かう方法を確認する表現を学びます。 ・アメリカと日本の交通機関のアナウンスの違いについて学びます。 ・地図を使って自分の現在地を確認する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 10 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた日本の交通機関の社内の様子を説明する文章を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
第13回	Unit 11 外国人観光客のサポートをする <ul style="list-style-type: none"> ・観光客向けの看板を用いながら、外国人観光客に手伝いを申し出る表現を学びます。 ・英語の看板やポスターに用いられる略記について学びます。 ・お礼に対して返す返事を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で学んだ看板などの表示に用いられる英語（売り切れ・撮影禁止など）の表現を調べ、課題提出用に書き出しておきます。 	4時間
第14回	Unit 12 成績について話す <ul style="list-style-type: none"> ・成績表を用いながら、自分の成績について話す表現を学びます。 ・アメリカの評点方法について学びます。 ・修得単位について説明する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 9～12 で学んだことを復習し、まとめテストに備えます。 ・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 ・授業で書いた自分の成績についての英作文を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
第15回	Unit 9～12 これまでの振り返り③ <ul style="list-style-type: none"> ・Unit 9～12までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 ・前期の授業内容を振り返ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。 	4時間

授業科目名	Communications 2				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

授業概要

本科目では、大学生にとって関心の高い就職活動や人事面接など多様な題材を用いて、日常的に用いられる語彙や表現を学びながら、実用性の高い英会話能力を身につけることを目的とします。各授業では、社会人としてふさわしい面接での表現やビジネスメールの書き方など、場面に応じた英語を運用することに意識し、英会話の表現の幅を広げていきます。また、英語力の4技能（読む・聞く・話す・書く）をバランスよく養成するため、題材に関連する英文を読み、それを参考に自分のことを英語で表現するライティング練習も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	日常的な英会話能力、英文読解能力、英作文能力	身近な日常生活について、英語で会話することができる。日本の大学と海外の大学とのキャンパスライフの違いを知り、異文化理解を深めることができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回の小テスト（単語・ディクテーション） 20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト 60%	： 三回のまとめテストを、第5回・第10回・第15回に実施します。指定教科書の4Unitごとに、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表 20%	： 授業内で用いた英会話のダイアログを応用して、自分たちの英語でのやりとりをクラスの前で発表します。グループごとに、第5回・第10回・第15回のいずれかの回に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiroko Nishikage, Masaaki Tamura, Levi Hanson	・ Campus English	・ Cengage Learning	・ 2013年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜3限
場所：	研究室（西館5階）

授業計画

授業外学修課題にかかるとの目安の時間

第1回	オリエンテーション、Unit 13 ゼミ決定を相談する	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 13 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。・Unit 14 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いたゼミを選択する動機の説明文を、課題提出用書き直しておきます。 ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・ゼミ指導要領を用いて、自分にあったゼミを選ぶのに提案やアドバイスをもらう表現を学びます。 ・ゼミを選択した動機を説明する表現を学びます。 	4時間
第2回	Unit 14 就職活動について話す	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 14 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 15 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた自分の職業適性検査結果を、課題提出用書き直しておきます。 ・職業適性検査を用いて、就職活動に関連する語彙を学びます。 ・自分の仕事に対する向き不向きを伝える表現を学びます。 	4時間
第3回	Unit 15 学園祭で模擬店を開く	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 15 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 16 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いたお茶の入れ方の説明を、課題提出用書き直しておきます。 ・学園祭出店ブースリストを用いて、どのお店に何が売っているのかについて話す表現を学びます。 ・基本的な調理方法を説明する表現を学びます。 ・アメリカの大学でよくある年間行事について学びます。 	4時間
第4回	Unit 16 日本文化を紹介する	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 16 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 13～16 で学んだことを復習し、まとめテストに備えます。・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。・授業で書いた日本の祝日の説明文を、課題提出用書き直しておきます。 ・日本の年中行事や祝日の一覧を用いて、日本固有の文化について紹介する表現を学びます。 ・日本の祝日がなにを祝う日でどう過ごすのかについて、説明する表現を学びます。 	4時間
第5回	Unit 13～16 これまでの振り返り①	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 17 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・Unit 17 の英会話練習で用いる英語でのレストランのメニュー表を、インターネットなどで探しておきます。 ・Unit 13～16 までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 	4時間
第6回	Unit 17 学食のメニューについて話す	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 17 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 18 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた自分の料理の好みについての英作文を、課題提出用書き直しておきます。 ・英語の学食のメニュー表を用いて、メニュー情報の適切な読み方を学びます。 ・英語で料理を注文する表現を学びます。 ・自分の料理の好みを説明する表現を学びます。 	4時間
第7回	Unit 18 クリスマスの過ごし方について話す	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 18 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 19 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いたクリスマスカードを、課題提出用書き直しておきます。 ・他の文化との違いや似ている点を探る表現を学びます。 ・クリスマスカードなどによく用いられるメッセージを学びます。 ・アメリカのクリスマスの過ごし方を理解し、日本のクリスマス文化との違いを学びます。 	4時間
第8回	Unit 19 メールの文字化けについて話す	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 19 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 20 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた新年の挨拶をするメールを、課題提出用書き直しておきます。 ・eメールを用いて、メールによく使われる短縮表現を学びます。 ・携帯やパソコンなどのデバイスに関連する語彙を学びます。 ・身内や友人に送るカジュアルなメールの書き方を学びます。 	4時間
第9回	Unit 20 ゼミで発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 20 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 17～20 で学んだことを復習し、まとめテストに備えます。・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。・授業で書いた世界遺産についてのレポートを、課題提出用書き直しておきます。 ・インターネットの収集情報を用いて、ゼミでの発表を行う表現を学びます。 ・リサーチした内容を説明する表現を学びます。 ・レポートを書くために、引用や表題の書き方について学びます。 	4時間

第10回	Unit 17~20 これまでの振り返り②	<ul style="list-style-type: none"> Unit 17~20までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 21 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 Unit 21の英会話練習で用いる、もし自分が人事面接を受けることになった場合のPRポイント書き出ししておきます。 	4時間
第11回	Unit 21 人事面接を受ける	<ul style="list-style-type: none"> 面接評価シートを用いながら、面接官に自己PRする表現を学びます。 人事面接での基本的な質問に答えられる表現を学びます。 アメリカと日本の人事面接の違いについて学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 21 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 Unit 22 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 授業で書いた人事面接の質問に対する自分の答えを、課題提出用書き直ししておきます。 	4時間
第12回	Unit 22 バレンタインデーの過ごし方について話す	<ul style="list-style-type: none"> 友人に個人的な質問をする際に適切な表現を学びます。 アメリカと日本のバレンタインデーの起源の違いについて学びます。 愛に関する英語の歌詞を鑑賞します。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 22 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 Unit 23 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 自分の好きな愛を謳った英語の歌詞を、課題提出用書き出ししておきます。 	4時間
第13回	Unit 23 追い出しコンパを企画する	<ul style="list-style-type: none"> to do リストを用いながら、計画や企画について説明する表現を学びます。 計画のチェックリストを作成する方法について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 23 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 Unit 24 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 授業で書いたto do リストと追い出しコンパの企画表を、課題提出用書き直ししておきます。 	4時間
第14回	Unit 24 将来の目標を決める	<ul style="list-style-type: none"> 自分の来年度の目標を決め、どのように実現していくかを説明する表現を学びます。 将来の抱負を語る力強い表現を学びます。 項目だてでそれぞれの目標を説明する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 24で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 Unit 21~24で学んだことを復習し、まとめテストに備えます。 発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 授業で書いた自分の将来の目標についての英作文を、課題提出用書き直ししておきます。 	4時間
第15回	Unit21~24 これまでの振り返り③	<ul style="list-style-type: none"> Unit 21~24までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 前期の授業内容を振り返ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。 	4時間

授業科目名	日本語文法 1				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	日本語文法の重要事項について学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計画」の「授業				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②読解や作文、および発表の指導、外国人への日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。文法の知識を習得することで考えるための土台を構築しながら、学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことを本授業の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文法の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校文法の矛盾点の理解	学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	60%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
期末テスト	40%	： 日本語文法に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40-12:10）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス —「学校文法」とは— 「日本語文法1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、学校文法の概要について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学校文法、橋本進吉 4時間
第2回	品詞（1） 品詞分類の基本を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「品詞」について、品詞分類の基本に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、品詞分類について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：品詞分類 4時間

第3回	<p>品詞（２） 自立語の分類、付属語の分類を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「品詞」について、自立語の分類、付属語の分類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、自立語の分類、付属語の分類について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：自立語、付属語	4時間
第4回	<p>活用（１） 動詞の活用、音便を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「活用」について、動詞の活用、音便に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、動詞の活用、音便について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の活用、音便	4時間
第5回	<p>活用（２） 形容詞・形容動詞の活用を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「活用」について、形容詞・形容動詞の活用に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、形容詞・形容動詞の活用について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：形容詞の活用、形容動詞の活用	4時間
第6回	<p>文の組み立て（１） 文節、主語を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、文節、主語に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、文節、主語について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文節、主語、「が」、「は」	4時間
第7回	<p>文の組み立て（２） 基本文型、語順を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、基本文型、語順に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、基本文型、語順について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の文型、形容詞・形容動詞の文型、語順	4時間
第8回	<p>格助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「格助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：格助詞	4時間
第9回	<p>格助詞（２） 格助詞の使い分けを学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「格助詞」について、似た意味を持つ格助詞の使い分けに注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の使い分けについて日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：似た意味を持つ格助詞の使い分け	4時間
第10回	<p>副助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「副助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：副助詞	4時間
第11回	<p>副助詞（２） 主題と対比を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「副助詞」について、主題と対比に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、主題と対比について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「は」、主題、対比	4時間
第12回	<p>接続助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「接続助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続助詞	4時間
第13回	<p>接続助詞（２） 意味を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「接続助詞」について、意味に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の意味について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：同時、仮定の順接、仮定の逆接、確定の順接、確定の逆接、目的、対立・対比	4時間
第14回	<p>連用修飾・連体修飾（１） 副詞・連体詞を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「連用修飾・連体修飾」について、副詞と連体詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副詞と連体詞について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：様態副詞、程度副詞、陳述副詞、連体詞	4時間
第15回	<p>「日本語文法１」のまとめ</p> <p>本授業で扱った文法事項について確認する。</p>	身についていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	日本語文法 2				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	日本語文法の重要項目を学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計画」の「授業外学				
開放科目の指示：「不可」					

授業概要

本授業では、「日本語文法1」では扱わなかった文法項目を新たに引き上げる。「日本語文法1」と本授業を併せて、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②読解や作文、および発表の指導、外国人への日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。学校文法では説明しにくい現象や矛盾点を問題点として提示し、その問題点について日本語文法論の視点から検討し直す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文法の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校文法の矛盾点の理解	学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	60%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
期末テスト	40%	： 日本語文法に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限（13:00-14:30）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスと「日本語文法1」の復習 「日本語文法2」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、「日本語文法1」の期末試験を踏まえて、重要な文法項目について確認する。	「日本語文法1」の期末試験の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。 4時間
第2回	「日本語文法1」の復習 「日本語文法1」で学んだ文法の重要項目について確認する。	「日本語文法1」の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。 4時間

第3回	助動詞（１） 受身を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、受身に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、受身について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：受身、「れる／られる」	4時間
第4回	助動詞（２） 使役を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、使役に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、使役について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使役、「せる／させる」	4時間
第5回	助動詞（３） 可能を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、可能に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、可能について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：可能、「れる／られる」	4時間
第6回	助動詞（４） 否定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、否定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、否定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：否定、「ない」	4時間
第7回	助動詞（５） 時間を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、時間に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、時間について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：時間、「た」	4時間
第8回	助動詞（６） 断定、推量、推定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、断定、推量、推定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、断定、推量、推定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：断定、「だ」、推量、「う／よう」、推定、「ようだ」、「らしい」	4時間
第9回	助動詞（７） 様態、伝聞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、様態、伝聞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、様態、伝聞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：様態、伝聞、「そうだ」	4時間
第10回	助動詞（８） 比況、例示、希望を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、比況、例示、希望に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、比況、例示、希望について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：比況、例示、「ようだ」、希望、「たい」	4時間
第11回	文章・談話（１） 終助詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、終助詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、終助詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：終助詞	4時間
第12回	文章・談話（２） 接続詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、接続詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続詞	4時間
第13回	敬語（１） 敬語の種類を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、敬語の種類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、敬語について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語	4時間
第14回	敬語（２） 間違えやすい敬語表現を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、間違えやすい敬語表現に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、間違えやすい敬語表現について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：二重敬語、尊敬語と謙譲語の混同、語彙、相対敬語、持ち主の敬語	4時間
第15回	「日本語文法２」のまとめ 本授業で扱った文法事項についてもう一度確認します。	身につけていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 1				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会におけるさまざまな「表現」について目を向けてみましょう。この授業では「物語」に着目し、私たちがつむぎだす物語が、どのように変容していくかについて考えます。前半は、テーマを「大阪」として、文学作品の言説空間に着目し、それらに描き出された都市空間を考察することで、物語の構造を分析します。後半は、文学作品の映画化やアニメーション化といった視覚化の問題について、自ら課題を探し、演習形式で分析・考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	文学作品研究。	文学作品を分析できる。
汎用的な力		文学作品をクリティカルに分析できる。
1 . DP4. 課題発見		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。
2 . DP7. 完遂		

学外連携学修

有り（連携先：黒門市場）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション	30% : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30% : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30% : 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
受講態度	10% : 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： 授業の前後も質問に応じます。

授業計画

第1回	大学で学ぶにあたっての基礎的な力を身につける	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	授業外学修課題にかかる目安の時間
	「演習」形式の説明とこれからの取り組み方について課題への取り組み方として、情報収集、調査方法、分析の仕方、発表形式について学ぶ。		1時間

第2回	「物語」の変遷：文学作品のメディアミックスについて考える 文学作品が映画化、アニメーション化されることによって、物語はどのように変化するのかを考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	「物語」の変遷：口承文学のメディアミックスについて考える 人々に語りつがれてきた昔話や民話は、活字化、絵本化、アニメーション化されることによって、物語はどのように変化するのかを考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	「物語」の変遷：翻訳にまつわる諸問題を考える 海外の作品が翻訳される際には、原著がもつイメージが失われる部分も少なくない。授業では中国語圏の文学作品を例に、翻訳にまつわる諸問題について考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	大阪が舞台となった文学作品について 主に現代の作品を取り上げて講読し、作品の背景について知る。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	大阪が舞台となった文学作品について②：文学作品にみる都市空間を考察 現代の文学作品に描かれた「大阪」に着目し、大阪がどのように表現されているかについて考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	大阪が舞台となった文学作品について③：文学作品の構造を知る 大阪が描かれた文学作品を例に、分析を試みる。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	フィールドワーク「大阪の今」：黒門市場見学 フィールドワークを通して、大阪の今と昔を知り、意見をまとめる。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	「物語」の変遷について考える①テーマを見つけ、発表準備をする：情報収集 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表の準備をする。レジュメの作成方法、パワーポイントの作成方法を確認する。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	「物語」の変遷について考える②テーマを見つけ、発表準備をする：発表方法の確認 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	「物語」の変遷について考える③発表する：絵本化された作品 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	「物語」の変遷について考える④発表する：動画化された作品 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	「物語」の変遷について考える⑤発表する：映画化された作品 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第14回	「物語」の変遷について考える⑥発表する：実写化された作品 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第15回	まとめ：物語について考える 半期の授業を振り返り、私たちの身のまわりの「表現」について考えてみる。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 1				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本の文化を紹介するといえば、和食や着物、茶道などがすぐに思い浮かぶでしょう。しかし、文化とは目に見えるものだけを指す言葉ではありません。常識や価値観など、目に見えない形で私たちの日常に影響を及ぼしているものもまた、文化なのです。本科目では、日本の文化を深く理解し、世界に向けて発信することのできるグローバル・マインドとコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とします。大阪の文化とは何かについて調べ、フィールドワークを実施した上で、調査結果をグループ発表します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本の文化に関する知識、異文化理解する能力、文化を発信する能力

目標：

日本固有の文化について考察し、調査した結果を、外に向けて発表することができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

インターネットや書籍の情報をもとに、ペアワーク・グループワークをつうじて意見をとりまとめ、人に紹介することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

評価の基準

： プレゼンテーション（第10回、第11回の授業内に実施）について、講義内容の理解と調査結果の充実、そして考察の独自性をもとに5段階で採点します。40点満点とし、全部で評価の40%とします。

40%

スピーチ

： スピーチ（第15回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに5段階評価で採点します。30点満点とし、評価の30%とします。

30%

意見文

： 意見文（第15回の授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに5段階評価で採点します。30点満点とし、評価の30%とします。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画

第1回

オリエンテーション、文化とは何か＝コミュニケーションとは何か

- ・授業の進め方、評価方法について確認します。
- ・文化とコミュニケーションの関連性について学びます。

・授業の内容をふまえて、日本の文化だと思えるものを調べて、ノートにまとめておきます。
・配付資料（Culture and Values についての文章）を予習しておきます。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

第2回	<p>文化と価値観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化と価値観の関連性について学びます。 ・日本固有の文化にある価値観はなにかをグループで話し合い、発表します。 ・日本人の価値観が理解されず誤解が生じた事例を取り上げ、その原因と解決策を考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、日本人特有の価値観だと思うものを調べて、ノートにまとめておきます。 ・日本の文化と価値観の関係について、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料(言語コミュニケーションについての文章)を予習しておきます。 	1時間
第3回	<p>言語コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・英語の語学力と異文化コミュニケーション能力との関連性を学びます。 ・日本人特有の言語コミュニケーションはなにかをグループで話し合い、発表します。 ・日本人の言葉遣いが理解されず誤解が生じた事例を取り上げ、その原因と解決策を考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、日本人特有の言語コミュニケーション・スタイルだと思うものを調べて、ノートにまとめておきます。 ・日本語と英語のコミュニケーション・スタイルの違いについて、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料(Nonverbal Communicationについての文章)を予習しておきます。 	1時間
第4回	<p>非言語コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・日本人特有の非言語コミュニケーションはなにかをグループで話し合い、発表します。 ・日本人の非言語コミュニケーション・スタイルが理解されず誤解が生じた事例を取り上げ、その原因と解決策を考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、日本人特有の非言語コミュニケーション・スタイルだと思うものを調べて、ノートにまとめておきます。 ・日本語と英語の非言語コミュニケーション・スタイルの違いについて、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料(Culture and Perception についての文章)を予習しておきます。 	1時間
第5回	<p>文化と知覚能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化と知覚能力の関連性を学びます。 ・日本文化にみられる日本人の知覚能力の影響とはなにかをグループで話し合い、発表します。 ・第8回のフィールド・ワークにむけて、これまでの授業内容を踏まえ、調査すべき点、関心を持った点などを整理します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、日本人特有の知覚能力だと思うものを調べて、ノートにまとめておきます。 ・日本人の美意識と知覚能力との関連性について、500字程度でノートにまとめておきます。 ・「黒門市場」についての基本的な知識を調べておきます。 	1時間
第6回	<p>「黒門市場」見学にあたっての準備①～基礎知識と調査方法～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容をふまえ、文化的建造物などを見学する際に注目すべき点を整理します。 ・「黒門市場」についての基本的な知識を調べて、グループでまとめます。 ・「黒門市場」見学の際、どのような点に注目して調査するかを、グループで話し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「黒門市場」見学にあたっての調査方法、グループ内での役割分担を話し合っ、それにもとづいて準備します。 	1時間
第7回	<p>「黒門市場」見学にあたっての準備②～調査計画と発表方法～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回に引き続き、「黒門市場」見学にあたっての事前準備を行います。 ・各グループごとに、どのようなテーマを持って調査するか、どのような発表方法をとるのかを話し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「黒門市場」見学にあたっての調査方法、グループ内での役割分担を話し合っ、それにもとづいて準備します。 	1時間
第8回	<p>フィールドワーク：黒門市場見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「黒門市場」でフィールドワークを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果をグループ内で取りまとめ、第9回の発表準備に際して何が必要かを話し合います。 	1時間
第9回	<p>フィールドワークの調査結果発表・準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの方法とその効果について学びます。 ・「黒門市場」でのフィールドワークの調査結果を、グループ内でまとめて、発表準備をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で発表準備をします。 	1時間
第10回	<p>グループ発表①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「黒門市場を世界に向けて紹介する」プレゼンテーションを行います。 ・発表者以外はプレゼンの方法や発表内容を採点します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容をふまえ、プレゼンテーションの良かった点・改善すべき点をノートにまとめておきます。 ・フィールドワークによって学んだことを、500字程度でノートにまとめておきます。 	1時間
第11回	<p>グループ発表②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「黒門市場を世界に向けて紹介する」プレゼンテーションを行います。 ・発表者以外はプレゼンの方法や発表内容を採点します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容をふまえ、プレゼンテーションの良かった点・改善すべき点をノートにまとめておきます。 ・フィールドワークによって学んだことを、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料(Culture Shock についての文章)を予習しておきます。 	1時間

第12回	カルチャーショックと適応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・カルチャーショックとは何か、それに適応していくにはどうすればいいのかについて学びます。 ・大阪文化に対するカルチャーショックとはどんなものがあるかをグループで話し合い、発表します。 ・大阪文化が理解されず誤解が生じてしまった事例を取り上げ、その原因と解決策を考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、カルチャーショックだと思うものを調べて、ノートにまとめておきます。 ・カルチャーショックと適応能力について、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料（文化的多様性についての文章）を予習しておきます。 	1時間
第13回	文化的多様性とサブカルチャー	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的多様性とは何か、文化的多様性を生むサブカルチャーとは何かを学びます。 ・文化的多様性を尊重するには、どのような態度やコミュニケーション・スタイルが効果的かをグループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、文化的多様性の意義について、500字程度でノートにまとめておきます。 ・配付資料（グローバルな人材についての文章）を予習しておきます。 	1時間
第14回	グローバルな人材とは	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな人材に求められる異文化コミュニケーション能力とは何かを学びます。 ・自分の能力をセルフチェックし、必要な能力は何かを確かめます。 ・第15回のスピーチについて説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容をふまえ、グローバルな人材に求められる能力について、500字程度でノートにまとめておきます。 ・「大阪文化を世界に発信するストラテジー」という題目でスピーチする原稿を作成します。 	1時間
第15回	総括、大阪文化を世界に発信するストラテジー	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～14回までの講義内容を振り返ります。 ・「大阪文化を世界に発信するストラテジー」という題目でスピーチを行います。 ・発表者以外はスピーチを採点し、結果をフィードバックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を、2000字程度でレポート用紙にまとめて、後日提出する。 	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 2				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	全15回のうち、9回を講義、残り6回を講義に基づく演習の時間とする。演習の時間は個人作業と発表の両方を取り入れる。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①文章力を磨くとともに、②自分の関心に沿ったテーマについて調査・分析・発表をすることで、調査方法や論理的な説明方法を身に付け、さらに、文化的背景についても考えられるようになることを目指す。本授業で扱う内容は、日本語教育能力検定試験の「記述式問題」、「言語と社会」の出題範囲のうち「社会言語学」を踏まえている。全15回のうち、9回を講義、残り6回を講義に基づく演習の時間とする。演習の時間は個人作業と発表の両方を取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	書くことによる論理構成力	説得力のある論理的な文章を書くことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	社会言語学分野の用例分析力	収集した用例を分析し、説得力のある論理的な資料を作成できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した用例について、社会言語学の視点から課題を発見し分析できる。
2．DP7. 完遂		分析した内容について、指定の形式に沿った資料を完成させ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小論文	30%	： 学期中に作成した小論文2題について、わかりやすさ、簡潔さ、論理性、構成、発想・視点、表記の観点から各5段階で評価する。
確認テスト	30%	： 授業内容の理解度について各回10点で評価し、合計30点とする。
最終レポート	40%	： 社会言語学の基礎知識を用い、指定の形式に沿って独自の分析結果及び意見を提示できているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）
日本語教育能力検定試験受験予定者は購入することが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限（13:00-14:30）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	ガイダンス—小論文とは— 「グローバルコミュニケーション基礎演習2」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、小論文の概要について学ぶ。	小論文と感想文の違いについて復習する。	4時間
第2回	文章力を磨く（１） 読み手を意識する 「読み手を意識して書く力」「分かりやすく書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	文法や語彙・表現の用法チェックについて復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第3回	文章力を磨く（２） 伝わりやすさを考える 「簡潔に書く力」「論理的に書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	表現や文構造をシンプルにする、適切な接続表現について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第4回	文章力を磨く（３） 校正と構想 「校正を整えて書く力」「発想・視点を工夫して欠く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	小論文の基礎要素、段落構成、構想の視覚化、発想を広げ方について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第5回	文章力を磨く（４） 形式を考える 「見た目を整えて書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	記号や漢字の使い方、原稿用紙の使い方について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第6回	小論文を書く（１） 執筆 「文章力を磨く」（１）～（４）の内容を踏まえ、小論文の問題に取り組み、文章力を磨く方法を意識し、説得力のある文章を書くことを目指す。	形式に沿って小論文を執筆する。	4時間
第7回	小論文を書く（２） 振り返り 第6回に執筆した小論文について振り返る。添削を見ながら添削理由を理解することで、説得力のある小論文の書き方について学ぶ。	添削された箇所について、レジュメに戻り、添削理由を確認する。また、修正案を考える。	4時間
第8回	社会言語学（１） 話者の意図と言語のパリエーション 「社会言語学」の「待遇表現」「言語変種」について学ぶ。社会的な要因と言語の関わりについて確認する。	待遇表現、言語変種について復習し、復習プリントに取り組む。	4時間
第9回	社会言語学（２） 言語の多様なありかた 「社会言語学」の「言語接触と言語の多様性」について学ぶ。	言語接触、言語の多様性について復習し、復習プリントに取り組む。	4時間
第10回	社会言語学のまとめ 「社会言語学」の「待遇表現」「言語変種」「言語接触と言語の多様性」の重要用語とその内容について、総合的に振り返る。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。復習プリントに取り組む。	4時間
第11回	言語調査の進め方、発表の仕方 「社会言語学」で学んだものから関心に沿ったテーマを選ぶ。言語調査の進め方、および発表の手順と発表資料の作成方法について学ぶ。	発表テーマを考え、発表の準備を行う。	4時間
第12回	発表（１） 自分の関心に沿ったテーマを探し、調査・分析をし、発表を行います。他の学生の発表内容および発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表内容について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第13回	発表（２） 前回に引き続き、調査・分析をしたことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容および発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表内容および発表の仕方について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第14回	発表（３） 前回に引き続き、調査・分析をしたことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容および発表資料の作り方について理解を深める。	他の学生の発表内容および発表資料の作り方について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第15回	発表の振り返りと「グローバルコミュニケーション基礎演習2」のまとめ 発表の振り返りを行うとともに、文章力を磨く方法や社会言語学の内容について理解し身に付いているか確認する。	最終レポートを完成させる。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 2				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	基本的な教材としてはLincEnglishを使用し、パソコン・タブレット・スマートフォンを活用しながら行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現代のグローバル化する社会において必要とされる様々な形でコミュニケーション能力を、その基礎となるコミュニケーション・マインドを育成すると共に、メインカルチャーだけでなくサブカルチャー系統においても多様なツールを活用して、グローバルな視点に立脚した表現を自ら行うことができるよう指導する。教員と学生が相互にインターネットを介してコミュニケーションをしながら、学習過程を楽しみながら英語学習の面白さを発見さらに開発していくことができるような形で行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	基本的な英語力を定着させ、場面で運用することができる。	基本的な単語、文法知識を習得し、英文をすばやく読み、書くことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語の音声と文字との関係を理解できるようにする。	英語の文章を、意味を把握しながら、リズム、抑揚などに注意しながら音読できる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		授業で学んだことを活かして、英語で効果的に自己表現、会話することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	: 授業最終回に授業で学んだ英語表現とICTを活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	: ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	: 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ LincEnglish	・ Linc Educational Resources, Inc.	・ 年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限
 場所： 西館5階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	Introduction / Course Orientation 授業の進め方などの説明 LincEnglishについて、使用法の説明	パソコンでの操作に慣れる。自己紹介文を書く。 1時間
第2回	レベルチェック PreBronzeからPlatinumまで一通りのレベルを試用	LincEnglishのリスニング、リーディング、文法・語彙、レッスンクイズを行い、課題シートを記入する。 1時間
第3回	Silver I リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks.	課題シート クイズ復習 1時間
第4回	Silver I リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 英語音楽リスニング・英語動画鑑賞	課題シート クイズ復習 英語音楽・動画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 1時間
第5回	Silver I 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition.	課題シート クイズ復習 1時間
第6回	Silver II リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks.	課題シート クイズ復習 1時間
第7回	Silver II リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 英語音楽リスニング・英語動画鑑賞	課題シート クイズ復習 英語音楽・動画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 1時間
第8回	Silver II 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition.	課題シート クイズ復習 1時間
第9回	Silver III リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks.	課題シート クイズ復習 1時間
第10回	Silver III リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 英語音楽リスニング・英語動画鑑賞	課題シート クイズ復習 英語音楽・動画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 1時間
第11回	Silver III 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition.	課題シート クイズ復習 1時間
第12回	Review 小テストと解説、これまでのまとめ。	小テストのための準備学習 1時間
第13回	Presentation Preparations 各自プレゼンテーションのトピックを決定、調査、原稿執筆。	プレゼンテーション準備 1時間
第14回	Speech Presentations 発表会	プレゼンテーションについてクラスフォーラムで議論 1時間
第15回	Review Lesson A review of all material taught in this semester. Presentation examination.	これまでの復習・期末課題の準備学習 1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習2				
担当教員名	野田順子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	前に出て発表する講義が中心となります。				

授業概要

本授業は、1分間自己PRを基本として自分自身の体内時計（体感時間と実時間の差異）や普段の会話スピードを確認し、聴き手に伝わりやすい会話のテンポ、リズムなどを知り、身につけるレッスンをを行います。意図を明確に伝えるための言葉（文章）の組み立て、考える力をアップさせることを目指します。また、国内外の詩や各種ナレーション原稿などを使って、状況によって変化する基礎的な音声表現の演習を行います。人前で発表することにより、羞恥心の解放も視野にいれる講義となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	表現の知識	表現法についての知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		自分の意図やイメージを、他者に対して正確に伝える力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

評価の基準

：正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。

40%

受講態度

：授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークでコミュニケーションを図ります。	人間観察をすること。 1時間
第2回	自己PR「体感」 自分が何分間話をしたのか、 実際の時間と体感時間との差異を感じてみよう。	自分の口調を意識すること。 1時間
第3回	自己PR「お題」	自分の口癖を意識すること。 1時間

	聴き手に伝わりやすい口調やテンポ等を確認しよう。 指定された題材に添った話しを発表します。		
第4回	自己PR「1分間」 正確な体内時計を身につけよう。	興味を惹かれるものを意識すること。	1時間
第5回	朗読・詩 島崎藤村「知るや君」を使い、 音の高低差の使い方を身につけよう。	知らない言葉を調べること。	1時間
第6回	会話表現 会話文の基礎表現を身につけよう。	他者の口調を観察すること。	1時間
第7回	会話リズム ジュール・ラフォール「月の出前の対話」を使い、 リズムやテンポ感を身につけよう。	他者の会話リズムを観察すること。	1時間
第8回	ナレーション ナレーションの種類を知ろう。	配布原稿に目を通すこと。	1時間
第9回	番組ナレーション テレビ番組の原稿を読んでみよう。	原稿を何度も読み返すこと。	1時間
第10回	コマーシャル コマーシャル原稿を読んでみよう。	テレビCMを注意して観ること。	1時間
第11回	番宣 番組宣伝原稿を読んでみよう。	想像力を鍛えること。	1時間
第12回	台詞 ナレーションと台詞の違いとは？ 古典表現を考察しよう。	今昔の言葉の違いを調べること。	1時間
第13回	渡し台詞 歌舞伎の一節を使い、渡し台詞を体感しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	1時間
第14回	古典表現 歌舞伎の一節「白浪五人男」を使い、キャラクターの違いを表現しよう。	キャラクターの違いを表現しよう。	1時間
第15回	授業まとめ・総括 歌舞伎の一節「白浪五人男」を使い、これまでの授業を通じて習得した成果を発表します。 総括。	日常生活の中で、人間観察をする事。	1時間

授業科目名	舞台パフォーマンス				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回セリフと動作を考えながら、舞台芝居を体感します。毎回音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱します。授業の3回程度ダンスパフォーマンスもします。				

開放科目「不可」

授業概要

五感と身体全体を使っていきながら、自分自身を見つめ、自己表現を身につけていきます。体全体を使って、音楽とリズムを体感します。メロディーに感情をのせて歌唱します。感情の台詞を使って心と身体の一体化を体感し、感性豊かな人間力を目指します。様々なキャラクターを演じていくことで、体験したことのない境遇や性質について体感し、人間の深みや広さや優しさについて考え、自分自身を大切に出来る、魅力溢れる人間作りを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	歌唱、ダンス、芝居	リズム感、音感、感性の向上を目指します。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		シナリオを使って役を表現したり、感情をのせてダンスしたり歌唱をします。
2．DP9. 役割理解・連携行動		台詞の持つ意味を考えたり、相手との距離感を測りながら芝居をします。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
 - ・実験、実技、実習
 - ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
 - ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
 - ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
 - ・その他(以下に概要を記述)
- 他の人の実演も見学し、自分を見つめ直します。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50%	： 毎回の課題をどれだけ理解し演じているか。
授業態度	30%	： 挨拶、マナーが守られているか。他の人の実演も見学し、マナー良く見ているか。積極的に参加しているか。
最終課題	20%	： どれだけの読解力が身につき、挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

第1回

発声、歌唱古、立ち稽古：感情の表現について
様々な作品を通して、舞台での所作事や、せりふや動作の意味を考えながら、感情を表現していく。
音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。

台詞、動きについて考え稽古する。

授業外学修課題にかかると目安の時間

4時間

第2回	発声、歌稽古、立ち稽古：キャラクターについて 演じるキャラクターや、相手との距離感、間について考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第3回	発声、歌稽古、立ち稽古：大きく動作する 稽古場を大きく使って、大きく動作出来るように考え、思いきり演じる。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第4回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：それぞれの部位の動かし方を考え、身体全体で表現することを体感する。 体を使って感情を表現する。手、足、胸、頭などそれぞれの部位の動かし方を体験し、ダンスの型を覚える。音楽に合わせて踊ってみる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	スムーズに体が動くように、ダンスの反復練習をする。	4時間
第5回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：音楽、リズム、感情表現について体感する。 ダンスの振りを覚える。音楽、リズム、感情の強弱が一体化するようお稽古する。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：感情をのせてダンスをする。音楽と身体表現の一体化について考える。 スムーズに感情を乗せて、ダンスする。見られている意識、見せる意識について考える。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第7回	発声、歌稽古、立ち稽古：和物の芝居について 和物の芝居を体感する。和の所作事、それぞれの人物の歩き方、所作について考える。お客さんがいると設定して、演じている側とみている側とのギャップについて考え、常に自分を客観視出来る力を身につけていく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第8回	発声、歌稽古、立ち稽古：芝居の型について 喜怒哀楽の強弱をはっきりつけて、大きく芝居をする。普段と舞台の違いを考える。普段と台詞が決まった芝居の空間との違いを考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第9回	発声、歌稽古、立ち稽古：役柄につ 台詞と動きの一体化、感情移入して役柄を演じる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第10回	発声、歌稽古、立ち稽古：悲恋物の芝居 悲恋物の芝居を体感する。それぞれの役の生い立ちや、関係、様々な出来事で、状況、感情について考え、普段の生活ではありえないようなことを、お芝居を通してヴァーチャル体験をし、登場人物の生きる様子を体感する。音感、感情を意識しながら歌唱する。	それぞれの人物について、深く掘り下げて考える。	4時間
第11回	発声、歌稽古、立ち稽古：思いの伝え方 それぞれの場面での台詞の掛け合いでその人物に成り切って、思いを伝える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞に感情移入しての反復練習をする。	4時間
第12回	発声、歌稽古、立ち稽古：演じ分けについて考える 様々な役を演じ分け、どういう風に演じれば、相手がやり易いのか、どういう風に演じてもらえれば、自分がやり易いのか、様々な角度から台詞を考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	登場人物のキャラクター、役割について、掘り下げて考える。	4時間
第13回	発声、歌稽古、立ち稽古の総仕上げ 総仕上げ。感情移入して、それぞれの役を演じきる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第14回	発声、立ち稽古：歌舞伎について 歌舞伎の口上を体験する。日本人の伝統芸能である歌舞伎の台詞回しを体験し、日本物の芝居の型、所作事について体感する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第15回	まとめ：舞台芝居と普段との違い、感情表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じる。心と体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返る。普段の日常生活においても、感性の向上に努める。	4時間

授業科目名	日本の文学				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日本の近代文学を中心に、作品の講読を通して作者を理解し、作品の背景を学びます。また、近代文学の特徴をあらわすいくつかのキーワードに基づき、作品を読み解くことを試みます。

基本的には講義形式で進めますが、作者と作品の背景については、毎回のテーマごとに分担し、発表形式も取り入れます。毎回ひとつの作品を読み込み、意見交換をすることで、さまざまな解釈に気づくことも目的としています。近代という時代の特徴も考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	日本の近代文学研究	文学作品を分析することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		文学作品をクリティカルに分析できる。
2．DP7. 完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション	20% : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30% : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30% : 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
受講態度	20% : 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： 授業前後にも受け付けます。

授業計画

第1回	授業ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・発表の分担 ・情報の収集方法、文献の調べ方について ・近代という時代について 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	---	--------------------------------

第2回	森鷗外について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第3回	樋口一葉について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第4回	芥川龍之介について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第5回	芥川龍之介について② ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第6回	宮澤賢治について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第7回	宮澤賢治について② ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第8回	夏目漱石について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第9回	夏目漱石について② ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第10回	中島敦について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第11回	安部公房について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第12回	太宰治について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第13回	有島武郎について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第14回	新美南吉について ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第15回	日本の近代文学について ・授業のまとめをし、印象に残った作品について話し合う	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

授業科目名	キャリアプランニングⅠ				
担当教員名	広滝道代・佐伯暁子・種子康子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式で行いながら、適宜グループワークを取り入れます。				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために、①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして、学生から社会人へと意識を改革するために、職業意識や資質を修得し、自分の未来を設計します。授業構成は、①基本課題、②テーマ課題（講義と個人またはグループワーク）、③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間力、知識・展開力	情報収集、言語能力、構成能力、協働力を身に付けることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し、協働できる。
4．DP7. 完遂		指定の課題を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
発表	： 独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。 40%
レポート	： 授業内容と就職活動の関連、及び今後のキャリア開発との関連が提示できているかどうかという観点から評価する。 30%
時事レポート	： 指定の形式に沿って、自己と社会の関係について独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。 30%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・就職部	『就職ガイドブック』	・	・ 年

参考文献等

株式会社ワークアカデミー『書きこみ式「なりたい自分」を目指すシューカツワークブック』2013年、noa出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	ガイダンス—働くとは— （担当：広滝） 「キャリアプランニング1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、キャリアデザインとは何かを考える。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第2回	自分を知る1—自己分析— （担当：種子） 自己分析シートをもとに中学時代からの振り返りを行い、自分の特徴など社会人になるための分析を行う。	筆記試験対策問題に取り組む。自己分析シートを完成させる。 4時間
第3回	自分を知る2—履歴書作成— （担当：種子） 自己分析を踏まえ、履歴書を作成する。	筆記試験対策問題に取り組む。履歴書を作成する。 4時間
第4回	自分を知る3—履歴書確認— （担当：佐伯） 返却された履歴書を添削に従い修正し、完成させる。	筆記試験対策問題に取り組む。履歴書を完成させる。 4時間
第5回	働くを知る1—ビジネスマナー（言葉遣い）— （担当：種子） 言葉遣い（敬語など）について学ぶ。電話でのアポイントの取り方など、就活に必要なビジネスマナーについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。アポイントの取り方を練習する。 4時間
第6回	働くを知る2—ビジネスマナー（立ち居振る舞い）— （担当：種子） 立ち居振る舞いについて学ぶ。会社説明会、面接での立ち居振る舞いなど、就活に必要なビジネスマナーについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第7回	働くを知る3—面接の準備— （担当：種子） 話の聞き方、答え方、質問の仕方など、面接シーンで起こりうる状況への対応や想定質問についての準備について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。教科書p90, 91の「53の質問」の回答を考える。 4時間
第8回	働くを知る4—集団面接— （担当：種子） 集団面接で注意すべき点について学ぶ。模擬面接を行い、学生同士で互いに確認しアドバイスし合う。	筆記試験対策問題に取り組む。模擬面接の改善点をまとめる。 4時間
第9回	働くを知る5—模擬面接振り返り— （担当：佐伯） 模擬面接を踏まえ、自分のよかった点、改善点を考える。また、他の人のよかった点、改善点も考える。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第10回	社会を知る1—時事社会（情報収集）— （担当：種子） 情報収集と活用について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第11回	社会を知る2—時事社会（意見をまとめる）— （担当：種子） 時事問題などのテーマを設定し、自分の意見をまとめる。	筆記試験対策問題に取り組む。時事レポートを完成させる。 4時間
第12回	会社を知る1—職種— （担当：佐伯） 職種について知り、興味のある職種について研究する。	筆記試験対策問題に取り組む。職種研究シートを作成する。 4時間
第13回	会社を知る2—業界・業種— （担当：佐伯） 業界・業種について知り、企業について研究する。	筆記試験対策問題に取り組む。業界・業種研究シート、企業研究シートを作成する。 4時間
第14回	会社を知る3—求人票— （担当：佐伯） 求人票のチェックポイントを学び、求人票から会社情報をみる。	筆記試験対策問題に取り組む。エントリー企業管理シートを作成する。 4時間
第15回	「キャリアプランニング1」のまとめと振り返り （担当：広滝） 「キャリアプランニング1」を振り返り、キャリアデザインを改めて確認する。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間

授業科目名	English Conversation1				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	文法等確認、実践英会話練習、リスニング・スピーキング両面へ多面的なアプローチを行う。基本英語使用推奨、文法等複雑な内容は適宜日本語で日英両面でサポート、確実な知識の定着を図る。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

英語によるコミュニケーション能力の育成を、主にスピーキング、リスニングを強化しながら行い、重要な語彙、文法事項、運用能力に各々焦点を当てることによって、バランスのとれた英語力を培い、国際的なコミュニケーション能力の育成と向上を図る。常用テキスト以外にも、随時、映画・音楽など多様なテキストを採り入れて、国際コミュニケーションに不可欠な様々な知識を学び、異文化理解を促進すると共に、学習過程を楽しみながら多様な英語力を育成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

予習・復習・課題などはきちんと行い、学習内容の定着を図ると共に、言語習得において不可欠である、継続的に学習する習慣を身につけることができる。

目標：

日常生活や海外における観光、ビジネス、留学などに関する基本的かつ有用な会話表現を理解し、また応用して使用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

異文化理解を深め、幅広い視野を持った、総合的な英語コミュニケーション能力を習得し、実践することができる。

学外連携学習

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	： 授業最終回到授業で学んだ英語表現を活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
小テスト	20%	： 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	： ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Angela Buckingham, Lewis Lansford	『Passport 2 English for International Communication (Second Edition)』	Oxford University Press	年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスパワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限
 場所： 西館5階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction / Course Orientation An introduction to the course outlining the objectives.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第2回	What's the purpose of your visit? Understanding and answering questions at Immigration.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。空港での会話表現について学ぶ。 4時間
第3回	How much is it? Asking about and understanding prices. 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。買い物をするときの会話表現について学ぶ。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第4回	When is the next train to Xi'an? Buying a train ticket.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。電車・駅での会話表現について学ぶ。 4時間
第5回	The TV is broken. Asking for help with minor problems in a hotel.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。ホテルでの会話表現について学ぶ。 4時間
第6回	What is there to see? Finding out what there is to do in an area.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。観光するときの会話表現について学ぶ。小テストの準備学習。 4時間
第7回	Destinations: The U. S. A. Review test. 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。小テストの復習。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第8回	I'd like to rent a snowboard, please. Renting goods from a rental store.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レンタルするときの会話表現について学ぶ。 4時間
第9回	Tell me about your country. Disagreeing with people politely.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。自分の国や相手の国について会話する表現について学ぶ。 4時間
第10回	How was your weekend? Describing recent activities in the past.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。最近の出来事についての会話表現について学ぶ。 4時間
第11回	Does it hurt? Getting treatment for minor injuries at the hospital.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。病院での会話表現について学ぶ。 4時間
第12回	I'd like a cup of coffee, please. Asking about unfamiliar food.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レストランでの会話表現について学ぶ。小テストの準備学習。 4時間
第13回	Destinations: Canada Review test. 英語映画鑑賞 1	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。小テストの復習。映画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第14回	Review 復習テストと解説、これまでのまとめ。 英語映画鑑賞 2 レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。映画に出てきた英語表現、調査考察についてレポートにまとめる。 4時間
第15回	Review Lesson A review of all material taught in semester 1. Presentation examination.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。これまでの復習・期末課題の準備学習。 4時間

授業科目名	English Conversation2				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	文法等確認、実践英会話練習、リスニング・スピーキング両面へ多面的なアプローチを行う。基本英語使用推奨、文法等複雑な内容は適宜日本語で日英両面でサポート、確実な知識の定着を図る。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

English Conversation1に引き続き、英語によるコミュニケーション能力の育成を、主にスピーキング、リスニングを強化しながら行い、重要な語彙、文法事項、運用能力に各々焦点を当てることによって、バランスのとれた英語力を培い、国際的なコミュニケーション能力の育成と向上を図る。常用テキスト以外にも、随時、映画・音楽など多様なテキストを採り入れて、国際コミュニケーションに不可欠な様々な知識を学び、異文化理解を促進すると共に、学習過程を楽しみながら多様な英語力を育成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

予習・復習・課題などはきちんと行い、学習内容の定着を図ると共に、言語習得において不可欠である、継続的に学習する習慣を身につけることができる。

目標：

日常生活や海外における観光、ビジネス、留学などに関する基本的かつ有用な会話表現を理解し、また応用して使用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

異文化理解を深め、幅広い視野を持った、総合的な英語コミュニケーション能力を習得し、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	： 授業最終回到授業で学んだ英語表現を活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
小テスト	20%	： 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	： ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Angela Buckingham, Lewis Lansford	『Passport 2 English for International Communication (Second Edition)』	Oxford University Press	年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスパワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限
 場所： 西館5階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかるときの目安の時間
第1回	Introduction / Course Orientation An introduction to the course outlining the objectives.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第2回	Would you like to visit the Temple of Heaven? Asking about tourist destinations.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。観光するときの会話表現について学ぶ。 4時間
第3回	I want to send an attachment. Getting help with computer problems. 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。パソコン関連の会話表現について学ぶ。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第4回	I'd like a chicken sandwich, please. Ordering food to take out.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レストランでの会話表現について学ぶ。 4時間
第5回	Go straight along this road. Asking for and understanding directions.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。道を尋ねる、道を教える会話表現について学ぶ。 4時間
第6回	Have you been to the Great Wall yet? Talking about experiences.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。これまでの経験についての会話表現について学ぶ。小テストの準備学習。 4時間
第7回	Destinations: China Review test. 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。小テストの復習。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第8回	Excuse me. Can you help us? Asking for help. 英語映画鑑賞 1	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。援助依頼するときの会話表現について学ぶ。映画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第9回	I don't think this is right. Checking out of a hotel. 英語映画鑑賞 2 レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。ホテルでの会話表現について学ぶ。映画に出てきた英語表現、調査考察についてレポートにまとめる。 4時間
第10回	Keep in touch! Making plans for keeping in touch.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。keep in touchの会話表現について学ぶ。 4時間
第11回	Did you pack this bag yourself? Understanding questions at the check-in desk.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。check-inの会話表現について学ぶ。 4時間
第12回	Are you going snowboarding again? Talking about places you intend to visit.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。目的地についての会話表現について学ぶ。小テストの準備学習。 4時間
第13回	Destinations: Australia Review test. 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。小テストの復習。プレゼンテーションの用意。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第14回	Speech Presentations Students will present their speech assignment to the class.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。プレゼンテーションの復習。 4時間
第15回	Review Lesson A review of all material taught in semester 2. Presentation examination.	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。これまでの復習・期末課題準備学習。 4時間

授業科目名	漢字の世界				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	漢字、文字・表記に必要な知識を学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計画」の「授業				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本授業では、高校までに身につけた漢字の知識を土台として、大学・一般程度の漢字を学ぶ。単に漢字を「読む」「書く」という知識を習得するだけでなく、漢字の意味を理解し、適切に運用できる能力を身に付けるために、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」についても学ぶ。出題頻度の高い分野のポイントをつかむことで、日本語教育能力検定試験で確実に得点することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢字についての深い理解と専門知識	漢字の意味と使い方を理解し、適切に運用することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文字・表記についての深い理解と専門知識	文字・表記に関する重要用語とその内容を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		漢字を適切に運用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
確認テスト	: 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
課題	: 確認テストで身に付いていない漢字に関する課題を各2点で評価し、合計18点とする。
期末テスト	: 漢字、重要用語に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本語教育能力検定試験に興味がある場合は、ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。確認テストや期末テストに備え、各回の内容を復習しておくこと。また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40-12:10）
場所： 西館5階研究室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—日本語教育能力検定試験とは— 「漢字の世界」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本語教育能力検定試験の概要について学ぶ。	日本語教育能力検定試験合格を目指すための学習の進め方を考える。 4時間
第2回	文字と表記（1） 漢字の歴史、部首、音と訓を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字の歴史」「部首」「音と訓」について学ぶ。	漢字の歴史、部首、音と訓についてレジュメをよく読み、復習する。 4時間
第3回	文字と表記（2） 漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記を考える	漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記についてレジュメをよく読み、復習する。 4時間

	日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字表」「仮名遣い」「片仮名と外来語の表記」について学ぶ。		
第4回	文字と表記(3) 送り仮名、ローマ字、文字の分類を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「送りがな」「ローマ字」「文字の分類」について学ぶ。	送り仮名、ローマ字、文字の分類についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第5回	文字と表記のまとめ 日本語教育能力検定試験の出題範囲「文字と表記」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第6回	漢字の読み(1) 音読み、訓読みを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「音読み」「訓読み」について学ぶ。	第6回で学んだ「音読み」「訓読み」の練習問題にもう一度取り組む。	4時間
第7回	漢字の読み(2) 特別な読み、同字の音訓を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「特別な読み」「同字の音訓」について学ぶ。	「音読み」「訓読み」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第8回	漢字の部首を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「漢字の部首」について学ぶ。	「特別な読み」「同字の音訓」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第9回	熟語の理解を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「熟語の理解」について学ぶ。	「漢字の部首」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第10回	対義語・類義語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「類義語・対義語」について学ぶ。	「熟語の理解」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第11回	四字熟語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「四字熟語」について学ぶ。	「類義語・対義語」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第12回	送りがなを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「送りがな」について学ぶ。	「四字熟語」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第13回	同音・同訓異字を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「同音・同訓異字」について学ぶ。	「送りがな」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第14回	書き取りを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「書き取り」について学ぶ。	「同音・同訓異字」の確認テストで身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第15回	「漢字の世界」のまとめ 文字と表記、学んだ漢字の内容や意味について、理解し身に付いているか確認する。	確認テストで間違った問題に再度取り組む。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション入門				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションがSNSなどを通じて日常的に可能なグローバル社会において求められる「異文化コミュニケーション能力」とは何かを学び、異文化に対する開かれた心と態度を身につけることを目的とする。各回、異文化コミュニケーション能力の学術的な定義や機能性について解説する。またワークシートを通じて、履修者一人ひとりがセルフチェックを重ねながら、異文化コミュニケーション能力を伸ばせるように促す。講義内容をふまえ、調査した内容をグループ発表するプレゼンテーションも実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	異文化コミュニケーション能力に関する知識	異文化コミュニケーション能力とは何かについて、学術的な定義づけや多数の事例をもとに、正しく理解することができる。
汎用的な力		グローバル社会のなかで異文化理解をすることの意義や起こりうる問題点について、インターネットや書籍の情報をもとに検討することができる。
1 . DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション	40%	： プレゼンテーション（第5回、第10回の授業内に実施）について、講義内容の理解と調査結果の充実、そして考察の独自性をもとに採点します。それぞれ20点満点とし、全部で評価の40%とします。
論述型試験	40%	： 論述型試験（第15回の授業内に実施）について、講義内容の理解と知識の定着を基準に採点します。40点満点とし、評価の40%とします。
意見文	20%	： 意見文（第15回の授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに5段階評価で採点します。20点満点とし、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中村良廣・石丸暁子著『異文化コミュニケーション入門ワークブック―自発学習型』松柏社、2014年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 西館5階研究室

授業計画

第1回

オリエンテーション、異文化コミュニケーションとは①～セルフチェック～

・セルフチェックを踏まえて、異文化コミュニケーション能力がなぜ重要なのかを考察し、ノートに300字程度でまとめます。
・自分が他人を誤解した経験、または誤解された経験について、書き出しておきます。
・配付資料 (Culture Iceberg についての文章) を予習しておきます。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・異文化コミュニケーションを学ぶ前提となる、異文化への態度をセルフチェックします。 ・常識やステレオタイプについて理解します。 		
第2回	異文化コミュニケーションとは②～文化・コミュニケーションの定義～ <ul style="list-style-type: none"> ・文化とはなにか、コミュニケーションとはなにか、学術的な定義を学びます。 ・異文化コミュニケーションを学ぶことの意義とはなにかを考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化とコミュニケーションそれぞれの学術的な定義を、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（コンテキスト依存型のコミュニケーション・スタイルについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第3回	コミュニケーション・スタイル①～コンテキスト依存のコミュニケーション～ <ul style="list-style-type: none"> ・コンテキスト（文脈）依存のコミュニケーションとは何かを学びます。 ・ターンテークング（話者の交代）のコミュニケーションとは何かを学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテキスト既存のコミュニケーションについて、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（パラ言語についての文章）を予習しておきます。 	4時間
第4回	コミュニケーション・スタイル②～パラ言語によるコミュニケーション～ <ul style="list-style-type: none"> ・パラ言語とは何かを学びます。 ・パラ言語を理解するため、映画の吹き替えを用いて、日本語と外国語との音声の違いを鑑賞します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ言語について、ノートに300字程度でまとめます。 ・日本のコミュニケーション・スタイルの特徴について調べ、発表できるように準備しておきます。 	4時間
第5回	小括、日本のコミュニケーション・スタイルについて発表する <ul style="list-style-type: none"> ・第1～5回の講義内容を振り返ります。 ・日本のコミュニケーション・スタイルの特徴について、調べた内容をグループごとに発表します。 ・発表内容について、クラス全体で話し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて自分が感じたことを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（言語コミュニケーションについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第6回	言語コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・言語コミュニケーションの異文化間の違いについて学びます。 ・ほめ方・叱り方・謝り方など日常的なコミュニケーションにおける言語的違いを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語コミュニケーションについて、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（非言語コミュニケーションについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第7回	非言語コミュニケーション①～表情・アイコンタクト・ジェスチャー～ <ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションのうち、表情・アイコンタクト・ジェスチャーの異文化間の違いについて学びます。 ・非言語コミュニケーションが原因で意思疎通に齟齬をきたすケースを学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションについて、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（Personal Area についての文章）を予習しておきます。 	4時間
第8回	非言語コミュニケーション②～タッチング・対人距離・時間感覚～ <ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションのうち、タッチング・対人距離・時間感覚の異文化間の違いについて学びます。 ・非言語コミュニケーションが原因で意思疎通に齟齬をきたすケースを学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションについて、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（価値観の違いについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第9回	価値観～基本価値志向を知る～ <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の価値観について、ことわざ等をつうじて学びます。 ・価値観の違いから真意が伝わらなかった事例を学びます。 ・自分の基本価値志向をセルフチェックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観について、ノートに300字程度でまとめます。 ・異文化コミュニケーション能力の欠如が問題となった出来事を調べ、発表できるように準備しておきます。 	4時間
第10回	小括、異文化コミュニケーション能力の欠如が問題となった出来事について発表する <ul style="list-style-type: none"> ・第6～9回の講義内容を振り返ります。 ・異文化コミュニケーション能力の欠如が問題となった出来事について、調べた内容をグループごとに発表します。 ・発表内容について、クラス全体で話し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて自分が感じたことを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（文化的多様性についての文章）を予習しておきます。 	4時間
第11回	自分を知る～異文化適応力チェック～ <ul style="list-style-type: none"> ・文化的背景の違いからくる意見の対立にどう対処するか、自分の傾向をセルフチェックします。 ・共感（エンパシー）と同情（シンパシー）の違いを学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共感とは何かを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（assertive communication についての文章）を予習しておきます。 	4時間
第12回	異文化コミュニケーション・スキル①～D.I.E.メソッド・アサーティブコミュニケーション～ <ul style="list-style-type: none"> ・D.I.E.メソッドとアサーティブコミュニケーションについて学びます。 ・異文化に接する際に求められるスキルについて学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・D.I.E.メソッドとアサーティブコミュニケーションとは何かを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（エポケーについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第13回	異文化コミュニケーション・スキル②～エポケー～ <ul style="list-style-type: none"> ・エポケー（判断停止・判断留保）とは何かを学びます。 ・異文化社会における「交渉する力」について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エポケーとは何かを、ノートに300字程度でまとめます。 ・異文化コミュニケーション能力の意義とその実践例について調べ、論述できるように準備しておきます。 	4時間

第14回	異文化コミュニケーション・スキル③～アイステートメント～	<ul style="list-style-type: none"> ・アイステートメントとは何かを、ノートに300字程度でまとめます。 ・異文化コミュニケーション能力の意義とその実践例について調べ、論述できるように準備しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・アイステートメント (I statement)とは何かを学びます。 		
第15回	総括、異文化コミュニケーション能力の意義とその実践例について論述する	<ul style="list-style-type: none"> ・学期をとおして理解したことをふまえ、現代の大学生に求められる異文化コミュニケーション能力とは何かを考察し、ノートに2000字程度でまとめます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～14回の講義内容を振り返ります。 ・異文化コミュニケーション能力の意義とその実践例について、調べた内容を論述する試験を実施します。 		

授業科目名	広告表現				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

広告物である紙や画像、映像、Webページ上の表現について、その特性やスキルについて学びます。情報伝播活動である広告を収集し、分析することで、昨今の広告について考えます。ことばと視覚的な効果を学びながら、広告表現の基礎的な学習と実習を経てより高度な能力を身につけます。

課題制作を通して広告デザインの表現力を高め、企画力やスキルを身につけながら、広告デザインを企画する知識と技術を学びます。身のまわりの広告表現について、分析する目を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP5. 計画・立案力

具体的内容：

広告表現を学ぶ。

目標：

広告表現に関する知識やスキルを身につけることができる。

積極的に制作に関わることができる。

自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

制作課題

40%

プレゼンテーション

20%

振り返りシート

30%

授業態度

10%

評価の基準

： 企画調査、構成員、オリジナリティー等の観点から、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。

： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業ガイダンス ・ 広告表現とは ・ 実際にいくつかの広告をみて、グループでその特徴について話し合う ・ 広告倫理について	4時間
第2回	キャッチコピーを学ぶ 振り返りシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャルや広告、看板のキャッチフレーズを集め、その特徴について考える ・キャッチコピーを作ってみる ・グループで新聞記事の見出しの特徴をあげてみる 		
第3回	お気に入りのモノを紹介する：基本技能実習 <ul style="list-style-type: none"> ・観察力とデッサン力の大切さを知る ・お気に入りのモノを紹介する広告を作成する 	振り返りシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間
第4回	お気に入りのモノを紹介する：広告表現の計画と設計 <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートで市場調査をしてニーズを知る ・企画を立てて作成する。 	振り返りシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間
第5回	広告のリスクの要因について <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ受容のギャップについて ・不当表示、人権侵害、著作権、商標権、肖像権等について学ぶ 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第6回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」 <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪」を広告表現の視点からとらえる ・企画をたてる ・街の広告を分析する 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第7回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」②画像処理について <ul style="list-style-type: none"> ・ExcelとWord実習 ・画像処理の方法を学ぶ 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第8回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」③制作 <ul style="list-style-type: none"> ・素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・制作 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第9回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」④グループ発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでの発表 ・ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第10回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」 <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪」を広告表現の視点からとらえる ・企画をたてる ・街の広告を分析する 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第11回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」②画像処理について <ul style="list-style-type: none"> ・イメージの設定 ・画像処理をする 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第12回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」③制作 <ul style="list-style-type: none"> ・素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・制作 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第13回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」④発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでの発表 ・ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第14回	広告表現制作：テーマ「大阪の今」制作 <ul style="list-style-type: none"> ・企画 ・素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・制作 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第15回	広告表現制作：テーマ「大阪の今」②まとめと発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでの発表 ・ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

授業科目名	書道				
担当教員名	高橋文香				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	実技中心。 要点をつかむことや積み重ねを重視。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では、書や文字の歴史に触れながら、毛筆・硬筆の書写技術と表現方法の習得向上を目指す。初学者（中学校レベル）への指導の心構えを学び、「正確に速く」を書写目標とした行書技術習得が可能。さらに、日常用語に親しみ、思いを伝える書や文字文化を生活に生かす多様な書の表現方法を学ぶ。また併せて、マナーを尊重すること、聞く・書く事の大切さについても学ぶ。全15回のうち、6回を硬筆授業、9回を毛筆授業の時間とする。それぞれの最終授業日には課題を仕上げ提出する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	書道初学者指導の心構えと要領	自分の表現だけではなく初学者（中学生レベル）指導の心構えを学び、「正確に速く」を書写目標とした行書技術習得ができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	書の歴史と書写基本技能・表現力	書や文字の歴史を踏まえ、硬筆・毛筆の書写技能習得を目指しながら、思いを伝える多様な書表現を学ぶことができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		思いを伝える書を学ぶことでコミュニケーション力が向上する。また、情報をわかりやすく、多数の人に伝える発信力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
聞く態度 25%	: 熱心に耳を傾けているか、また、授業中の問いかけに対する受け答えの積極性を評価する。
書く態度 25%	: 実技時間は、各々が集中して書いているかを評価する。
第6回授業時に硬筆課題提出 25%	: 第1回～第5回硬筆授業を踏まえた硬筆課題を提出。授業の理解度及び、字形、筆脈、全体のバランス等の観点で評価する。
第15回授業時に毛筆作品提出 25%	: 第7回～第14回毛筆授業を踏まえた毛筆課題作品と自由創作作品を提出。課題作品は授業の理解度を評価し、自由作品は、授業で学んだ知識を利用し、豊かな表現ができているかという観点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中国法書選（二玄社）
法帖名拓選（芸術新聞社）
『新しい書写（中学校教科書）』（東京書籍、2006年）
『世界の文字の物語』（大阪府立弥生博物館特別展図録、2016年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

<持ち物>

硬筆授業：黒のボールペン、2B鉛筆、消しゴム等
毛筆授業：筆・墨・硯・半紙・下敷き・文鎮など書写用具（今まで使用の品でよい）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室

授業計画		授業外学修課題にかかるときの目安の時間
第1回	ガイダンス一書とは一 書く事の意味、文字や書の歴史、授業目標と計画、用具等の説明を行う。	書く事の意味、文字や書の歴史について復習する。 4時間
第2回	硬筆：整った文字の条件・漢字（楷書体） 姿勢、ペン（鉛筆）の持ち方、楷書体の特徴を知るとともに、整った文字の条件を学ぶ。	ペンを用い、名前や大学名等を楷書体で書いて復習する。 4時間
第3回	硬筆：漢字（楷書体）と仮名の調和 平仮名・片仮名の成り立ちや特徴を学ぶ。 漢字（楷書体）と調和する仮名を学ぶ。	ペンを用い、漢字・平仮名混じりの文を楷書体で書いて復習する。 4時間
第4回	硬筆：漢字（行書体）をペンで書く 漢字（行書体）の特徴を学ぶ。 葉書の書き方を練習する。	ペンを用い、名前や大学名等を行書体で書いて復習する。 4時間
第5回	硬筆：漢字（行書体）と調和する仮名 漢字（行書体）と調和する仮名の特徴を学ぶ。 手紙の書き方を練習する。	ペンを用い、漢字・平仮名混じりの文を行書体で書いて復習する。 4時間
第6回	硬筆：作品指導と課題提出 第1回～第5回の硬筆授業内容を踏まえ、課題を提出する。	硬筆授業の総復習する。 4時間
第7回	毛筆：用筆法 姿勢、筆の持ち方、使い方の基本を学ぶ。 基本の点画「永字八法」を練習する。	大筆を用い、基本の用筆法・点画を復習する。 4時間
第8回	毛筆：漢字（楷書体）を書く 大筆を用い、漢字（楷書体）及び、調和する仮名の特徴を学ぶ。 古典『九成宮醜泉銘』から楷書の用筆法を再確認する。	大筆を用い、名前を漢字（楷書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第9回	毛筆：漢字（行書体）を書く 大筆を用い、漢字（行書体）及び、調和する仮名の特徴を学ぶ。 古典『蘭亭序』から行書の用筆法を再確認する。	大筆を用い、名前を漢字（行書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第10回	毛筆：小筆を生活に生かす 小筆の使い方を学ぶ。 小筆で自分の名前や大学名等を練習し、のし紙やのし袋の書き方を学ぶ。	小筆を用い、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第11回	毛筆・硬筆：毛筆体験を硬筆や板書に生かす 大筆・小筆・ペン・鉛筆を用い、毛筆と硬筆や板書は一体のものであることを学ぶ。	ペン字に筆の筆圧を取り入れ、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第12回	毛筆：文字の歩みを体験する 古典作品の鑑賞ポイントや臨書を学ぶ。 漢字や仮名の歴史を、実際に大筆や小筆で書く事で確かめる。 字典『五體字類』の使い方を学ぶ。	古典作品の臨書をする。 4時間
第13回	毛筆：特大筆で書く 大き目の紙に大きな文字を書き、体全体で文字を書くことの大切さと面白さを確認する。	半紙に大きく一字書きをして復習する。 4時間
第14回	毛筆：創作の試み 第15回の作品提出に向け、自分の書きたい言葉を選び、自分のイメージに合わせ、色々な表現方法を学ぶ。	第15回に提出する創作作品の練習をする。 4時間
第15回	毛筆：創作指導と作品提出 第7回～第14回の毛筆授業内容を踏まえ、課題作品と自由創作作品を提出する。	全授業のプリントを読み、実技を復習する。 4時間

授業科目名	デジタル画像処理				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現を目的とした画法を学び、それを生かしたオリジナルイラストを制作する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法を学び、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術の基礎を習得することを目指す。イラストを学ぶことで、豊かな表現力やクリエイティブな発想力の育成を目指すとともに、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにすることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	アニメ・マンガ・デザインの専門知識	アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現についての深い理解と専門知識
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	アニメ・マンガ・デザインによる表現力	素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現する能力
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

作品評価	評価の基準
60%	授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。
40%	各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮川千春、木俣カイ著『これからはじめるPhotoshopの本』（技術評論社、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業前後、もしくはEメール(ryouyuuki@hotmail.com)にて受け付ける。メールの件名は『デジタル画像処理について』とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

回	SDキャラクターの描き方	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	SDキャラクターの描き方① 一等身の低いキャラクター SD手法で等身の低いキャラクターを作る。	4時間
第2回	SDキャラクターの描き方② ラフ画作成 テーマと構図を決め、ラフ画を描く。	4時間
第3回	SDキャラクターの描き方③ 一下書き作成 ラフ画を元に、下書きを作成する。	4時間
第4回	SDキャラクターの描き方④ 一ペン入れ 下書きを元に、ペン入れをする。	4時間
第5回	SDキャラクターの描き方⑤ 一下塗り	4時間

	配色を決め、下塗りをする。		
第6回	SDキャラクターの描き方⑥ —影— 下塗りした作品に影を付ける。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第7回	SDキャラクターの描き方⑦ —ハイライト— ハイライトなど細かい部分を塗り込む。	塗り完成まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第8回	SDキャラクターの描き方⑧ —加工— 加工などの仕上げをする。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第9回	ポストカード制作① —ラフ画作成— カードのテーマを決め、ラフ画を描く。	ラフ画まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第10回	ポストカード制作② —作品作成— ラフ画を元に、制作を進める。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第11回	ポストカード制作③ —作品作成— 前回に引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第12回	ポストカード制作④ —作品作成— 前回に引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第13回	ポストカード制作⑤ —作品作成— 前回に引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第14回	ポストカード制作⑥ —文字入れ— 前回までに作成した作品に文字入れをする。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	放送メディアコミュニケーション				
担当教員名	久米村直子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	ドキュメント映像やミュージッククリップ、雑誌や新聞のニュースなどさまざまな素材を使用し感想や意見を話すことで自分の理解力のレベルや人との感じ方の違いや共通点を知ってもらいます。更に授業内でのレ				

開放科目の指示：「可」

授業概要

まずは、腹式呼吸での挨拶をマスターしてもらいます。そして、週に一回の授業である点を活かし、7日間での出来事で印象に残った出来事を時間内に話してもらうことで、話すことに慣れてもらい日々の生活を少し注意深く観察してもらえるようにします。更に授業では、ドキュメント映像・映画、ミュージッククリップ更に雑誌や新聞のニュースなどさまざまな素材を通してその内容を第三者に伝えられるよう理解を深めます。第三者に内容を伝えるにはどのようにすればよいのか、素材に何を加え、何を省けばよいのかなどを考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

授業での発言から、第三者に何かを伝える際の注意点を学び、言葉の選び方や文章の構成を学びます。

目標：

自分自身が感じた日常の喜怒哀楽が相手にも同じように伝わることを目標にします。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

好きなことや映画などを興味のない人に伝える際、興味を持ってもらうためにはどんな風に話を構成すれば良いかを実践で学びます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業態度

評価の基準

： 各回授業への積極的参加や受講マナーを総合的に評価します。

25%

課題発表

： 授業で出した課題発表での注意点や課題の意図を理解しているかなどを評価します。

30%

レポート提出

： 発表に連動して必ず原稿を用意してもらいます。文章をチェックすることで理解している点、していない点をより明確に採点評価します。

45%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実際にラジオ番組で使用した、ニュース原稿やバブリシティ原稿を使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問などは 授業中にして頂きます。但し、授業前後に声をかけて頂くのは問題ありません。レポート提出がない学生や出席日数が厳しい学生などにはその都度、声掛けしメールでの提出などに対応します。

授業計画

第1回

挨拶の仕方・授業の狙いを解説

腹式呼吸のマスター

授業外学修課題にか
かかる目安の時間

4時間

	腹式呼吸での挨拶の仕方を練習します。 全カリキュラムの進行方法や成績評価はどういった点で採点されるのかなどを説明します。 自己分析を兼ねた自己紹介アンケートに記入してもらい授業内で活用してもらいます。		
第2回	滑舌 滑舌練習。文章を使い、正しい滑舌で言葉話すことを学びます。	滑舌プリントの復習	4時間
第3回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を学びます。	出来た原稿を声を出し読む練習	4時間
第4回	伝える 映像の短編ものを見てもらい、理解力と伝える能力をチェックします。	物語を思い出し、要点を書き出して伝える内容を組み立てる	4時間
第5回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を復習します。	原稿を元に複式と滑舌に注意しながら読む練習	4時間
第6回	伝える方法 好きな映画やアニメなどの面白さを正しい滑舌の標準語で伝える練習をします。	好きな映画やアニメの面白さを書き出す	4時間
第7回	ニュースなど紙媒体から学ぶ 雑誌など身近な記事から聞き手が興味を持ってくれるような伝え方を学びます。	ニュース番組や新聞をチェック	4時間
第8回	ラジオ番組構成 実際に進行表を作ってみます。 時間配分やコーナーの順番などを構成してもらいます。	ラジオのトークを意識して聞いてみる	4時間
第9回	ラジオ番組進行表作りーオープニングトークとエンディングトークー 番組の始まりになるオープニングとエンディングトークに必要な旬な話題を取り入れ、つかみトークとなる原稿を作ります。	ラジオ番組を意識して聞いてみる	4時間
第10回	ラジオ番組進行表作りー紹介原稿ー 番組で紹介する曲をより魅力的に聞こえるような紹介原稿を考えます。	ラジオ番組の構成を考えてみる	4時間
第11回	ラジオ番組進行表作りー原稿作成ー それぞれがラジオを聴いてる人に知ってほしいことをパブリシティとして原稿作成してもらいます。	人に興味を持ってもらうための番組作りを考える	4時間
第12回	ラジオ番組進行表作りー問題点の確認ー ラジオ番組進行表作りでわからない点、不明な点を確認します。	構成した番組を自分で話す練習	4時間
第13回	まとめと発表 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	発表のための準備	4時間
第14回	まとめと発表 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	発表のための準備	4時間
第15回	まとめと発表 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	復習	4時間

授業科目名	社会心理学				
担当教員名	鈴木 勇				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義が中心となりますが、グループでの話し合いや調べてきたことの発表なども取り入れます。また、毎回の授業で小レポートを書いてもらいますので、感想や質問、自分の考えなどを聞かせてください。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会心理学が扱うテーマは大きく次の4つのレベルに分けられます。個人々の心理を扱う自己レベル、対人関係の心理を扱う対人レベル、集団の心理を扱う集団レベル、社会の心理を扱う社会・文化レベルです。本科目では概ねこの順番で授業を展開します。社会心理学には日々の暮らしの中で役立つ考え方が多くあるので、できるだけ身近な問題を取り上げていきたいと思えます。そして、自分を知ることや周りの人との関係を考えること、社会の問題について考えることのきっかけとなれば良いと思えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会心理学に関する知識。	授業で扱った社会心理学のテーマを説得的に論じることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会心理学に関する課題を発見することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 内容に応じて4段階で評価する。

40%

試験

： 学期末に筆記試験を実施する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室（西館4階）

授業計画

回	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：社会心理学について	社会心理学とはどのような学問なのか、その歴史と考え方を整理します。	4時間
第2回	自己	自己意識や自己評価について考えます。	4時間
第3回	対人認知	印象形成や帰属理論について考えます。	4時間
第4回	社会的発達		4時間

社会心理学が扱うテーマにはどのようなものがあるのか整理し、次回の授業のキーワードを調べてください。

前回の授業について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べてください。

前回の授業について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べてください。

前回の授業について要点を整理し、次回の授業のキーワードを調べてください。

		親子関係や友人関係について考えます。	
第5回	性格	性格についての様々な考え方について学びます。	4時間
第6回	態度	態度や説得的コミュニケーションについて考えます。	4時間
第7回	行動決定	ヒューリスティックについて考えます。	4時間
第8回	対人魅力	対人魅力の条件や特徴について考えます。	4時間
第9回	対人コミュニケーション	対人コミュニケーションの特徴や困難について考えます。	4時間
第10回	自己開示	自己呈示やセルフモニタリングについて考えます。	4時間
第11回	援助行動	援助行動や攻撃行動についてその特徴を考えます。	4時間
第12回	社会的影響	集団規範やリーダーシップについて考えます。	4時間
第13回	文化	文化差や各文化の特徴について考えます。	4時間
第14回	ジェンダー	ジェンダースtereotypeについて考えます。	4時間
第15回	まとめ：今期の整理と課題発見	今期の授業内容を整理し、言及できなかった点を補足します。	4時間

授業科目名	アニメキャラクター演習				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

「デジタル画像処理」の授業を踏まえ、マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現を目的とした画法についてさらに深く学び、それを生かしたオリジナルイラストを制作する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法を復習しながら、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術を習得することを旨とする。イラストを学ぶことで表現の幅を広げ、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	アニメ・マンガ・デザインの専門知識	アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現についての深い理解と専門知識
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	アニメ・マンガ・デザインによる表現力	素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現する能力
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
作品評価	： 授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。
制作姿勢	： 各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『イラストを描く人のためのデジタル制作術』（玄光社、2008）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業前後、もしくはEメール(ryouyuuki@hotmail.com)にて受け付ける。メールの件名は「アニメキャラクター演習について」とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

回	ツール説明		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ペンタブレットなど基本的なツールの説明。	ペンタブレットなどイラスト制作のためのツールに慣れる。	4時間
第2回	キャラの描き分け① 一顔の描き方 男女のキャラクターの顔の描き方を学ぶ。	各自練習する。	4時間
第3回	キャラの描き分け② 一全身の描き方 男女のキャラクターの全身の描き方を学ぶ。	各自練習する。	4時間
第4回	キャラの描き分け③ 一等身の違いに注目して 等身の違うキャラクターの描き方を学ぶ。	各自練習する。	4時間

第5回	自画像① —キャラクター決定— 自分の自画像となるキャラクターを考える。	下書きまで各自進めておく。	4時間
第6回	自画像② —作品作成— 下書きを元に、自画像を完成させる。	完成まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第7回	名刺制作① —デザイン考案— 制作した自画像を使用した名刺のデザインを考える。	ラフ画まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第8回	名刺制作② —作品作成— ラフ画を元に、名刺を完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第9回	オリジナルイラスト制作① —テーマと構図— テーマと構図を決め、ラフ画を描く。	ラフ画まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第10回	オリジナルイラスト制作② —作品作成— ラフ画を元に、制作を進める。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第11回	オリジナルイラスト制作③ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第12回	オリジナルイラスト制作④ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第13回	オリジナルイラスト制作⑤ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第14回	オリジナルイラスト制作⑥ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 1				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	2 声優トライクラン	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	芸術棟ラジオブースでの講義となります。				

授業概要

本授業は、オーディオドラマ台本を使って、「音声のみ」の表現に着目し、聴き手に「感情を届ける」ための基礎的技術を習得することを目指します。作品の世界観、台詞の持つ意味、キャラクターの性格やバックボーン、感情の動き、言葉の行間に隠された思いなど、雰囲気を読んでしまいがちな表現に意味を見だし、台本を読解する力・音声表現方法を模索します。どうすれば聴き手に自分の思いや表現が伝わるのかを考え、実際に音声表現をしながら実践し、受講生全員またはグループに別れて課題に取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	音声表現の知識、スキルアップ	オーディオドラマについての知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP9. 役割理解・連携行動		他人の演技を聞き、その表現の意図を把握し、自身の役割を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

評価の基準

： 作品、キャラクターに見合った明確な発声で、積極的に表現することができるか、最後までやり通す（表現する）ことができるか等を基準に40点満点で評価する。

40%

受講態度

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜 3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画

回	内容	授業目標を立てること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 コミュニケーションを図り、チームワークを身につけよう。	授業目標を立てること。	1時間
第2回	スタジオワーク スタジオオナー、マイクワーク等のルール確認。	本日の復習をすること。	1時間
第3回	オーディオドラマとは？ オーディオドラマの専門知識を身につけよう。	感性を鍛え、専門知識を覚えること。	1時間

第4回	台本配布 作品全体の流れを掴むため、配布された台本を音読しよう。	台本を何度も読み込むこと。	1時間
第5回	通し読み 前回は踏まえ、雰囲気を読んでしまわないよう表現しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	1時間
第6回	キャラクター考察 キャラクターの性格、関係性など、それぞれのバックボーンを考えよう。	キャラクターに合った表現を考えること。	1時間
第7回	世界観を探る 描かれている作品の世界観を考察し、雰囲気を読んでしまわないよう表現しよう。	他者の会話リズムを観察すること。	1時間
第8回	作品の意図を探る 作品の流れ、意図を読み解き、音声のみで伝える為にどう表現すれば良いのかを考察します。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第9回	音声ドラマ表現考察 絵も動きも見えない音声ドラマという制約の中で、どう表現したら伝わるのかをより深く考察します。	頭の中のイメージを明確に書き出してみるこ と。	1時間
第10回	感情表現考察 自身の表現する感情・喜怒哀楽が、聴き手にどう伝わっているのかを考察します。	自分の声を何度も聞き込むこと。	1時間
第11回	会話する 台詞を「読む」のではなく、「会話する」という意識をもって表現しよう。 相手の台詞を聞き、作品の世界観統一を目指します。	作品の世界観を話し合うこと。	1時間
第12回	役を生きる 台詞を「読む」のではなく、 作品の中で「生きている」という意識をもって表現しよう。	素と芝居、会話の違いを意識すること。	1時間
第13回	実践・第一グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、 伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成 果を実践する。 第一グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第14回	実践・第二グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、 伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成 果を実践する。 第二グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第15回	授業まとめ・総括 自分自身のイメージする表現が出来たかどうか、振り返る。 授業総括。	イメージ通りの音声表現が出来るよう追求す る。	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 1				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	パソコン・タブレット等活用して教員と学生が相互にインターネットを介してコミュニケーションしながら英語学習の面白さを発見さらに開発していくことができるような形で行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本学科での学びのまとめとして、グローバルコミュニケーション基礎演習2に引き続き、現代のグローバル化する社会において必要とされる様々な形でコミュニケーション能力を、その基礎となるコミュニケーション・マインドを育成すると共に、メインカルチャーだけでなくサブカルチャー系統においても多様なツールを活用して、グローバルな視点に立脚した表現を自ら行うことができるよう指導する。最終的に各自、電子書籍を出版することを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	基本的な英語力を定着させ、場面での運用力を身に付けることができる	基本的な単語、文法知識を習得し、英文をすばやく読み、書くことができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		授業で学んだことを活かして、英語で効果的に自己表現、会話することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	: 授業最終回に授業で学んだ英語表現とICTを活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	: ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	: 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ LincEnglish	・ Linc Educational Resources, Inc.	・ 年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館5階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	Introduction / Course Orientation 授業の進め方などの説明 LincEnglishについて、使用法の説明・確認	パソコン・タブレットの操作に慣れる。 1時間
第2回	レベルチェック PreBronzeからPlatinumまで一通りのレベルを試用	LincEnglishのリスニング・リーディング・文法・語彙・レッスンクイズを行う。課題シートの記入。 1時間
第3回	Gold I リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks. 電子書籍について学ぶ。	課題シート クイズ復習 1時間
第4回	Gold I リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 電子書籍で何を作成するか考える。	課題シート クイズ復習 電子書籍について調査。 1時間
第5回	Gold I 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition. 電子書籍の無料出版の方法について調査する。	課題シート クイズ復習 電子書籍作成の準備。 1時間
第6回	Gold II リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks. 電子書籍の作成。	課題シート クイズ復習 1時間
第7回	Gold II リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 電子書籍の作成。	課題シート クイズ復習 1時間
第8回	Gold II 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition. 電子書籍の作成。	課題シート クイズ復習 1時間
第9回	Gold III リスニング Image listening, question and response, short conversation, short talks. 電子書籍の作成。 英語音楽リスニング・英語動画鑑賞	課題シート クイズ復習 英語音楽・動画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 1時間
第10回	Gold III リーディング Speed paragraph reading practice, reading comprehension practice, sentence insertion practice. 電子書籍の作成。	課題シート クイズ復習 1時間
第11回	Gold III 文法・語彙問題 Incomplete sentence, error recognition. 電子書籍の作成。	課題シート クイズ復習 1時間
第12回	Review Test 小テスト 電子書籍の作成。 英語音楽リスニング・英語動画鑑賞	小テストのための準備学習 英語音楽・動画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 1時間
第13回	Presentation Preparations 各自プレゼンテーションのトピックを決定、調査、原稿執筆。 電子書籍完成。	プレゼンテーション準備 1時間
第14回	Speech Presentations 発表 発表会	プレゼンテーションについてクラスフォーラムで議論 1時間
第15回	Review Lesson A review of all material taught in this semester. Presentation examination.	これまでの復習・期末課題の準備学習 1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 2				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、地域研究の視点から文化研究を試みます。前半は、大阪が舞台となった文学作品を事例に、フィールドワークとして、大阪天満宮周辺を散策します。後半は、大阪の今とむかしを調査し、考察しながら、文学作品や映画、伝統芸能、アニメ、絵本等の視覚化されたサブカルチャー等を考察します。表現媒体の特徴を理解した上で、それぞれの芸術作品を読み解くことを目的としています。演習形式で授業を進め、グループや個人で課題を見つけて発表に取り組みます。レポートを最終課題としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	大阪を事例とした文化研究。	周辺文化を客観的に分析できる。
汎用的な力		文学作品や周辺文化をクリティカルに分析できる。
1．DP4. 課題発見		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。
2．DP7. 完遂		

学外連携学修

有り（連携先：黒門市場）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	30%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30%	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント。
受講態度	10%	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

第1回

授業ガイダンス

授業の進め方および、課題および発表方法、評価について大阪の歴史について学びます。

振り返りシートの作成、および大阪の歴史を調べる。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

第2回	フィールドワーク：黒門市場見学① 学外授業を通して、わかったこと、感じたことを振り返りシートにまとめます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	フィールドワーク：黒門市場見学② 学外授業を通して、わかったこと、感じたことを振り返りシートにまとめます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	生まれ育った地域と大阪① 生まれ育った地域と大阪の歴史や文化について調べ、それらの相違点について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	生まれ育った地域と大阪② 生まれ育った地域と大阪の歴史や文化について、グループで情報を共有し、それぞれの相違点をまとめます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	大阪の文化について① ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・前回までに取り上げられた大阪の文化について、知識を深めます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	大阪の文化について② ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・前回までに取り上げられた大阪の文化について、グループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	大阪の歴史について① ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・前回までに取り上げられた大阪の歴史について、知識を深めます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	大阪の歴史について② ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・前回までに取り上げられた大阪の歴史について、グループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	大阪の今① ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・大阪の歴史をふまえて、今の大阪について考えてみましょう。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	大阪の今② ・大阪の文学作品を読み、作品の背景について学びます。 ・大阪の歴史をふまえて、今の大阪についてグループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	発表および意見交換① ・発表者が話題提供者となり、発表および取り上げた作品に関する意見交換を行います。 ・レポートの書き方について復習します。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	発表および意見交換②レポートの構成を発表する ・発表者が話題提供者となり、発表および取り上げた作品に関する意見交換を行います。 ・レポートの構成について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第14回	発表および意見交換③読者について考える ・発表者が話題提供者となり、発表および取り上げた作品に関する意見交換を行います。 ・物語の受容側である読者について考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第15回	発表およびまとめ 授業の振り返りおよび、レポートのまとめ方の説明します。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 1				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	全15回のうち、5回を講義、残り10回を講義に基づく演習の時間とする。演習の時間は個人作業と発表の両方を取り入れる。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①敬語について理解を深めるとともに、②小説、アニメ、テレビドラマ、映画などのメディアにおいて敬語がどのように用いられているか、調査・分析・発表をすることで、調査方法や論理的な説明方法を身に付け、さらに、文化的背景についても考えられるようになることを目指す。本授業で取り上げる敬語については、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」についても学ぶ。出題頻度の高い分野のポイントをつかむことで、日本語教育能力検定試験で確実に得点することを

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	敬語についての深い理解と専門知識	敬語の適切な使い方を理解し、それらを正しく使うことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	敬語の用例分析力	収集した用例を分析し、説得力のある論理的な資料を作成できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した用例について、敬語の視点から課題を発見し分析できる。
2．DP7. 完遂		分析した内容について、指定の形式に沿った資料を完成させ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

確認テスト	評価の基準
30%	： 授業内容の理解度について各回10点で評価し、合計30点とする。
発表	： 用例分析の適切さ、発表資料の正確さ、分かりやすさにより評価する。
40%	
レポート	： 指定の形式に沿って独自の分析結果及び意見を提示できているかどうかという観点から評価する。
30%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40-12:10）
場所： 西館5階研究室

授業計画

第1回	ガイダンス—敬語について—	レジュメをよく読み、敬語について復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	「グローバルコミュニケーション演習1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、敬語の概要について学ぶ。		1時間
第2回	敬語（1） 敬語の種類 敬語の種類と違いについて学ぶ。	敬語の種類ごとに意味や使い方をまとめる。	1時間

第3回	敬語（２） 間違えやすい敬語 二重敬語など間違えやすい敬語について学ぶ。	間違えやすい敬語についてまとめ、適切な使い方を復習する。	1時間
第4回	敬語のまとめ 敬語の確認問題に取り組み、敬語の意味とその使い方について理解しているか確認する。	身についていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	1時間
第5回	言語調査の進め方、発表の仕方 言語調査の進め方、および発表の手順と発表資料の作成方法について学ぶ。	発表テーマおよび調査資料を考え、発表の準備を行う。	1時間
第6回	調査（１） 正しい敬語 具体的な資料から正しい敬語を抜き出す作業を行う。	自分の探してきた資料から正しい敬語を抜き出す。	1時間
第7回	調査（２） 間違っている敬語 自分の探してきた資料から間違っている敬語を抜き出す作業を行う。	自分の探してきた資料から間違っている敬語を抜き出す。	1時間
第8回	分析（１） 正しい敬語 具体的な資料から抜き出した正しい敬語について分析を行う。	収集した正しい敬語を分析する。	1時間
第9回	分析（２） 間違っている敬語 具体的な資料から抜き出した間違っている敬語について分析を行う。	収集した間違っている敬語を分析する。	1時間
第10回	発表（１） 自分の関心に沿った資料を探し、調査・分析をし、発表を行う。	他の学生の発表について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第11回	発表（２） 前回に引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表資料について理解を深める。	他の学生の発表資料について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第12回	発表（３） 前回に引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容について理解を深める。	他の学生の発表内容について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第13回	発表（４） 前回に引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表資料について理解を深める。	他の学生の発表資料について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第14回	発表（５） 前回に引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表の仕方について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第15回	発表の振り返りと「グローバルコミュニケーション演習1」のまとめ 発表の振り返りを行うとともに、敬語について理解し身に付いているか確認する。	最終レポートを完成させる。	1時間

第1回	<p>オリエンテーション、文化とはなにか、大阪文化とはなにか</p> <p>・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・文化とはなにかについて学びます。 ・大阪文化の特徴について、各グループで話し合い、発表します。 ・第2回、第3回のフィールドワークで注目すべき点を考察します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、大阪くらしの今昔館および大阪天神橋商店街見学で注目すべき点を整理し、ノートにまとめておきます。 ・大阪くらしの今昔館および大阪天神橋商店街の基本的な知識を、インターネット等で調べておきます。</p>	1時間
第2回	<p>フィールドワーク：黒門市場見学①</p> <p>・黒門市場を見学します。</p>	<p>・フィールドワークで学んだことを、2000字程度でレポート用紙にまとめ、第4回の授業で提出します。</p>	1時間
第3回	<p>フィールドワーク：大阪くらしの今昔館および大阪天神橋商店街見学②</p> <p>・黒門市場を見学します。</p>	<p>・Unit 4 (言語コミュニケーションについての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第4回	<p>言語コミュニケーションと大阪の言葉文化</p> <p>・言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・大阪文化における言語コミュニケーションの特徴はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、言語コミュニケーションについて、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 3 (非言語コミュニケーションについての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第5回	<p>非言語コミュニケーションと大阪の身振り</p> <p>・非言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・大阪文化における非言語コミュニケーションの特徴はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、非言語コミュニケーションについて、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 5 (文化と価値観についての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第6回	<p>価値観と大阪の笑い</p> <p>・文化における価値観とは何かを学びます。 ・大阪文化における笑いの位置づけについて、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、文化と価値観について、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 6 (文化と知覚能力についての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第7回	<p>知覚能力と大阪の色彩感覚</p> <p>・文化における知覚能力とは何かを学びます。 ・大阪の色彩感覚の文化的特徴を、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、文化と知覚能力について、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 7 (多様性についての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第8回	<p>多様性と大阪の文化的スタンス</p> <p>・文化における多様性とは何かを学びます。 ・大阪の多様性に対する文化的スタンスを、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、文化における多様性について、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 8 (ステレオタイプについての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第9回	<p>ステレオタイプと大阪の県民性</p> <p>・ステレオタイプとは何かを学びます。 ・大阪の県民性の特徴を、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、ステレオタイプについて、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 9 (カルチャーショックについての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第10回	<p>カルチャーショックと大阪対東京の構図</p> <p>・カルチャーショックとは何かを学びます。 ・大阪対東京の構図が生まれる原因を、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、カルチャーショックについて、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 10 (文化の移り変わりについての文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第11回	<p>文化の移り変わりと大阪の今昔</p> <p>・文化の変化とは何かを学びます。 ・大阪文化の今と昔の相違点を、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、文化の移り変わりについて、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 11 (日本文化の発信について文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第12回	<p>日本文化の発信、大阪文化の発信</p> <p>・日本文化を世界に発信するとはどういうことかを学びます。 ・大阪文化を世界に発信するとしたら何をどうやって紹介するかを、各グループで話し合い、発表します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、日本文化の発信について、3000字程度でノートにまとめておきます。・Unit 12 (グローバル人材について文章) を予習しておきます。</p>	1時間
第13回	<p>グローバル人材と英語力</p> <p>・グローバル人材とは何かを学びます。 ・第1回～12回の授業内容をふまえて、グローバル社会における英語力とは何かを考察します。 ・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、説明します。</p>	<p>・講義の内容をふまえ、グローバル人材と英語力について、3000字程度でノートにまとめておきます。・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、原稿を準備しておきます。</p>	1時間

第14回	「大阪文化を英語で紹介する」スピーチ①	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のあったスピーチについて分析し、その結果を300字程度でノートにまとめておきます。 ・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、原稿を準備しておきます。 	1時間	
<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪文化を英語で紹介する」スピーチを、クラスの前で行います。 ・発表者以外は、スピーチ内容やプレゼンテーション能力を採点し、結果をフィードバックします。 	第15回	「大阪文化を英語で紹介する」スピーチ②、総括	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のあったスピーチについて分析し、その結果を300字程度でノートにまとめておきます。 ・異文化コミュニケーションに関する1000字程度のレポートを作成し、後日提出します。 	1時間
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を振り返ります。 ・「大阪文化を英語で紹介する」スピーチを、クラスの前で行います。 ・発表者以外は、スピーチ内容やプレゼンテーション能力を採点し、結果をフィードバックします。 				

授業科目名	舞台表現演習				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回セリフと動作を考えながら、舞台芝居を体感します。毎回音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱します。ダンスも少しやります。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常において、自分がどう見られているのか、そして、自分はどう見せたいのかを一度立ち止まって考え、客観視をする。もう一人の自分が、自分自身を見つめ、自分の行動、言動にきちんと責任をもって進んで行く。あらゆる角度から、色々なもの、自分自身を見ることが出来ると、視野がどんどん広がり、色々なものが見え、色々な感情が湧いてきて、言葉で伝えたくなくなります。舞台パフォーマンスで培った基本をベースに、お芝居を通し、感性豊かで、心の広い人間性へと成長出来るお手伝いが出来ればと考えております。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と、自覚を持ち進むつよ
汎用的な力		五感の向上と自覚。
1 . DP6. 行動・実践		自分自身のキャラクターについて考える。
2 . DP9. 役割理解・連携行動		相手を思いやりながら、芝居をする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

50%

評価の基準

： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。

授業態度

30%

： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。

最終課題

20%

： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターについて考える。 時代考証、キャラクターについて考える。	それぞれのキャラクターに合った台詞回しの反復練習をする。 4時間
第2回	発声、歌稽古、大芝居：大きく演じる	台詞回しの反復練習をする。 4時間

	衣装や大舞台で演じることを想定したり、観客に伝わる演じ方について考える。		
第3回	発声、歌稽古、大芝居：見せ方 大舞台で伝える演じ方について考える。キャラクターを大きく演じる。	台詞回しの反復練習をする。	4時間
第4回	発声、歌稽古、ダンス：リズムを感じる 体全体を使ってダンスをする。リズムを感じる。	振りの反復練習をする。	4時間
第5回	発声、歌稽古、ダンス：身体で覚える 振りを体で覚え、音楽を感じながら踊る。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回	発声、歌稽古、ダンス：感情をのせて踊ることを考える 音楽にのせて、感情表現しながら踊る。	次の課題に目を通す。	4時間
第7回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターの立ち振る舞いについて考える 大芝居の型について学ぶ。舞台考証や、それぞれのキャラクターの所作、立ち振る舞いについて考える。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第8回	発声、歌稽古、大芝居：所作を大きく振る舞うことを学ぶ 歩き方、挨拶の仕方等、所作を大きく優雅に振る舞うことに、少しずつ慣れる。動作も台詞も大きく演じる。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第9回	発声、歌稽古、大芝居：大胆に演じることを学ぶ 様々な役を演じ分ける。思い切り演じる。役に成り切って唄う。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第10回	発声、歌稽古、大芝居：表現について考える 大きく芝居をする。表現を大きくし、動作も大きくし、流れるように、歌うように、優雅に演じ切る。	次の課題に目を通す。	4時間
第11回	発声、歌稽古、コミカル芝居：キャラクターについて考える 様々なキャラクターについて考える、演じる。	台詞の反復練習をする。	4時間
第12回	発声、歌稽古、コミカル芝居：印象深くする演技について考える 様々なキャラクターを色濃く演じ、印象を残せるように考える。	台詞の反復練習をする。	4時間
第13回	発声、歌稽古、コミカル芝居：スムーズに演じる 相手とのやり取りが、スムーズにいくように、テンポ良く演じる。思い切り演じる。	次の課題に目を通す。	4時間
第14回	発声、古典芝居 古典芝居を演じる。	次の課題に目を通し読み込む。	4時間
第15回	まとめ：舞台表現、感情表現、キャラクター表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じ切る。心と体と感情を一体化して演じる。	授業内容を振り返る。これからの社会生活においても、思い切りが良く、素敵で優しいキャラクター人生を、歩んでいって欲しいです。	4時間

授業科目名	キャリアプランニングⅡ				
担当教員名	広滝道代・佐伯暁子・種子康子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習を織り交ぜながら授業を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

開講時期は短期大学2年生にとって就職活動の真っ最中にあたる。したがって、働くことの意味、キャリアのプランニング（計画）について、「キャリアプランニングⅠ」で学んだ内容を踏まえ、改めて確認するとともに、就職に必要なコミュニケーション力の向上や様々な就活技法の習得を目指す。そして、希望する職業人になることを目標とする。授業構成は、①基本課題、②テーマ課題（講義と個人またはグループワーク）、③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間力、観光をテーマに知識・展開力	情報収集、言語能力、構成能力、共働力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や観光業界の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当場所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

発表	評価の基準
40%	: 独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。
レポート	: 授業内容と就職活動の関連、及び今後のキャリア開発との関連が提示できているかどうかという観点から評価する。
30%	
時事レポート	: 指定の形式に沿って、自己と社会の関係について独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。
30%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・就職部	『就職ガイドブック』	・	・ 年

参考文献等

株式会社ワークアカデミー『書きこみ式「なりたい自分」を目指すシューカツワークブック』2013年、noa出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜日2限（10:40-12:10）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	ガイダンスー働くとはー （担当：広滝） 本授業の概要及び進め方について学ぶ。 また、働くことの意味、人生設計の重要性について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第2回	ビジネスマナー （担当：種子） 1回生での復習も含めて、訪問マナーや電話応対について学ぶ。 電話でのアポイントの取り方や業務としての電話応対、会社訪問時の言葉遣いやマナーなど。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第3回	面接演習1ー面接準備ー （担当：種子） 話の聞き方、答え方、質問の仕方などについて学ぶ。 面接シーンで起こりうる状況への対応や想定質問についての準備を行う。	筆記試験対策問題に取り組む。教科書p90、91の「53の質問」の回答を考える。	4時間
第4回	面接演習2ー模擬面接ー （担当：種子） 模擬面接（個人）を行う。 学生同士で、互いに確認しアドバイスし合う。	筆記試験対策問題に取り組む。教科書p80-89を通読する。	4時間
第5回	企業活動の基本 （担当：種子） 会社組織と役割、業務の流れ等を知る。 基本を知った上で、今何をすべきか、身につけるべきかを考える。	筆記試験対策問題に取り組む。今何をすべきか、身につけるべきかを課題用紙にまとめる。	4時間
第6回	仕事への取り組み方 （担当：種子） 仕事の進め方や指示の受け方、報告・連絡・相談について学ぶ。 ゲーム等を取り入れ、ホウレンソウの重要性を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。ホウレンソウの重要性を課題用紙にまとめる。	4時間
第7回	就業のルール、社会保障・税金 （担当：種子） 労働を取り巻く環境、労働者の義務と権利について学ぶ。 近年の雇用形態や働き方の変化や給与明細の読み方など身近な問題にも触れる。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第8回	協働のためのコミュニケーション （担当：種子） 相乗効果を生むチームの力について考える。 ゲームなどを取り入れ、伝達、情報収集、他者への配慮などを学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第9回	ビジネス会話 （担当：種子） 場に応じた会話の基本、進め方、依頼や断り方などを学ぶ。 ロールプレイングを取り入れて、クレーム対応なども考える。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第10回	企業を取り巻く環境1ー世界と日本ー （担当：種子） 世界と日本（基本的な社会のしくみと時事問題）について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第11回	企業を取り巻く環境2ー暮らしと新しいビジネスー （担当：種子） 暮らしと新しいビジネス（基本的な社会のしくみと時事問題）について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。	4時間
第12回	自分の意見をまとめる （担当：種子） 時事問題などのテーマを設定し、自分の意見をまとめる。 説得力のある表現にするために必要なことを考える。	筆記試験対策問題に取り組む。時事レポートのテーマを考える。	4時間
第13回	自分の意見を文章にする （担当：種子） 説得力のある文章にするために必要な技法を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。時事レポートを完成させる。	4時間
第14回	自分の意見を述べる （担当：種子） 前回までの作業を踏まえて、スピーチを行う。 就活時、入社後のスピーチなどへの準備とする。	筆記試験対策問題に取り組む。スピーチ内容をまとめる。	4時間
第15回	まとめと振り返り （担当：佐伯） 本授業及び実際の就職活動を振り返って、学んだこと、気づいたことを振り返る。	筆記試験対策問題に取り組む。レポートを完成させる。	4時間

授業科目名	オーディオドラマ演習				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	2 声優トライクラン	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	芸術棟ラジオブースでの講義となります。スタジオマナー、マイクワーク等の専門知識、台詞の読解や表現力を身につけるための実践的レッスンをを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、オーディオドラマの台本を使って、映像や動きに頼らず「音声のみ」での表現に特化し、聴き手に「物語を届ける」ための基礎的技術を習得することを目指します。作品の世界観、台詞の持つ意味、キャラクターの性格やバックボーン、感情、言葉の行間に隠された思いなど、雰囲気を読んでしまいがちな表現に意味を見だし、台本を読解する力やより伝わる音声表現方法を追求します。どうすれば聴き手に自分の思いや表現が伝わるのかを考え、実際に収録をしながら実践するレッスンをを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	実践的表現力	抑揚、強調、緩急、間を柔軟に取り入れ、豊かな表現力を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		「聞き手に伝わる表現とは何か？」を考察し、他者に対して正確に伝える力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

40%

受講態度

60%

評価の基準

： 作品、キャラクターに見合った明確な発声で、積極的に表現することができるか、最後までやり通す（表現する）ことができるか等を基準に40点満点で評価する。

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限～5限
場所： 教室または非常勤講師室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画

回	内容	配布テキストを読み込むこと。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（音声収録に際して） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークによってコミュニケーションを図り、チームワークを身につけよう。	配布テキストを読み込むこと。	4時間
第2回	スタジオワーク スタジオマナー、マイクワーク等、専門知識を身につけよう。	感性を鍛え、専門知識を覚えること。	4時間

第3回	マイク実践 実際にマイク前に立って、自分の声を確認しよう。	自分の声を常に意識すること。	4時間
第4回	台本配布 作品全体の流れを掴むため、配布された台本を音読しよう。	台本を何度も読み込むこと。	4時間
第5回	通し読み 作品の世界観を考え、雰囲気を読んでしまいがちな台詞に意味を見いだし表現しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	4時間
第6回	キャラクター キャラクターの性格、関係性など、それぞれのバックボーンを考え表現しよう。	キャラクターに合った表現を考えること。	4時間
第7回	世界観 描かれている世界観を考察し、雰囲気を読んでしまいがちな台詞に意味を見いだし表現しよう。	世界観に見合う表現を考えること。	4時間
第8回	キャストイング 作品の流れ、意図を読み解き、音声のみで伝える為にどう表現すれば良いのかを考察します。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第9回	音声ドラマ表現 絵も動きも見えない音声ドラマという制約の中で、どう表現したら伝わるのかをより深く考察します。	頭の中のイメージを明確に書き出してみること。	4時間
第10回	感情表現 自身の表現する感情・喜怒哀楽が、聴き手にどう伝わっているのかを考察します。	自分の声を何度も聞き込むこと。	4時間
第11回	言葉のキャッチボール 台詞を「読む」のではなく、「会話する」という意識をもって表現しよう。 相手の台詞を聞き、作品の世界観統一を目指します。	作品の世界観を話し合うこと。	4時間
第12回	役を生きる 台詞を「読む」のではなく、作品の中で「生きている」という意識をもって表現しよう。	素と芝居、会話の違いを意識すること。	4時間
第13回	収録・第一グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践収録。 第一グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第14回	収録・第二グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践収録。 第二グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第15回	授業まとめ・発表 成果発表。 収録した作品をチェックしながら反省会。 総括。	イメージ通りの音声表現が出来るよう追求する。	4時間

授業科目名	文学作品講読				
担当教員名	川島秀一				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義中心に、それぞれ作品講読完了時に討論会の実施など				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

授業のテーマは「遠藤周作の文学と現代社会」。この授業では、遠藤が作家として登場する昭和20年代後半から晩年まで、その生涯を概観しながら、作品『海と毒薬』『沈黙』『深い河』を中心に、現代社会とのかかわりを通して、その作品世界を理解していきます。日本人の精神風土の問題、〈愛の同伴者〉としての、遠藤のキリスト教とそのイエス像、遠藤文学のグローバル性などが、問題の中心的課題となります。この1月、『沈黙』が映画化されるなど、世界での遠藤の評価は高く、何よりも、その遠藤文学の面白さを味わいたいと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	具体的な作品読解を通じて、それぞれのテーマを把握し、現代社会との関連を学んでいく。	遠藤周作の文学世界の意味を理解しつつ、現代社会を生きる我々の課題を発見する。
汎用的な力		文学的経験を通じて、自らの生きる課題と問題を発見する。
1．DP4. 課題発見		文学の作品世界を分析し、自らの経験と課題として、問題を発表し、討論することができる。
2．DP7. 完遂		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
授業内での小レポート	30%	講義内容の理解度、作品内容の理解度、本人の問題意識の深度などによって評価する。
最終レポート	40%	遠藤文学の全体像とそのテーマが理解されているかどうか、現代社会の問題に合わせて、自己の課題が発見されているかどうかによって評価する。
受講状況	30%	講読という科目の性格上、各回授業への参加に合わせて、作品についての発表や討論へ積極的に参加し、課題発見への努力がなされているかどうかによって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤周作	・ 海と毒薬	・ 新潮文庫	・ 2012年
遠藤周作	・ 沈黙	・ 新潮文庫	・ 2016年
遠藤周作	・ 深い河	・ 講談社文庫	・ 2016年

参考文献等

個々の作品に沿って遠藤文学の全体像を理解するには、川島秀一著『遠藤周作〈和解〉の物語（増補改訂版）』（和泉書院 2016年3月）が参考になる。他には、佐藤泰正編『鑑賞日本現代文学25 椎名麟三・遠藤周作』（角川書店）が。項目ごとに問題が解説され、理解に役立つ。

履修上の注意・備考・メッセージ

講読という科目の性格上、作品の積極的な読解が前提になります。頑張って、予習を含めて、作品をまずは読むことに努めてほしい。また、テーマに沿った連続した授業となるので、特に欠席のないよう努めること。授業内では、マナーを守り、発表や討論には積極的に参加して下さい。なお、問題をしっかりと共有するためにも、教科書については、必ず手元に入手すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期火曜4限・後期金曜3限
場所： 個人研究室（西館4階）

備考・注意事項：他に、必要に応じて、メールアドレス（rivhide@fancy.ocn.ne.jp）を通じての質問も歓迎です。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業のガイダンス・遠藤文学と戦後という時代についての基本理解 この授業の目的やその意図、中心となる課題など、授業全体の進行について、その問題意識を共有する。授業の中心となる三つの作品についても、導入的紹介を行う。（現代）という時代の状況についても、自由に話し合う。	シラバスをよく確認し、授業での問題を整理する。 4時間
第2回	〈遠藤周作〉という作家の誕生 処女評論『神々と神と』の問題を中心に、遠藤のフランス留学体験を踏まえて、問題を概観する。	『海と毒薬』を読む、「神々と神と」の再読 4時間
第3回	『海と毒薬』の成立と背景 作品の背景を踏まえつつ、処女作『アデンまで』からの展開にも触れ、作品の成立について理解する。自らの〈文学〉についての随筆的資料についても紹介する。	問題の整理と『海と毒薬』の読解の継続 4時間
第4回	『海と毒薬』の人物像とテーマの理解 登場人物の勝呂や戸田という人物像の理解を通じて、日本人の精神風土や〈罪の意識の不在〉というテーマを把握する。	ノートの整理、『沈黙』を読む、 4時間
第5回	『海と毒薬』のまとめ（討論を含めて） 作品のまとめと、例えば〈日本人における罪意識の不在〉というテーマをめぐっての討論（受講者数によっては、グループ討論）	ノートの整理と小レポート（提出）を書く 4時間
第6回	『沈黙』の成立 「わたしが・棄てた・女」などに触れながら（プリントの提示）、『沈黙』の成立について概観する。作品のモチーフがどのように形成されていったかなど、具体的に問題を検討する。	『沈黙』の精読、『わたしが・棄てた・女』を読む努力も。 4時間
第7回	『沈黙』の構成と人物理解 作品の構成を把握し、ロドリゴやキチジローという日本人の人物像の意味について理解する。殉教の場面などに注意しながら、そこに込められた〈神の沈黙〉という作者の問題意識を理解する。合わせて、次第に変化していくロドリゴの心情にも特に注意する。	ノートの整理と『沈黙』精読の継続 4時間
第8回	『沈黙』のテーマと達成 ロドリゴの踏み絵の場面を中心に問題を検討し、〈苦しみの同伴者〉というイエスの像の成立と、そこに提示される作品のテーマについて理解する。	ノートに作品の全体像を整理する。 4時間
第9回	『沈黙』のまとめと（討論を含めて） それまでに読み取ってきた具体的な人物の心情やそこに表現された作者のモチーフやテーマをまとめ、それぞれに課題を設定しながら、それについて討論する（受講者の数によって、グループ討論も考える）。	『沈黙』について的小レポートを書く（提出） 4時間
第10回	『沈黙』から『深い河』へ 『死海のほとり』や『侍』に触れながら、『沈黙』以後のテーマの展開を考える。『死海のほとり』や『侍』についてはプリントを用意する。また、『異邦人の苦悩』という資料などによって、日本人とキリスト教についての遠藤の問題意識を理解する。	『深い河』を読む 4時間
第11回	『深い河』の試みと具体的方法 作品の成立事情や〈魂のリアリズム〉とでも呼ぶべき作品的方法的試みについて分析し、理解する。	『深い河』の精読の継続、『侍』などを読む努力も。 4時間
第12回	『深い河』の人物像（美津子を中心に） 『深い河』独自の構成方法や、特に〈美津子〉という人間の内面を読み取り分析しながら、具体的な人物像の役割について理解する。	問題点の整理と作品読解の継続 4時間
第13回	『深い河』のテーマー〈永遠の愛〉をめぐって 主人公〈大津〉の人生を通して、作者が提示する〈永遠の愛〉の意味について理解する。あわせて、愛の不可能性という問題を中心に、そのことがもつ現代的意味についても考える。	ノートに作品の全体を整理する 4時間
第14回	『深い河』のまとめ（遠藤文学の振り返りと討論） 〈大津〉と〈美津子〉の関係や、〈人生の同伴者〉という遠藤的なイエス像の意味を再度確認しながら、それぞれの課題について討論する。それら問題が、現代に生きる私たちとどのようにかわるのかなどを、発展的に考える。我々が置かれている状況などをしっかりとらえながら、自己の問題として、遠藤文学を捉える。	期末レポートを書く 4時間
第15回	遠藤文学全体の意義とまとめ 授業全体をまとめながら、遠藤文学の現代性とグローバル性について理解する。あわせて、現在における遠藤文学の評価についても理解する。	授業全体の問題を整理する。『深い河』の再読。 4時間

授業科目名	Communications 3				
担当教員名	麻島 徳子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、実用的な状況設定での臨場感あふれるリアルな音声を使い、英会話の自然なスピードやよく使われる表現を学びながら、ディクテーションやシャドーイングによる反復練習をつうじて、実践的な英会話力をつけることを目的とします。各授業では、入国審査や海外で医者にかかる場合など、実際の海外生活で遭遇する場面を具体的に設定したリスニング問題を聴解することで、自分の場合に当てはめて英語で表現する会話トレーニングに移りやすいように促します。また、聴解問題の役に立つ英語表現を会話に応用する練習を繰り返し実践

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英文聴解力

目標：

自然なスピードの英語を理解することができる。文脈にふさわしい語彙や表現を選んで会話することができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト(単語・リスニング・ディクテーション)	50%	毎回、授業の初めに既習単元の単語テストや聴解・ディクテーションを含めたテストを実施します。50点満点の小テストの平均を評価の50%とします。
英作文課題	30%	毎回、授業の最後に学んだ表現を応用してパートナーとダイアログを作成し、次回までに手直しして提出します。一回提出することに2点として、全部で30点満点とします。英作文課題を評価の30%とします。
グループ発表	20%	課題で作成した英会話のダイアログを元に、自分たちの英語でのやりとりをクラスの前で発表します。グループごとに、第5回・第10回・第15回のいずれかの回に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
David Nunan, Noriko Tomioka	Hear Me Out 2	Cengage Learning	2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室（西館5階）

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション、Unit 1 Asking and answering personal information questions	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。・Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた入国審査用の書類を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・空港で身元を証明する表現を学びます。 ・搭乗手続きや入国審査の方法を学びます。 		
第2回	Unit 2 Describing people	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた自分の趣味や好みを説明する英作文を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活市場において、人の性格や好みを伝える語彙を学びます。 ・自分や他人の相性について説明する表現を学びます。 		
第3回	Unit 3 Asking and talking about special events	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 3 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた最近あった記念日の様子についての英作文を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・記念日を祝うイベントについて話す表現を学びます。 ・パーティ会場での自然な会話について学びます。 		
第4回	Unit 4 Asking and talking about school subjects	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。・授業で書いた講師とのダイアログを、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学習する科目や履修方法についての表現を学びます。 ・教員情報からオフィスアワー等について正しく読み取る方法を学びます。 		
第5回	Unit 5 Asking and talking about a trip	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた旅行の感想についてのダイアログを、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行の日程や行き先について説明する表現を学びます。 ・口語的な場所の形容表現を学びます。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 		
第6回	Unit 6 Asking about and describing homes	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 6 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 7 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた住んでみたい物件情報を説明する英作文を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・家の間取りを説明する表現を学びます。 ・賃貸物件情報を正確に読み取る方法を学びます。 		
第7回	Unit 7 Discussing and bargaining for consumer goods	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit7 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 8 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた店員との商品についてのダイアログを、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・値段の交渉をする表現を学びます。 ・商品をすすめる表現を学びます。 ・買い物の際の店員との自然なやり取りの方法を学びます。 		
第8回	Unit 8 Asking about and describing jobs	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いたお互いの仕事について尋ねるダイアログを、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の職業について説明する表現を学びます。 ・求人情報の正しい読み取り方法を学びます。 		
第9回	Unit 9 Asking for information and making excuses	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。・授業で書いたスケジュールの遅延について話し合うダイアログを、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・問い合わせの電話をするための表現を学びます。 ・留守番電話にメッセージを残すための表現を学びます。 ・予定どおりに事が進まなかった場合の申し開きをする表現を学びます。 		
第10回	Unit 10 Asking for and giving tour information	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 10 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。・Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。・授業で書いた観光ツアーの手順を説明する英作文を、課題提出用に書き直しておきます。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行先でツアーガイドが観光案内する表現を学びます。 ・観光地への行き方や情報を尋ねる表現を学びます。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 		

第11回	Unit 11 Placing and taking orders for take-out food	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち帰り用の食べ物を注文する表現を学びます。 ・屋台のメニュー情報を読み取り正しく注文する方法を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 12 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた電話でデリバリーを注文するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第12回	Unit 12 Asking and talking about stress and relaxation	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスの感じ方についての表現を学びます。 ・ストレス解消法について説明する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 13 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた自分のストレス解消法についての英作文を、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第13回	Unit 13 Asking and talking about news stories	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースによく用いられる表現を学びます。 ・事件の詳細について説明する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 13 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 14 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたパートナーが最近最も関心を持ったニュースについての英作文を、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第14回	Unit 14 Talking about people you admire	<ul style="list-style-type: none"> ・尊敬する人を説明する表現を学びます。 ・人の評判を確認する表現を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 14で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 15 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 ・授業で書いたクラス内で尊敬する人物についての英作文を、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第15回	Unit 15 Asking and talking about medical conditions, これまでの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の病状を医者に説明する表現を学びます。 ・診断書の様式から病状を読み取る方法を理解します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 ・前期の授業内容を振り返ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。 	4時間

第1回	オリエンテーション、Unit 1 Making introductions	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。 ・Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたお互いに自己紹介するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・自己紹介する表現を学びます。 ・家族構成を説明する表現を学びます。 ・家系図を読む方法を学びます。 	4時間
第2回	Unit 2 Describing someone's appearance and personal traits	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 2で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたお互いの性格を説明するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・人の容姿や性格を説明する表現を学びます。 ・人の性格を表す多様な語彙を学びます。 	4時間
第3回	Unit 3 Talking about music preferences	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 3で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたお互いの音楽の好みを話し合うダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の好みについて話すための表現を学びます。 ・音楽雑誌など雑誌文化の記事を正確に読み取る方法を学びます。 	4時間
第4回	Unit 4 Describing what places are like	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 4で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 ・授業で書いた行ってみたい都市を話し合うダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる場所を説明する表現を学びます。 ・都市の特徴や違いを比較する表現を学びます。 	4時間
第5回	Unit 5 Asking and answering job interview questions	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた仕事の面接のやりとりを示したダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の面接に用いられる表現を学びます。 ・求人情報を正確に読み取る方法を学びます。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 	4時間
第6回	Unit 6 Asking for directions and describing locations	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 6で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 7 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた道案内のダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・目的地までの行き方を尋ねる、または案内する表現を学びます。 ・地図を用いて、自分の現在地を確認し、目的地までの道筋を尋ねる方法を学びます。 	4時間
第7回	Unit 7 Talking about locations in a store	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 8 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた店員に店舗の場所を確認するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・店舗のフロアマップを説明する表現を学びます。 ・接客現場で日常的に用いられる表現を学びます。 	4時間
第8回	Unit 8 Giving and understanding instructions	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた電化製品の使い方を尋ねるダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電化製品の使用方法を説明する表現を学びます。 ・電化製品の部位や操作手順を表す語彙を学びます。 	4時間
第9回	Unit 9 Talking about your daily routine	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 9で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 ・授業で書いたお互いの普段の生活スタイルについて話し合うダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な行動について説明する表現を学びます。 ・日常的な行動を表すためのコロケーション表現を学びます。 	4時間
第10回	Unit 10 Ordering food and taking orders	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた料理を注文するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物注文する表現を学びます。 ・レストランで接客するのに用いられる表現を学びます。 ・レストランのメニュー表を正確に読み取る方法を学びます。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 		
第11回	<p>Unit 11 Talking about sports</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツについて話す表現を学びます。 ・スポーツ中継を聞いて試合結果を理解する方法を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いたお互いの好きなスポーツについて話すダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第12回	<p>Unit 12 Talking about the weather</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気について話す表現を学びます。 ・天気予報を聞いてその内容を理解する方法を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 13 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた天気について話し合うダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第13回	<p>Unit 13 Describing yourself</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の容姿や趣味を説明する表現を学びます。 ・様々な趣味を説明するために用いられる語彙を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 13 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 14 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・授業で書いた自分の容姿や趣味を伝えるダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第14回	<p>Unit 14 Making and changing appointments</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会う約束をする、または約束の変更をする表現を学びます。 ・スケジュール帳から予定を正確に読み取る方法を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 14で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。 ・Unit 15 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 ・発表担当になっているグループは、クラスで実演する英会話のダイアログを作成し、練習しておきます。 ・授業で書いた会う約束の時間を変更するダイアログを、課題提出用書き直しておきます。 	4時間
第15回	<p>Unit 15 Asking and talking about learning styles、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習スタイルの違いを説明する表現を学びます。 ・学習方法の三つのスタイルの違いを理解します。 ・担当となったグループは、作成した英会話のダイアログをクラスの前で発表します。 ・発表担当ではない学生は、発表者の採点をし、よりよくなるための意見を送ります。 ・前期の授業内容を振り返ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。 	4時間

授業科目名	Communications 5				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	身近なトピックについての語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、パラグラフ・ライティング、原稿作成とプレゼンテーション準備を平行して進める。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

グローバル化が進む社会において、世界共通言語である英語によって、人前で情報を伝えたり、自らの考えを明確に説明することができる英語によるプレゼンテーション能力は必要不可欠なものであり、そのために必要となる英語の基礎知識、英語作文能力の育成を、チャートのパラグラフ・ライティングを行うことにより、段階的に高めていく。各チャプター、セクションにおいてプレゼンテーションの種類、基本的なスキルを学ぶ。最終的に自分でトピックを選び原稿作成、実際のプレゼンテーションに挑戦。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	英語の語彙、文法、構文などにおける基本的な知識を習得することができる。	英語の基礎的な知識を習得してプレゼンテーションを行うことができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		英語による作文能力を高め、プレゼンテーションを行うための基本的なスキルを習得し実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	： 授業最終回に授業で学んだ英語表現とプレゼンテーションスキルを活用した課題に対して30満点で評価する。
小テスト	20%	： 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	： ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Yoshihito Sugita, Richard R. Carakaer	『Writing for Presentations in English (ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎—グローバル社会へのワンステップ—)』	・ 南雲堂	・ 年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4 限
 場所： 西館 5 階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第 1 回	Introduction / Course Orientation 授業の進め方などの説明	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 2 回	Informative Presentations—The History of Our University 自分の大学の歴史	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 3 回	My favorite Country 自分の好きな国・行ってみたい地域 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 4 回	The Four Basic Food Groups 4つの食品群とは	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 5 回	Japan's Education System 日本の教育制度	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 6 回	What Is Science? 科学とは何だろう 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 7 回	Social Networking Services ソーシャルネットワーキングサービスの功罪	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 8 回	Persuasive Presentations—Should Students Wear School Uniforms? 学校の制服は必要か	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 9 回	The Case for Organ Donation 臓器提供について考える 英語映画鑑賞 1	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。映画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 10 回	Global Warming: What Is to Be Done? 地球温暖化—私たちにできること 英語映画鑑賞 2 レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。映画に出てきた英語表現、調査考察についてレポートにまとめる。 4時間
第 11 回	Exercise and Physical Fitness 運動と健康の維持	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 12 回	Overpopulation: Cause and Consequences 人口過多—その原因と結果	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 13 回	Hybrid or Electric? 電気自動車 VS. ハイブリッドカー	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 14 回	Presentation Practice—Informative Presentations 知識を提供するプレゼンテーション演習	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。 4時間
第 15 回	Persuasive Presentations 説得的プレゼンテーション演習	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。レポート作成準備。期末課題の準備学習。 4時間

授業科目名	Communications 6				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	基本的にテキストに沿って進め、適宜、小テストをして定着度の確認を行いながら、宿題等も課す予定。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

英語という生きた言語の成り立ち、歴史を学び、英語使用の拡大、英語の過去、現在、未来を考える。さらに英語の文のしくみ (syntax) について総合的に学び、言語を分析的に学習する方法を身に付ける。基本的にテキストに沿って進め、適宜、小テストをして定着度の確認を行いながら進める。また、テキスト以外にも、様々なメディア、ツールを活用し、英語について多様な角度から理解を深める。最終的に英語でプレゼンテーションを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	英語に対する知識を深め、その成り立ちや歴史を理解することができる。	英語学的な知識を活かして自ら情報分析し考察することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		言語を分析的に学習する方法を理解し、自ら実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30%	: 授業最終回に授業で学んだ英語学的知識を活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
レポート	20%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
プレゼンテーション	10%	: 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
授業外学習状況	10%	: ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
受講状況	10%	: 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹前文夫他	『Fundamental English for College Students: Rules of Syntax』	・ 南雲堂	・ 年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館 5 階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第 1 回	Introduction / Course Orientation 授業の進め方などの説明	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 2 回	英語の歴史について 英語の成り立ち、英語の使用拡大、過去・現在・未来の英語について考える	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。英語の歴史に関してリサーチ、レポート提出 4時間
第 3 回	文型と文の要素 英文の 5 つの型とは？ 文型の成り立ちについて言語学的に分析考察する 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 4 回	文の種類 日本語の疑問文と英語の疑問文の違いは？ 言語学の見地から日本語と英語の文の種類を分析する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 5 回	世界の英語 世界の様々な英語について学ぶ 英語学習の多様な方法について調査する 英語音楽リスニング レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。英語音楽に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 6 回	能動態と受動態 英語と日本語における違いを言語学的に分析調査する 英語映画鑑賞 1	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。映画に出てきた英語表現、疑問点などについて調査する。 4時間
第 7 回	条件と仮定 単なる条件と現実にはありえないことの仮定の違いを言語学的に分析調査する 英語映画鑑賞 2 レポート提出	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。映画に出てきた英語表現、調査考察についてレポートにまとめる。 4時間
第 8 回	英語辞書の使い方 辞書は読むもの、使うもの 様々な辞書を調査し、英語学習においていかに役立てるか考察する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 9 回	準動詞：不定詞 名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞 不定詞について言語学的に分析考察する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 10 回	準動詞：分詞 形容詞の働きを分けあう動詞 分詞の役割を言語学的に分析調査する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 11 回	話法 二種類の語り口 話法について言語学的に分析調査する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 12 回	発音とアクセント 堂々と声に出して発言しよう 英語の多様な発音・アクセントについて調査分析する	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 13 回	Review 復習テストと解説、これまでのまとめ	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。 4時間
第 14 回	Presentation Practice プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備 4時間
第 15 回	Speech Presentations プレゼンテーションを行う	テキストを読み、語彙・文法事項などを確認する。これまでの復習、期末課題準備学習。 4時間

授業科目名	英米の文学				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	テキスト以外にも、様々なメディア、ツールを活用し、英米の文学について多様な角度から理解を深める。最終的に英語でプレゼンテーションを行う。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

英米それぞれの文学の基礎的な知識、歴史、作家、作品について概説し、文学作品と共に、関連する映画、音楽なども交えながら、英米の文学、文化への知識を広げ、理解を深めていく。英米の文学の流れを概観しつつ、様々な特徴をもつ作品を実際に鑑賞し、それぞれの作家、作品への理解を深めていくことを目標とする。

授業では、レポート作成・提出、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、学生の積極的な授業参加を促す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	英米の文学に対する知識を深め、その成り立ちや歴史を理解することができる。	英米文学の知識を活用して、自ら作品を分析し考察することができる。
汎用的な力		
1．DP9.役割理解・連携行動		グループワークにおいて互いの意見を傾聴し、まとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末課題	： 授業最終回に授業で学んだ英米文学の知識を活用した課題のプレゼンテーションに対して30満点で評価する。
30%	
小テスト	： 授業内容の理解度について各10点で評価し、合計20満点とする。
20%	
レポート	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価する。
20%	
プレゼンテーション	： 教材の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。
10%	
授業外学習状況	： ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
10%	
受講状況	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
10%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
エリオット・エンゲル	『世界でいちばん面白い英米文学講義—巨匠たちの知られざる人生』	草思社	年

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4 限
 場所： 西館 5 階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第 1 回	Introduction / Course Orientation 授業の進め方などの説明 授業の目標、学習内容、評価について確認する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 2 回	ジェフリー・チョーサー ジェフリー・チョーサーの人生、歴史、文化背景、カンタベリー物語について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 3 回	ウィリアム・シェイクスピア シェイクスピアの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 4 回	ジェーン・オースティン ジェーン・オースティンの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 5 回	シャーロット・ブロンテ シャーロット・ブロンテの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 6 回	エミリー・ブロンテ エミリー・ブロンテの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 7 回	チャールズ・ディケンズ チャールズ・ディケンズの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 8 回	オスカー・ワイルド オスカー・ワイルドの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 9 回	マーク・トウェイン マーク・トウェインの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 10 回	サー・アーサー・コナン・ドイル サー・アーサー・コナン・ドイルの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 11 回	D・H・ロレンス D・H・ロレンスの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 12 回	F・スコット・フィッツジェラルド F・スコット・フィッツジェラルドの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 13 回	アーネスト・ヘミングウェイ アーネスト・ヘミングウェイの人生、歴史、文化背景、作品について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。 4時間
第 14 回	Presentation Practice プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションの準備。 4時間
第 15 回	Speech Presentations プレゼンテーションを行う。	これまでの復習、期末課題準備学習。 4時間

授業科目名	映像表現				
担当教員名	尾形加奈美				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

この授業では、学際的なトピックに関する英語の記事や映像を考察し、その内容に基づいて英語でのディスカッションを実践しながら、英語力の向上と論理的思考力の育成を目指す。また、クラス内プレゼンテーションを実施し、他者に対して自らの意見を明確かつ論理的に表現することが出来る英語でのコミュニケーション能力を養成する。トピックは心理学、歴史、自然科学などで、ナショナルジオグラフィックから抜粋されたものである。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	英語の知識	英語をツールとして情報を読み取り、分析することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語コミュニケーション能力	英語をツールとして、自らの考えを論理的にまとめ、他者へ伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		与えられたトピックに関して他者と議論することで、自らの考えを発展させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	20%	: 授業内で小テストを実施する。主に授業で扱う語彙が評価対象である。小テストの範囲は初回授業で提示する。
レポート	30%	: ①プレゼンテーション準備としてプレゼンテーションの構成や内容をレポート作成してもらう。 ②他者と自己のプレゼンテーションの振り返りをレポートとして提出してもらう。レポートの形式は授業内で説明する。
授業への貢献度	30%	: クラス内ディスカッションの内容や取り組み姿勢を評価する。
プレゼンテーション	20%	: 評価観点は、①プレゼンテーション内容②プレゼンテーションスキル③英語運用能力の3つである。この3つの観点は各回の授業内で段階的にトレーニングする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
BeckyTraverChase, KristinLJohansen, PaulMacIntyre	・ Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking	・ CENGAGE Learning	・ 2013年

参考文献等

課題に取り組む上で英文法の知識が必要になった時は、石黒昭博『総合英語Forest 7th Edition』（桐原書店、2013年）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける(ogata@osaka-seikei.ac.jp)。メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画		授業外学習課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	Course Orientation - An introduction to the course - Self-introduction	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for an interview 4時間
第2回	Living for work; Working to Live Doing an interview	- Studying in preparation for a quiz - Analyzing the target audience for presentation 4時間
第3回	Good Times, Good Feelings I Giving an informal presentation	- Studying in preparation for a quiz - Listing topics for presentation 4時間
第4回	Good Times, Good Feelings II Giving a presentation	- Studying in preparation for a quiz - Choosing a topic for presentation 4時間
第5回	Learning from the Past I Talking about the past	- Studying in preparation for a quiz - Deciding upon main points of presentation 4時間
第6回	Learning from the Past II Using notes in a presentation	- Studying in preparation for a quiz - Ordering the presentation contents 4時間
第7回	Weather and Climate I Making an itinerary	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第8回	Weather and Climate II Discussing ways to reduce greenhouse gases	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第9回	Focus on Food I Describing a favorite food	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第10回	Focus on Food II Creating a description with interesting details	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第11回	Housing I Agreeing and disagreeing	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第12回	Housing II Holding a meeting with a real estate agent	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第13回	Exploring Space I Making predictions	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第14回	Exploring Space II Planning a trip to an Astronomical site	- Studying in preparation for a quiz - Preparing for presentation 4時間
第15回	Presentation - Giving a presentation - Reflecting on lessons to date	Writing up a reflective report of the presentation 4時間

授業科目名	人間関係論				
担当教員名	鎌田次郎				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本授業では、脳科学や動物行動学、進化心理学などの生物学的観点から、臨床心理学や社会心理学などにわたる心理学関連の広い領域に基づいて、人間関係についての考え方を理解することを目的としています。人間の表現について、心理学的研究から学び、それが生じる要因について、理解します。

予習としてしているところは、図書館に限らずネット検索で調べても構いません。講義中に質問しますので、授業への積極的な参加を期待しています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

心理学の領域から人間関係を理解する。

目標：

心理学的研究から人の表現について考えることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

さまざまな人間関係における課題を深く理解し、適切な関わり方を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

受講状況

評価の基準

： 教員との授業内でのやりとりや課題への取組状況、受講態度について、独自のルーブリックを用いて評価する。

40%

試験

： 本講義で学んだ専門的知識を正しく理解しているかについて、評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時間に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 第5研究室

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業の前後にも受け付けます。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>人間関係の生物学的基礎：敵と味方</p> <p>繁殖と闘争のための行動進化とその行動傾向の内分泌脳科学を学び、慣れない関係と親しい関係におけるわれわれの反応の差を理解する。また互いに安心感を与えるために発展した挨拶や礼儀の文化も理解する。</p>	<p>「動物の養育行動」「動物の捕食回避戦略」「オキシトシン」「アドレナリン」「パーソナルスペース」などの語を調べておく。電車やエレベーターなどで出会った見知らぬ人に自分はどのような態度や行動をとっているか考えておく</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>人間関係の生物学的基礎：社会脳の進化</p> <p>人間の持つ高度な知的能力は複雑な社会的環境への適応として進化したという仮説がある。子どもは確かに早くから損得に敏感である。互恵的利他性と駆け引きの能力によってヒトの知性は進化したのかもしれない。その理論の立場から社会ルールの成り立ちを考える。</p>	<p>「政治学者のマキャベリ」「マキャベリの知性」「社会脳」について調べておく。</p> <p>4時間</p>

第3回	信頼関係形成における基本的信頼と成人愛着スタイル <p>円滑なコミュニケーションのためにはその相手との信頼関係の醸成が大切。礼儀や挨拶の文化もそのために発展したが、他者への信頼感のもちやすさには個人差がある。それを発達心理学から理解する。</p>	「基本的信頼」「基本的不信」「内的作業モデル」「成人愛着スタイル」「安定愛着」「アンビバレント」「回避」などの語を調べておく。	4時間
第4回	信頼関係と自己開示 <p>自分を相手に知ってもらった方が信頼関係を築きやすいが、打ち明け話に相手がひるんでしまって逆効果のこともある。人には他者に見せている自分と他者には秘密にしている自分がある。自己意識の成り立ちを理解する。メディアによる一方開示の問題も知る。</p>	「自己開示」「私的自己意識」「公的自己意識」「自己意識と他者意識」などの語を調べておく。	4時間
第5回	対人印象と偏見の心理 <p>第一印象で他者のとらえ方が固定してしまう決めつけの強い人と柔軟な人がいる。それをあいまいさ耐性という概念から理解する。印象形成と印象変容をもたらす要因や偏見と差別の心理についても理解する。</p>	「曖昧さ耐性」「あいまいさへの非寛容」「印象形成」「印象変容」について調べておく。何が人の第一印象を決めていると思うか、差別や偏見についてどう思うか、各自考えておく。	4時間
第6回	愛とは？家族関係、恋愛関係、師弟愛、友愛 <p>「愛」という語は文学的であいまいなため、学問にはなじまない。それでは愛は心理学的にどのように考えられるのかを理解し、それぞれの愛のあり方を考えていただく。</p>	「ルービンのloveとlike」や「ボウルビーの愛着理論」について調べておく。望ましい家族愛や、望ましい先輩後輩関係、友人関係についてそれぞれ考えておく。	4時間
第7回	ひがみ・そねみ・ねたみ・うらみ・つらみの心理学 <p>親子や夫婦、仲間関係で生じる嫉妬などのネガティブな感情はその人間関係を壊しやすい。その心理についての心理学的研究から学んで、それが生じる原因を理解する。</p>	ネットなどで「嫉妬」「ひがみ」「そねみ」「ねたみ」の違いを調べておく。	4時間
第8回	共感と人間関係 <p>心理学や脳科学が明らかにしてきた共感や動作模倣、情動的影響について理解し、これによる人間関係のありかたについて考えていただく。</p>	「模倣」「モデリング」「観察学習」「共感」「ミラーニューロン」などの語を調べておく。学業における実習の意義や、上に立つ者の態度からの影響の怖さについてそれぞれ考えておく。	4時間
第9回	言語認知とコミュニケーション理解 <p>ひとは聴きたいようにしか聞いていないことがある。認知はすべて頭に既存の情報(知識)を当てはめて行われている。その情報をスキーマという。コミュニケーション理解を認知心理学的に理解する。</p>	「スキーマ」「確信バイアス」などの語について調べておく	4時間
第10回	権威主義的人格と民主的人格 <p>自分の子どもや友人を自分の思い通りに支配したがる人がいる。だれしも人が自分の思い通りにならないと困惑する。しかし、人類は民主的な解決方法を構築してきた。人間関係でどのようにそれを活用するかを考える。</p>	「権威主義的人格」について調べておく	4時間
第11回	社会性発達障害 <p>自閉症の発見によって社会的能力に関係する脳部位が推測されることになった。社会性発達障害とはどういうものかを理解するとともに、コミュニケーション理解において聴覚優位の人や視覚優位の人がいることを知る。</p>	「自閉症スペクトラム障害」「社会脳」「社会性発達障害」「広汎性発達障害」「聴覚優位と視覚優位」などの語を調べておく。	4時間
第12回	ソーシャル・スキルとは <p>障害とまで診断されないまでも、人間関係が苦手な子どもや大人がいる。心理臨床分野ではそういう人たちのための訓練プログラムを開発して支援を行っている。そのプログラムをもとにソーシャル・スキルとは何かを理解する。</p>	人間関係についての自分の悩みや相談を受けた悩みについて振り返っておく。	4時間
第13回	心理臨床分野から学ぶコミュニケーション術 <p>会話で自分の言いたいことばかり言って相手の話を聞かない人は好まれない。相手の話を否定したり批判してばかりでも相手は話しに来なくなる。カウンセラーの極意としての「聞き上手」の方法を理解する。</p>	「傾聴」について調べ、第8講で学んだ「共感」を復習しておき、この授業でカウンセリングにおける共感との違いを考える。	4時間
第14回	まとめ1 <p>これまでの講義で補足すべき事項について講義するとともに、第1講から第6講までに学んだ理論と概念を振り返り、その理解を問う。</p>	第1講から第6講までに学んだ理論と概念を復習しておく。	4時間
第15回	まとめ2 <p>第7講から第13講でまなんだ理論と概念を振り返り、その理解を問う。</p>	第7講から第13講までに学んだ理論と概念を復習しておく。	4時間
第回			4時間

授業科目名	欧米の文化				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

明治時代、文明開化により流れ込んできた西洋文化の波が日本の文化に大きな影響を及ぼしました。小説もそのひとつです。夏目漱石をはじめとする明治の文豪たちは、西洋の小説に触れ、それを自分たちの文体に取り込んでいきました。本科目では、日本の小説に影響を与えた西洋の小説のなかでも、他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代小説が誕生したといわれる18世紀イギリスに注目し、それがどのような観点で「誕生」といえるのか、またどのような歴史的な過程を経て成立していったのかについて、具体的な小説作品を取り上げながら見ていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	18世紀イギリス小説史に関する知識	18世紀イギリスにおいて近代小説が誕生した歴史的背景を理解し、そうした散文芸術の文化的意義について考察することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		課題図書を読み、各作品が成立した歴史的文脈を理解した上で、現代における文学の衰退について問題点を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト	60%	： 毎回(第6回、第10回、第15回は除く)の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、12回全部で評価の60%とします。
論述型の小レポート	30%	： 参照不可の論述型の小レポート(第6回、第10回、第15回の授業内に実施)について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、3回全部で評価の30%とします。
意見文	10%	： 第15回の講義のあと、課題図書のなかから一冊選び、その作品についての自分の意見文を提出してもらいます。講義との関連性を持った意見文であるかどうかを基準に採点します。意見文は評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ① 『ロビンソン・クルーソー(上)(下)』、平井正徳(訳)、岩波文庫(1967)
- ② 『ガリヴァー旅行記』、平井正徳(訳)、岩波文庫(1980)
- ③ 『パミラ、あるいは淑徳の報い』、原田範行(訳)、研究社(2011)
- ④ 『トム・ジョーンズ(一)(二)(三)(四)』、朱牟田夏雄(訳)、岩波文庫(1952)
- ⑤ 『トリストラム・シャンディ(上)(中)(下)』、朱牟田夏雄(訳)、岩波文庫(1969)
- ⑥ 『オトランド城』、千葉康樹(訳)、研究社(2012)
- ⑦ 『フランケンシュタイン』、小林章夫(訳)、光文社(2010)
- ⑧ 『ノーザンガー・アビー』、中野康司(訳)、ちくま文庫(2009)
- ⑨ 『高慢と偏見』、小尾英佐(訳)、光文社(2011)
- ⑩ 『ジェイン・エア(上)(下)』、小尾英佐(訳)、光文社(2006)
- ⑪ 『嵐が丘(上)(下)』、小野寺健(訳)、光文社(2010)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室(西館5階)

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>はじめに：イギリス近代小説の「誕生」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景を概観します。 ・課題図書を指示します。 	4時間
第2回	<p>黎明期①：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー漂流記』(1719)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説を読みます。 ・デフォーの経歴と作品との関係を学びます。 ・ジャーナリズムと小説の起こりの関連性を学びます。 	4時間
第3回	<p>黎明期②：ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』(1726)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説をもうひとつ読みます。 ・デフォーのライバル的存在であったスウィフトの経歴とその作品を学びます。 ・小説と現実の関連性を学びます。 	4時間
第4回	<p>勃興期①：サミュエル・リチャードソン『パミラ』(1740)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の父と呼ばれるリチャードソンの経歴と作品について学びます。 ・書簡体小説とは何かを学びます。 	4時間
第5回	<p>勃興期②：ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』(1749)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リチャードソンのライバル的存在であったフィールディングの経歴と作品について学びます。 ・三人称小説という小説の語りの技法について学びます。 	4時間
第6回	<p>リチャードソンとフィールディング：小説技法の比較、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リチャードソンとフィールディングの語りの技法のメリット、デメリットについて学びます。 ・第1～5回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 	4時間
第7回	<p>展開期①：ローレンス・スターン『トリストラム・シャンディ』(1759-67)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説が勃興した以降の小説の展開を見ていきます。 ・メタ小説とよばれる作品『トリストラム・シャンディ』の内容と、スターンの経歴について学びます。 ・メタ小説とは何かを理解します。 	4時間
第8回	<p>展開期②：ホレス・ウォルポール『オトランド城』(1765)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴシック・ロマンスというジャンルの流行について学びます。 ・ゴシック・ロマンスの火付け役であるウォルポールの経歴と、その作品について学びます。 	4時間
第9回	<p>展開期③：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴシック・ロマンスの流行と『フランケンシュタイン』の関連性を学びます。 ・メアリー・シェリーの経歴とその作品の関係について学びます。 	4時間
第10回	<p>ゴシック・ロマンスとオースティン：小説というジャンル意識の確立、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴシック・ロマンスの流行とオースティン作品の関連性について学びます。 ・第6～9回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 	4時間
第11回	<p>円熟期①：ジェイン・オースティン『ノーザンガー・アビー』(1818)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『高慢と偏見』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第11回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> 近代小説の母と呼ばれるオースティンの経歴と作品について学びます。 ゴシック・ロマンスという形式とオースティンの作風との関連性について学びます。 		
第12回	<p>円熟期②：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』（1813）</p> <ul style="list-style-type: none"> オースティンの代表作『高慢と偏見』の内容を学びます。 オースティンが確立した自由間接話法という小説技法について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 『ジェイン・エア』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第12回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間
第13回	<p>円熟期③：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小説というジャンルが確立した以降の発展を辿っていきます。 自伝的小説といわれる『ジェイン・エア』とシャーロット・ブロンテの経歴について学びます。 小説のテーマ性というものが生まれてきた過程を辿ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 『嵐が丘』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第13回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間
第14回	<p>円熟期④：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』（1847）</p> <ul style="list-style-type: none"> シャーロット・ブロンテの妹、エミリ・ブロンテの生涯唯一の作品を読みます。 エミリ・ブロンテとロマン主義の関連性について学びます。 『嵐が丘』における小説のテーマ性の追求について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～14回の講義内容について、それぞれ300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 第15回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。 	4時間
第15回	<p>総括：イギリス近代小説誕生の文化的意義、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの講義内容を総括し、イギリス近代小説が生まれた背景とその過程を整理します。 第1～14回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義内で取り扱った作品の中で興味を持ったものは、翻訳や映像化されたものをつうじて、実際に鑑賞してみることに。 	4時間